

令和6年度 第2回金沢市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会

日時：令和6年7月16日（火）15:00～18:00

会場：教育プラザ富樫 121・122 研修室

1. 開会挨拶

（事務局） 委員の皆さま、本日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。ただ今より、第2回金沢市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会を開催いたします。初めに、教育長が開会の挨拶を申し上げます。

（教育長） 委員の皆さま、こんにちは。本日は大変ご多用の中、第2回目の選定委員会にご出席いただきまして、大変ありがとうございます。

さて、早いもので1回目は5月24日でありました。この会場で開催させていただき、選定委員会の皆さまには、来年度から使用する中学校用の教科書の選定についての諮問を行わせていただきました。その折に、各中学校の専門性を大変豊かに有する、各教科を代表する57名の先生方による調査委員会、また各中学校における研究委員会の二つで組織することについてご了解いただきまして、各委員会の方で調査研究を進めていただきました。

今日お集まりの選定委員の皆さまにおかれましても、大変膨大な量の教科書にたくさん目を通していただきまして、きっとそれぞれの教科等についてもご自分のお考えをまとめていただいたのではないかと思います。今日はそれぞれのご意見を一番大事にさせていただきながら、調査委員会、研究委員会等の取りまとめ、また市民の方々の声も参考に、まずは4種目それぞれの推薦いただく教科書についてご議論を頂戴したいと思っております。

多くの発行者がたくさんの教科書を出版しております。それぞれの発行者の教科書についてのご意見を基にご推薦を賜ることができればうれしいなと思っております。暑い夏でありますので、健康に留意いただきながら、たくさんのご意見を頂戴したいと思っております。

まず今日におかれましては4種目になりますが、たくさんのご示唆を頂戴したいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいいたします。金沢の子供にとって良い教科書をご推薦いただきたい、そのことをお願い申し上げます。開会のご挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいいたします。

（事務局） それでは、本日の資料を確認させていただきます。資料の2ページをご覧ください。資料Aの教科用図書調査研究報告書として、金沢市の採択方針に基づき項目を選定しました調査研究報告書A-1と、学習指導要領に示された内容・領域等に基づき項目を設定した調査研究報告書A-2、資料Bの「各中学校における教科用図書研究委員会_調査研究報告書」、資料C「教科書展示会に寄せられた市民の意見のまとめ」、常設展示場分と移動展示場分があります。資料D「教科書採択に係る要望書等」、併せまして「石川県教科用図書選定資料」となります。これまでに配付してあります第1回選定委員会資料や教科書編修趣意書、学習指導要領も参考資料としていただければと思っております。資料の過不足等はありませんでしょうか。

なお、資料につきましては選定委員会の性格上、第5回の選定委員会終了後に回収させていただきます。

また第1回選定委員会でもお伝えしたとおり、教科書採択に関わる情報につきましては、審議中は非公開となっております。採択決定後は選定委員名と採択結果、採択理由、調査資料、選定委員会の議事録について公開する予定です。このため、本会議におきましては会議録作成のため録音させていただきますことをどうぞご了承ください。

それでは、この後の議事進行を選定委員長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

(選定委員長) 皆さん、こんにちは。今回は、令和7年度から令和10年度までの4年間使用する中学校教科用図書の採択になります。金沢市の中学生にとって最も適切な教科書が採択されるよう答申を行いたいと思います。委員の皆さま、よろしくお願いいたします。

それでは、資料1ページの次第に沿いまして進めてまいりたいと思います。初めに事務局より、これまでの経緯や本日の資料の見方について説明させていただきます。貞廣課長、よろしくお願いいたします。

2. 報告

(学校指導課長) それでは、本日の委員会に至る経緯について報告させていただきます。お手元の資料3ページをご覧ください。

5月24日の第1回選定委員会を受けまして、5月27日に第1回調査委員会を開催いたしました。その折に、調査委員の皆さまには教科書を持ち帰っていただき、調査研究を進めていただきました。約4週間の調査研究期間を経て、種目ごとに日を設定し、6月24日、25日に第2回調査委員会を開催いたしました。それまでの調査研究の結果を調査研究報告書A-1、A-2としてまとめていただきました。

また、金沢市立中学校24校1分校にもそれぞれ研究委員会を立ち上げ、調査していただきました。その調査研究の結果をまとめたものが資料Bの調査研究報告書でございます。

さらに、各中学校の調査研究のため、市民・保護者の方々に教科書を見ていただくために教科書展示会を開催いたしました。金沢市教育プラザ富樫において、6月7～24日の18日間、常設展示を行うとともに、金沢市立中学校の24校1分校におきましては6月6～21日、各学校3日間ずつ移動展示を行いました。

なお、石川県では6月14～27日を教科書展示期間とし、金沢市内では教育プラザ富樫のほか、石川県教員総合研修センター、石川県庁に教科書を展示しておりました。これらの展示会におきましては意見箱を設置し、広く市民や保護者の方々にも閲覧していただくとともに、意見を寄せていただいております。

資料の4ページをご覧ください。金沢市の教科書展示会場に訪れた人数を載せてあります。期間中、教育プラザには一般の方々が116名来てくださいました。教職員等も含めますと、プラザでは129名の方が教科書をご覧になりました。各学校での移動展示には、一般の方が89名、教職員等を合わせると457名の方が教科書をご覧になりました。両展示場を合わせますと一般の方が205名、教職員等を合わせると586名の方が教科書をご覧にな

ったこととなります。

続きまして、本日配付しました資料の内容についてご説明申し上げます。資料5ページとファイルの資料Aをご覧ください。

資料Aの教科用図書調査委員会調査研究報告書は、先ほどもお伝えしましたが教科用図書調査委員会が約4週間にわたって綿密に調査研究を実施して作成した報告書となります。

国語を例に説明させていただきます。教科用図書調査委員会調査研究報告書(共通)A-1と、教科用図書調査委員会調査研究報告書(教科)A-2の2種類がございます。

調査研究報告書(共通)A-1をご覧ください。第1回選定委員会でお示ししたとおり、金沢市の採択方針に基づき、九つの調査研究項目において調査研究をした報告書となっております。ただし、英語につきましては十の調査研究項目、「特別の教科 道徳」においては七つの調査研究項目で調査研究した結果の報告書となっております。発行者は左から発行者番号順に略称で掲載してあります。

続きまして、調査研究報告書(教科)A-2をご覧ください。これは各教科の特徴がより一層明確になるよう、学習指導要領に示された内容などの扱いやその記載内容、分量等が教科書にどのように反映されているか、比較検討できるよう作成した報告書となります。各教科の学習内容を学習指導要領に基づき、領域、分野、または単元別に分類したものを調査研究項目としております。この調査研究項目は、種目によって項目数が異なっているため、それぞれの種目を審議する際にはご留意願います。

報告書A-1および報告書A-2ともに、調査研究項目に対する発行者の優れた点が記載されております。

続きまして、資料Bをご覧ください。こちらは、各中学校における教科用図書研究委員会調査研究報告書となります。先ほども申したとおり、金沢市立の全ての中学校24校1分校で調査研究を行い、各発行者の優れた点を中心に挙げていただき、それを事務局で取りまとめたものです。

続きまして、資料Cをご覧ください。教科書展示会に寄せられた市民の意見をまとめた資料となります。ご意見、ご感想が、常設展示場には114枚、移動展示場には64枚寄せられました。それらをまとめたものが資料Cとなります。また、各発行者に関するご意見等もありました。

続きまして資料Dは、各団体等から教育委員会に提出されております教科書採択に係る要望書等となります。

最後に、石川県教科用図書選定資料も配付させていただいております。これは参考資料として石川県教育委員会が作成し、教科書採択のための指導・助言・援助として金沢市に送付されたものです。発行者ごとに特徴、特記すべき事項等が書かれております。こちらの資料につきましても、審議の際に参考にしていただければと思います。

以上で事務局からの報告と説明を終わります。

(選定委員長) ありがとうございます。それでは、ただ今の報告に対しまして質問がございましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。また途中でありましたらご指摘いただければと思います。

それでは、この後の審議の進め方を提案させていただきます。まず初めに教科用図書調

査委員会の委員長から、教科書を使いながら調査研究報告書Aの説明をしていただきます。印などを付けながらお聞きいただければと思います。説明を聞いて不明な点や説明を求めたい部分がありましたら質問してください。続いて、資料Bと資料Cについて事務局より報告していただきます。その際、委員の皆さんは、県の選定資料などにつきましても併せてご覧いただければと思います。

その後で選定委員のわれわれが、調査委員会からの報告や各学校における研究報告、教科書展示会における市民・保護者の意見を踏まえ、各発行者の教科書がどういう評価をされたか、その評価が妥当かどうかを確認して、審議を行いたいと思います。審議の中で調査委員長に確認したいことなどがありましたら、調査委員長に再度質問や説明を求めることができます。先ほどの事務局の説明にもありましたが、審議の際には、これらの資料の中でも、教科用図書調査委員会が約1カ月間にわたって綿密に調査研究を実施して作成された資料Aを中心に審議を行い、選定委員会として付け加えたらよいと考える意見や修正・削除したらよいと考える意見を出していただき、教育委員会に提出する答申書を作成していきたいと思います。その際、特に意見のなかった内容についてはそのまま答申書に記載していきたいと思いますが、それでよろしいでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) ありがとうございます。また答申書につきましては、調査委員会の報告書を参考に、選定委員の方々のご意見も加えて、全ての発行者について特徴等をまとめたものを本選定委員会の答申書として作成したいと考えております。文面については、本選定委員会の記録を基に委員会終了後、委員長と副委員長が責任をもって内容を吟味し、事務局に作成を依頼したいと思います。

詳細な内容につきましては委員長に一任ということをお願いしたいと思うのですが、よろしいでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) ありがとうございます。なお、教育委員会での説明の際には、本選定委員会での審議を踏まえ、評価の高い発行者を中心に、答申書を基に説明を行うこととしておりますので、調査委員会の報告書、研究委員会の報告書、市民の意見等を踏まえて、ご自身の調査結果についても率直なご意見をお願いしたいと思います。教育委員会では、口頭になる部分もごさいますが、皆さまから指摘があったことについても極力報告させていただければと思っております。今の進め方につきまして何かご質問やご意見はございますか。よろしいでしょうか。

3. 種目ごとに審議

(選定委員長) それでは、審議に移りたいと思いますが、本日は、次第にもありますように、音楽一般から順に種目について審議する予定です。

①音楽一般

(選定委員長) まず、「音楽一般」についてです。調査委員長に入ってください。お願いします。ご準備ができましたらご報告をお願いしたいと思います。

(音楽一般調査委員長) では、よろしくお願いします。ただ今より、音楽一般の教科書の調査結果について報告いたします。音楽一般につきましては、2者の発行者について調査いたしました。

まずは教育出版から説明いたします。調査研究報告書 A-1 の 4 の項目についてです。音楽科の特質である伝統と文化を尊重する態度や道徳性を養うための内容について工夫がされておりまして。

例として、1年の教科書 60 ページを見ていただきます。ここの活動は、「日本とアジアの声によるさまざまな表現」について調べてみるというページになっています。「日本の民謡」あるいは「天台声明」とアジアの地域で歌われている民謡や合唱について、それぞれの音楽の特徴を比較する学習になっています。「聴き取ったこと」「感じ取ったこと」「調べたこと・わかったこと」という形で、実際に考えを整理するポイントに基づいて聴き取ったことや感じ取ったことをまとめることで、音楽の共通性や固有性を感じ取ることができるように工夫されています。また共通点や相違点について考え、友達に紹介する場も設定されているので、友達に紹介することで、わが国の音楽文化を尊重し、他国の音楽文化も同時に尊重するという心を養うことができます。

体験するという学習の中で、2・3年生上の教科書の 57 ページに、能の「羽衣」の東歌の部分を読んで体験してみようという活動があります。能の謡を実際に体験することで子供たちの関心を高められるといった優れた特長があるように思っております。

その他にも 2、3 の項目についても優れた内容が見られました。詳しくは報告書の内容をご覧ください。

続きまして、調査報告書 A-2 についてです。A-2 の 2 の項目の創作分野に関するところは、2・3年生下の教科書 32 ページに載っている「音のスケッチ」で紹介したいと思います。題名にあるのですけれども、ここでは地域の名物や名所を紹介する「CM ソングをつくろう」という内容の授業になっていて、実際に言葉のリズムや抑揚を捉えて言葉をつなげて創作する活動となっています。例えば活動 1 で「旋律をつくってみよう」、活動 2 で「つくった旋律を繰り返して CM ソングを完成させよう」というふうに手順が丁寧に示されていることで、順を追って創作活動を行うことができます。また、CM ソングという比較的小児たちの興味を引くテーマを用いていますので、主体的に取り組むことができるように工夫されているのではないかと感じております。教育出版に関しては以上です。

続いて教育芸術社について説明します。調査報告書 A-1 の 2 の項目についてです。音楽においてつけたい力である思考力・判断力・表現力等を育むために、学習の手順が大変丁寧に示されており、楽曲に関連する、音楽を形づくっている要素と関連付けながら、課題意識をもちながら学習に取り組むことができるように工夫されています。

1年生の教科書の「学びのコンパス 自分たちの表現を工夫しよう」というページでは、合唱曲「夢の世界を」を用いて、旋律の A の部分と B の部分について実際に演奏を聴いた

り歌ったりしながら、気付いたことをまとめる活動があります。文章でしか書かれていませんが、その後に聴いて確かめることと歌って確かめることの両方の活動を行うことで、自分たちの表現したい音にするためにどのような工夫をしたらよいかということについて主体的に話し合い、試行錯誤しながら表現活動に取り組むことができます。それをまとめるのが3番のワークシートの部分となっております。気付いたこと、感じたこと、どのように歌いたいかの矢印が思考の流れの部分であると考えられます。

それから、音楽に関する注目するポイントに関しましては、共通事項である「音楽を形づくっている要素」が示されています。ポイントを絞って考えを深めたり、あるいは吹き出しにいろいろな考え方が書かれていますので、そのヒントを基に考えをより深めたりできるように工夫されています。このように、感じ取ったことをどのように歌いたいかに還元するというような考え方は、この曲にとどまらず合唱コンクールの自由曲などでも用いることができ、幅広い音楽活動の中で活用することができるのではという点で優れていると感じております。

それから教育芸術社に関しましては、二次元コードを読み取ると伴奏のカラオケピアノが流れるようになっております。そのため、ピアノ伴奏がなくても、グループで音をかけながら歌って試行錯誤ができるようになっています。

この他にも、項目1、3、4、5、6、9、10と多くの項目において優れた内容が見られます。また詳しくは報告書をご覧ください。

続いて、調査報告A-2の2の項目になります。2・3年生下の教科書の28ページをご覧ください。創作に関する「My Melody」では、創作活動における課題や条件が具体的に明示されています。課題や条件は上の方になっております。その具体的な内容として、例えば音楽用語で、順番に進む順次進行や音が飛ぶ跳躍進行についても説明されていますので、実際に音のつながり方についても考えやすくなっています。また、吹き出しのヒントになっている、速度の違いを選んだり、和音で使われている音を実際を選択したりしながらワークシートに音を記入することができ、実際に目で確認しながら創作活動が行えるようになっております。

また、このページの二次元コードには「創作ツール」が含まれております。今までは、例えばリコーダーの音を出しながら自分でワークシートに書いて確認する授業が多かったのですが、この「創作ツール」を使うと実際にワークシートに書き込むことと同じことができ、自分で音を再生して試行錯誤しながら創作活動を行う手立てが大変工夫されております。

その他、1、3の項目においても優れた内容が見られました。詳しくは報告書をご覧ください。以上で音楽一般の説明を終わります。

(選定委員長) ありがとうございます。では、委員の皆さま、ご質問等がありましたら調査委員長をお願いします。

(選定委員) 今ほど優れた点についての説明がたくさんあったのですが、多くの中学校で合唱コンクールが大事な教育活動として位置付いているのではないかなと思います。その指導に当たって、先ほど教育芸術社の指導内容ではどのように歌いたいかまで指導でき

るというご説明があったわけですが、資料 A-2 の 1 の項目、歌唱に関する事項では、2 者の書かれている内容に少し差異があるように見受けられました。どんな点で違うのか、どちらが優れているのかというところをもう少し聞かせていただければと思います。お願いします。

(音楽一般調査委員長) どちらの教科書も歌唱に関するさまざまな技能を身に付けるための手だては取られておりましたが、大きな点で何に差があったかという点、発達段階に応じた歌唱のポイントが明確に示されていたのが教育芸術社の方ではなかったかと思えます。

教育出版については 1 年の教科書 12 ページをご覧ください、「Sing! Sing!」というページがあります。実際の姿勢をチェックポイントで確認できる点や、母音の発音について口の形がイラストで表示されている点は大変分かりやすいと調査委員会の話し合いの中でも出ました。

一方、教育芸術社については「My Voice!」という項目が、3 学年全てに掲載されております。2・3 年下の教科書 18 ページをご覧ください。こちらは 3 年生の学習でメインに使っているのですが、同じく姿勢・呼吸についての項目が書かれております。1 年生の教科書から姿勢に関するポイントは書かれており、息の流れが 2 年生で、そして響かせ方は 3 年生でと、段階を追ってポイントの数も増えており、実際に今までの学年で習ったことを確認しながら学習が進められるようになっております。

また、教育芸術社の方が優れていると感じた点としては、「花の街」という歌唱教材の後ろに教材とリンクしながら表示されているので、実際に歌うときにこの歌を歌うならどんなことを必要としているかということ具体的に考えながら活動に取り入れられるのではないかという点で、差があったのではないかというふうに話し合われました。以上です。

(選定委員) どうもありがとうございます。発達段階に応じた配慮というところがとてもよく分かりました。ありがとうございます。

(選定委員長) ありがとうございます。それでは、他に質問はございませんでしょうか。

では、私の方から。最近、子供たちもいろいろな媒体で曲を聞いたりすると思うのです。A-1 の 3 の調査項目ですが、子供が興味をもちやすい、なじみやすいというか、あるいは今の子供たちはジャンルはあまり関係ないのか、子供たちの興味のもち方や、興味のある曲等に、両 2 者を比べて違いがありましたら意見をお願いします。

(音楽一般調査委員長) 楽譜の掲載に関しましては、どちらの教科書も大体似たような感じで、もちろん歌い継いでほしい曲、そして「心の歌」と呼ばれている歌唱共通教材を含め、最近のポピュラーソングまで幅広いジャンルで取り入れられているという点はどちらも一緒でした。

子供の興味・関心を引くという点で二者で違っているなと感じたのは、歌唱以外のところにありました。教育出版では、実際にコンピューターミュージックについての説明が 1 年生の教科書 64 ページに載っております。「コンピューターで表現しよう」というもので

す。最近の子供たちは、パソコンやタブレットをよく触ります。実際にアプリケーションの使い方などの説明がなされていて、こういったところで興味・関心をもってちょっと作曲をしてみようという気持ちにさせてくれるような内容が取り入れられていました。

一方、教育芸術社では、鑑賞の部分になるのですが、例えば「ミュージカルについて」ということで、2・3年生上の教科書 52 ページをご覧ください。ミュージカル作品も、例えば「ライオンキング」や「ラ・ラ・ランド」など本当につい最近上映されたミュージカルまでもが紹介されています。

また、ポピュラー音楽という項目で、2・3年生下の教科書 62 ページになりますが、今まではポピュラー音楽の授業では主にアメリカのポピュラー音楽の紹介が多かったのですが、日本のポピュラー音楽のジャンルも紹介されるようになりました。特に 63 ページの J-POP の部分に関しましては、フォークソングから最近の渋谷系、アニメソングに至るまで幅広いジャンルが紹介されていますので、自分たちの興味のある分野から調べて聴いてみようという意味で、興味・関心を高めるような内容になっているのではないかと話し合いの中でも出てきました。以上です。

(選定委員長) ありがとうございます。委員の皆さま、いかがでしょうか。他にご質問がありましたら。

そうしましたら、また私の方から。A-1 の 9 の項目において教育芸術社の方で、「見通しが明確に示されて、自分の考えを伝え合う」と書いていますけれども、もうちょっと具体的にこの辺のところを説明していただけますか。

(音楽一般調査委員長) 教育芸術社の方でよろしかったですか。

(選定委員長) はい。

(音楽一般調査委員長) 2・3年生上の 22 ページ、「夏の思い出」を使って説明します。先ほどの「夢の世界を」でも出ていたのですけれども、考え方の見通しとして、まず手順の①、②、注目するポイントというのは先ほど説明したとおりなのですが、調べ方の例として、実際にどういうふうに調べたらよいかということが明確に書かれています。例えば 3 段目の、物の動きはどのように変化しているだろうかということや、強弱はどのように変化しているかということで、他の段との比較をしながら調べてみよう、そして 4 段目、最後の「はらかな尾瀬 遠い空」の部分は、1 段目の後半にも同じ旋律が出ていますが、何が違うのかということを実際に比べてみるというふうにして、一つ一つの調べる項目が事細かに書かれていますので、ただ単に「調べてみよう」だけだと見つけにくい部分も、こういった部分に着目すればいいのかというふうに調べることができます。

そしてすごく大きいのは、右側の 23 ページにある、実際に手掛かりとして歌って試して、どのように歌いたいかを話し合っ、表に書き込みまとめるという内容で、教育芸術社は割と統一されているように感じています。なので、実際に自分だけが歌って感じたことではなく、実際に歌って、なおかつグループ活動等で話し合った内容をまとめていくということをしてしながら、主体的・対話的な学習が展開できるというふうに構成されているよ

うに感じております。

(選定委員長) ありがとうございます。委員の皆さま、いかがでしょうか。他にご質問はありませんでしょうか。

(選定副委員長) 例えば、2・3年生上の西洋音楽の鑑賞のところを特に見て比較してみました。教科書上の記述や写真、ページの書き方など、若干違いはあったのですが、例えば教育出版のバッハの「小フーガ短調」は4ページで、教育芸術社ですと2ページです。この教科書の記述だけを見ますと、詳しいのは教育出版だなと思ったのです。

他方で、二次元コードの歌唱や伴奏のところでは教育芸術社の方が比較的優れているように読み取れたのですが、鑑賞のところでも、教育芸術社の37ページにある二次元コードで実際にどんなコンテンツがあるかを見てみましたら、36ページにある楽譜とともに、この部分を演奏しているかというのが順に移動しながら曲が流れて、フーガの流れが非常によく分かったのです。

音楽だと他教科以上に紙の教科書に限界を覚えるのですが、私は西洋音楽の2・3年生上のバッハとその後のベートーヴェンの交響曲第5番のところを見て、そちらも教育芸術社のコンテンツが非常に優れているなど。音楽の学習において、子供たちが1度聞いて教科書の楽譜を見ただけだと分かり得ないところを、繰り返し各自のタブレットで学習できますし、歌唱・伴奏以外のところでも二次元コードについて教育芸術社が優れているように部分的に見て思ったのですが、一般的に他のところもそうかということをもし知っておられましたら、お願いいたします。

(音楽一般調査委員長) 鑑賞につきましては、実は教育出版の二次元コード「まなびリンク」の方も同じような形で譜面が記されていたりしているものも多くあったと思います。これはどの教材をメインで取り上げるか、また後のベーシックカリキュラム等にも関わってくると思うのですが、音楽の教科書で使われている楽曲は全ての楽曲を授業で取り上げているわけではない部分もあります。ですので、そのときにどの教材を使うかという部分で、教科書によって書かれている内容や量が少し違っているように見えたり、実際譜面の大きさであったり、どのような譜割りをするかによって見方は多少変わってくるのかなと思っていました。ただ、どちらも使われている曲に関してはとても素晴らしい曲なので、授業で用いるにはどちらも大変扱いやすい題材、なおかつ教科書の記載であるなどという感じはしております。

実際に教育芸術社は、例えばバッハの「小フーガ」の部分であったらパイプオルガンが一体どのようなものであるか、実際にヤコビ教会の内部の映像がコンテンツから見ることが出来ます。パイプオルガンを生で触れる機会というのは、石川県では県立音楽堂にでも行かない限りは実際に生で見ることはできません。実際にヨーロッパの教会の内部の映像を見ることが出来るという点では大変素晴らしいなと思って、コンテンツを見させてもらっておりました。歌唱や創作はそれなりに差異があるなと思ったのですが、鑑賞はどちらもコンテンツが大変分かりやすい教材の一つとなっていると思います。

(選定委員長) 他はいかがでしょうか。

(選定委員) A-1の4や8の項目に関わってくることになるのではないかと思うのですが、金沢市では文化鑑賞事業として、1年生でオーケストラ鑑賞、2年で金沢素囃子鑑賞、3年で観能教室をさせていただいています。これらの関係性で、先ほど能のことにに関して少しご説明がありましたけれども、他の部分でもあれば教えていただければと思います。

(音楽一般調査委員長) 教科書の内容に関しては、どちらも同じような題材を取り扱っておりました。ただ、学年配置という点で考えたときに、実は能と歌舞伎に関する記載が教育芸術社と教育出版では逆になっております。教育出版では能が2年生で主に使う2・3年生上の教科書に、歌舞伎が3年生で主に使う2・3年生下の教科書に掲載されております。一方の教育芸術社は、歌舞伎を2・3年生上、能を2・3年生下で取り扱っております。

金沢市では金沢素囃子鑑賞会が2年生、観能教室が3年生で執り行われているということに鑑みたく、この配置のバランスも見させていただきました。素囃子に関連しては、歌舞伎の長唄を授業で取り上げることが可能です。そして能は、教育出版の方には先ほど説明しました「羽衣」の掲載はあるのですが、3年生で学習するということを考えたときには、配置的には2・3年生下の方が良いのではなかろうかという議論もなされたので、そういった意味で金沢市の文化事業との関連等の結び付きを考えると、教育芸術社の楽曲配置の方が扱いやすいのではないかと考えられます。

(選定委員) 大変よく分かりました。ありがとうございます。

(委員長) 他はいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

続いて事務局より、資料Bの「各中学校における教科用図書研究委員会_調査研究報告書」および資料Cの「教科書展示会に寄せられた市民の意見のまとめ」を報告していただきたいと思っております。

(学校指導課長) それでは、資料Bの9ページをご覧ください。「各学校における教科用図書研究委員会_調査研究報告書」についてです。

教育出版については項目1、項目2で、教育芸術社よりも多くの意見が挙げられております。教育芸術社につきましては項目3や項目4、項目5で、教育出版よりも多くの意見が挙げられております。意見の総数についても教育出版より多くなっております。

続きまして、資料Cの12ページの左側をご覧ください。1件ありました。移動展示では、音楽でも学び方を示しているのがよいというご意見が寄せられております。以上で報告を終わります。

(選定委員長) ありがとうございます。そうしましたら、音楽一般について審議に入りたいと思っております。委員の方々には4週間ほど調査していただいておりますので、いろいろお考えがあると思っております。まず、特にAの項目について修正等がありございましたらご指摘いただきたいという部分と、修正ほどではないけれどもぜひ意見として、教育委員会に

おいてはこの答申書とともにわれわれの選定委員会で審議した内容もできる限り口頭で報告させていただこうと思っておりますので、修正等ではなくてもご意見等、これがいいのではないかということでも結構ですので、よろしくお願ひしたいと思います。

まず、特に A-1、A-2 の資料について、修正や削除、付加がありましたら先にお願ひしたいと思います。議論の中で、やはり修正したらいいということが、特にないようでしたら委員の皆さま、自分が調査した中でのご意見等をいろいろ出していただければと思います。いかがでしょうか。2 者しかございませんので、どちらかという意見になるかと思いますが、私の方でも口頭で「こういう意見もありました」ということを報告したいと思っておりますので、ぜひお願ひいたします。

(選定委員) 私も先生方と同じく、教育芸術社の方が子供たちの興味を引きやすいのではないかなと思ひながら拝見しておりました。どちらも素晴らしい教科書で、私の時代から比べたら驚くほど違いがあるのですが、作曲をしたときに、やはり自分で弾くことができな人からすると、コンピューターを使って再現してもらえると、今の子供たちは、自分で楽器ができなくても、歌を歌えなくても、音楽を楽しめるということがあるかなと思ひます。そういう意味では、先ほどご説明があつたことを聞きながら、やはりと思うのが一つあります。

もう一つは、勸進帳のことが結構取り上げられているということがあります。金沢市ではないかもしれませんが、石川の子供たちにとって非常になじみのあるものがあるいろいろな分野で取り上げられていて、それぞれの音楽によって表現の仕方がこんなふう違うところ私としては非常に面白く感じました。そういう意味でも、子供たちの身近な歴史的な出来事が文学になり、それが音楽になって今に残っているという、なじみのあるものとして受け止められるという意味でも、どちらの教科書も素晴らしいですけども、より金沢市の子供たちという部分を考えたなら教育芸術社かなと感じました。以上です。

(選定委員長) ありがとうございます。報告の中ではそのような趣旨もできる限り口頭で報告させていただこうと思ひます。他にいかがでしょうか。委員の皆さま遠慮なく、感想でも結構ですのでお願ひいたします。

(選定委員) 自分はどちらかという音楽が苦手なので、この教科書を見るとすごいなというふうに思ひました。その中で、2 者しかないということで、選ぶ上で大きなポイントになるなと思つたのは、説明があつた A-1 だと 9 の項目と、それから鑑賞ですか、先ほど説明があつた金沢市の事業との関わりという点でした。以上です。

(選定委員長) ありがとうございます。特に 9 の項目と鑑賞のところですね。ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

(選定委員) 今回、私も音楽の教科書をじっくり見せていただいて、自分の頃の教科書と、また最近でもこんなにも変わってきているのだということに本当に驚きました。その中で自分は、吹き出しのコメントで子供たちが考えるときの手だてにとでもなっているな

と感じたのは、教育芸術社の方の教科書です。その他、今の委員の説明の中にあつた二次元コードの使い勝手の良さ、今の時代1人1台端末をいかに活用していくか、授業全体の中だけではなく、グループになったときや個人でも活用していけるという使い勝手の良さ、それから金沢との関連性という3点において、教育芸術社の方がよろしいのではないかというふうに感じました。以上です。

(選定委員長) ありがとうございます。他の委員、感想をどうぞ。

(選定委員) 二つの教科書を比べる際に、教育出版の方は非常に自由度が高いのかなと思うのですが、一方で教育芸術社の方がどちらかというと対応型の学習がしやすいとか、先生方の立場でいうと、子供たちにこちらの音楽を進めやすいかなということを感じるところではあります。

全般的な意見を少し述べさせていただきますと、音楽一般に関しても、どの教科にしる、何のために学ぶかということ、教科書を選定する段階で説明いただけると助かるなど思っております。子供たちに本当に身に付けてほしい力が何であるかとか、これからの時代の中でこういった力や考え方を身に付けてほしいというものを基準に沿って教科書を選んでいくのだと思うので、そういったところの補足説明があると教科書選定において選びやすいとか、少し参考になっていくのではないかと思います。一つの見解でございます。

(選定委員長) これについては、特に能力でいいますと1、2、3の項目ですね、学習指導要領に挙がっているような知識及び技能、思考力・判断力・表現力等の育成と主体的な学びの充実というところにはなるかと思うのですが、今の意見についてはどう扱えばよろしいでしょうか。事務局の方からお願いします。

(学校指導課長) まさにそれがA-1の調査研究項目の、これから必要になってくる資質・能力というところになってくるかと思っております。

(選定委員長) ありがとうございます。特に分かりやすくその辺をまた、調査委員長に質問していただければと思います。調査委員長、何かありますか。特にこういう能力を大事にして調査したということは何かありますか。

(音楽一般調査委員長) どうしても音楽は、歌って楽しいとか、聴いて楽しいとか、作って楽しいとか、楽しい部分だけが出てきてしまうのですけれども、その中に音楽はさまざまな要素が関連し合っていてということをお子たちに一番分かってもらいたいなと常日頃考えています。ただ、音楽を形づくっている要素というのは多岐にわたっているので、全ての音楽で共通しているわけでもありません。そうなったときに、それぞれの楽曲の中で、ではどの要素について特に子供たちがつかんでくれたらうれしいとか、あるいはこれをつかむとこのことがもっとよく味わえるということが明確に書かれているかどうかという点では、ものすごく議論がなされていたと思います。

また、これからの主体的・対話的な学びということをお考えたときに、何を話し合うかと

いう点では、ものすごくつかみにくいのが音楽なのではないかなと考えております。この中で、どのように歌いたいかとか、聴き取ったことからどんなことを感じ取ったかということをもとめたりする、そしてそれを基に話し合えるという点で、どちらの教科書についても話し合いを多くしたように感じます。

(選定委員長) ありがとうございます。よろしいでしょうか。他にいかがでしょうか。ご感想を含めてでも結構です。ご意見がありましたら。よろしいでしょうか。

私の方も、先ほど質問しました、考えを伝え合うということで、音楽だとやはり感性を育てることが一番だと思うのですが、自分が感じ取っても相手に言葉で伝わらないと深まらないかなとも思います。感じ取ればそれでいいのかなという気もするのですが、現代においては主体的・対話的で深い学びということになっております。

とはいえ、感じ取ったものを対話していくというのは難しい面があるなと思ひまして質問させていただきました。そういう意味で教育芸術社の方は、自分の考えを伝え合う場がうまく構成されているというところでは評価できるかなというふうに思いました。

それではその他、特にご感想もないようでしたら、まとめさせていただきます。では、確認させていただきます。報告書Aの内容については、特に修正等のご意見はございませんでしたので、調査委員会の報告書の内容を尊重するとともに、先ほどの市民からの「学び方を示している」というご意見にも傾聴して、音楽一般における教科書採択の答申を作成したいと思いますが、よろしいでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) それでは、認めていただいたということで、ありがとうございました。音楽一般につきましては、審議を終わらせていただきます。

では、続いて、音楽器楽になります。委員長が入りますので、少々お待ちください。

②音楽器楽

(選定委員長) 準備ができましたら、ご説明のほどお願いいたします。

(音楽器楽調査委員長) ただ今より、「音楽(器楽合奏)」の教科書の調査結果について報告いたします。音楽(器楽合奏)については、2者の発行者について調査いたしました。

まず、教育出版です。調査研究報告書A-1の7の項目について、姿勢や構え方の写真が適切に用いられ、特に手元や口元が大きく分かりやすく掲載されるとともに、奏法をより詳しくする図等で理解が深まるよう工夫されています。

例えば23ページをご覧ください。和楽器の篠笛の姿勢と構え方について、全体の様子を捉えやすい演奏者の正面からの写真、演奏者の目線から見る手元の詳しい写真、吹くときの口の形や息の入れ方が分かりやすい大きな写真や図など、さまざまな角度の写真を多数掲載することで視覚的にも十分理解を深め、基礎的・基本的な技能を習得しやすいようになっています。

他に、48～58 ページの三味線についてもご覧ください。ばちの持ち方や構え方のこつ、弦の押さえ方等、項目ごとに大変分かりやすい写真が掲載されており、生徒の発達段階に応じて確実に技能を高めていけるよう工夫されています。音楽室の中でも大型テレビや教師の手元が見にくい場所もあるため、このように写真が充実していることで個々の学びの支えとなっていると考えられます。

その他、1、6、8の項目においても特に優れた内容が見られました。

次に、調査研究報告書 A-2 の 3 の項目についてです。日本と諸外国の楽器について、基礎的な奏法を身に付けながら音色や奏法の共通点・相違点を考え、それぞれの良さや固有性を理解できるように工夫されています。例えば 30 ページをご覧ください。吹く楽器であるリコーダー、篠笛、尺八について、自分の習得した技能や演奏の鑑賞を基に、音の出る仕組み、音色や旋律の吹き方を比較しながら整理することによって、それぞれの楽器の良さや固有性をより深く味わいながら理解することができます。続けて 31 ページをご覧ください。「吹く楽器の仲間たち」という発展では、楽器に加え、その背景にある文化や伝統にも触れられるようになっており、より広く深い学習へのつなげることができます。他に、55 ページの弾く楽器も同様に工夫されています。

続いて、教育芸術社です。調査研究報告書 A-1 の 2 についてです。「学びのコンパス」では、見方・考え方を働かせて学習するポイントや思考の流れが示され、生徒自ら知識や技能を活用して課題を解決できるよう考慮されています。例えば 55 ページをご覧ください。アンサンブルセミナーの「学びのコンパス」では、イラストの会話・吹き出し型によって曲の構成を理解し、表情豊かに演奏するために必要な見方・考え方や思考の流れが示されています。手順 1 では、曲の A、I の二つの部分のリズムや強弱、音の重なり方の特徴を確かめるよう示し、手順 2 ではその特徴を基に各部分の表現の仕方を工夫するよう示しており、生徒が主体的にアンサンブル演奏を深められるようになっています。その他、17 ページではアーティキュレーションによる表情の違い、81 ページではパートの役割と全体の響き、85 ページでは音色や音の重なり方に合う表現などの視点を示すなど、55 ページ同様に考慮されています。その他、1、3、6、7、8、9 の項目においても特に優れた内容が見られました。

次に、調査研究報告書 A-2 の 2 についてです。世界や日本で歌い継がれている民謡や幅広いジャンルの楽曲を取り扱い、音楽の美しさを感じながら魅力的に演奏活動に取り組むことができるよう配慮されています。例えば 6、7 ページの目次をご覧ください。アルトリコーダーでは「喜びの歌」「威風堂々」などクラシックの名曲や「かっこう」「聖者の行進」「アニーローリー」など世界の民謡が多く扱われており、楽器の技能習得と同時に美しい旋律に触れることができます。

具体的な楽譜では 14 ページ以降をご覧ください。「喜びの歌」「かっこう」等、先ほど申し上げた曲目が楽譜ごとに並んでおります。他に目次の 7 ページ、アンサンブルの部分をご覧ください。アンサンブル曲では、ミュージカル曲の「エーデルワイス」、映画曲の「海に見える街」「美女と野獣」「A Whole New World」、テレビ番組曲の「笑点のテーマ」など身近で親しみのある楽曲や、ジャズの「I Got Rhythm」、ボディパーカッションの「Bodipa Beats Z」、歌舞伎の長唄「寄せの合方」など、世界のさまざまなジャンルの楽曲も扱われています。これらをアンサンブル曲として掲載することで、より多くの生徒が主体的かつ協働的

に演奏活動に取り組むことができるよう配慮されています。具体的な楽譜は 71 ページ以降をご覧ください。「Edelweiss」から「春」「I Got Rhythm」等、先ほど申し上げた曲が並んでおります。

以上で「音楽（器楽合奏）」の教科書の調査結果の報告を終わらせていただきます。ありがとうございました。

（選定委員長） ありがとうございます。それではご質問等ございましたら、委員の皆さまお願いいたします。どうぞ。

（選定委員） 2 者の教科書を見せていただいて、どちらも基礎的、基本的な技術の習得といった面で大変丁寧な取り扱いで、自分たちの頃とはやはり違うなと感じましたし、楽器が弾ける喜びみたいところが、次なる主体性、自発的な学びにつながっているなというのを強く感じました。

今ご説明のあったアンサンブルの楽曲のところであるとか、もう一つの教育出版の方でいくと「合わせて演奏しよう」の楽曲のところを見ている、音楽が得意ではない自分でもたくさん知っている曲があって、子供たちは知っている曲を弾いてみたいという気持ちになるだろうなと思って拝見させていただいたのですが、この 2 者の「合わせて演奏しよう」、それから「アンサンブル」のところに出てくる楽曲の違いであるとか、どちらが適しているとか、そういったところでの議論があれば教えてください。

（音楽器楽調査委員長） ありがとうございます。調査研究の中で、どちらの教科書も非常に幅広いジャンルの曲を取り扱っているという面では甲乙つけ難いという意見が出ておりました。中でも、どちらの教科書におきましても生徒が耳にしたことのある親しみのある曲という点で、主体的に臨むという点では相違ありませんでした。

アンサンブルの楽曲におきましては、教育芸術社の方では「千の風になって」という耳にしたことのある楽曲を、旋律を重ねることで組み合わせさせてパートの役割を意識しながら合奏を作り上げるという活動になりますが、それを得意不得意のある中で旋律楽器を演奏したり、吹く楽器、弾く楽器等の奏法の違いをグループで選ぶことができたりという点で、幅広い生徒に対応できる楽曲のつくりになっていると考えられます。

「合わせて演奏しよう」の教育出版の方におきましても、知識・技能を習得した後に仲間と合わせるという視点で、一つ一つの楽曲で習得した技能を生かしながらの合奏となっていますが、器楽の合奏における授業で取り組む時間数の確保で、教育課程上どう設置するかにより難易度との向き合い方が変わってくるかなと思いますので、教育課程上の時間の確保等の判断によるかなというふうに思っております。

（選定委員） A-1 の 3 の項目、生徒の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習が促されるような配慮に関して、多少差異があるのかなと思って読ませていただいたのですが、この辺についてもう少し詳しく教えてください。

（音楽器楽調査委員長） 教育出版は、内容ごとに身に付けたい能力がはっきりと具体的

に設定されているという点では、自主的、自発的に学ぶという配慮がなされているなどという調査をいたしました。教育芸術社でも目標設定等があり、同じように自発的に学習に取り組むことができ、さらに自分たちで奏法を選択するという、例えば17ページでリコーダーの奏法を選ぶことができたり、81ページで先ほども申し上げたような楽器を選択することができたりといったような、生徒に活動の幅をもたせる設定がなされていることで、より自発的な学習を促すような配慮が濃いというふうに調査いたしました。

(選定委員) ありがとうございます。自発的な学習というところで、子供たちが選ぶ場面の幅があるという捉えでよろしいでしょうか。

(音楽器楽調査委員長) それも生徒の感性に基づき、可能性を広げていけるという意味でより促されるのかなと考えております。

(選定委員) ありがとうございます。よく分かりました。

(選定委員長) 他、ご質問いかがでしょうか。それでは、私の方から。金沢市で一般的によく使われる楽器に対応している教科書はどれかというのと、楽器を演奏するに当たっての難易度、金沢にはこちらの方が向いているというような違いなどはありますでしょうか。楽譜になるのか、それはどのような演奏の仕方なのかというので、難易度などにもし違いがありましたら、その2点をお願いいたします。

(音楽器楽調査委員長) まず金沢市の実情に応じてという、金沢市の楽器が合っているかという点に関してなのですが、金沢市では和楽器について、もしかしたら他県よりもより詳しくされている学校が多いのではないかと状況であります。例えば能に関する和楽器であったり、小松市が舞台になっている歌舞伎の楽器であったり、素囃子や長唄等でも有名な三味線であったりということで、和楽器の方がどちらの教科書も丁寧に掲載はされているのですが、例えば教育出版ですけれども、詳しく和楽器の扱いや演奏について書かれていたり、和楽器を利用するようなアンサンブルの楽譜が載っています。もう一つの教育芸術社も和楽器の琴のページであったり、三味線のページであったりが大変詳しく掲載されています。

しかし、教育芸術社には、「伝統音楽の一覧」というページがあり、こちらで雅楽から郷土芸能まで載っているのですが、3年生で観能教室で見に行く能で使われている楽器であったり、歌舞伎のお囃子の部分を2年生で見に行く素囃子とも連動させてここで学べたりということで、こちらの表は大変見やすく、伝統文化と楽器の関係性が分かるページになっていると思います。

それから難易度の部分に関してですが、先ほども少しお話しさせていただいたのですが、各学校の教育課程上に器楽の分野をどう組み込むかという時間の配列、時間の確保にもよってくるところが正直大変大きいのが現状です。この教科書には詳しい写真等がこまめに載っていることに加え、二次元コードでより詳しい奏法等を自分の個別のタイミングでより深めたりすることができるものが備わっているため、授業の時間として扱うことに加え、

自分でさらに学びを深めていくという手だてが教科書になされているので、難易度に大きな差はないのですけれども、学校の実情に合わせてこういったコンテンツもうまく利用しながら難易度の差をそれぞれ個別に埋めていったり、さらに伸ばしたりということが実現されると考えております。

(選定委員長) ありがとうございます。ご質問がございましたら、他にいかがでしょうかでしょうか。よろしいでしょうか。そうしましたら、事務局より各学校の研究委員会の報告、および教科書展示会における市民や保護者の意見の報告をお願いしたいと思います。お願いします。

(学校指導課長) それでは資料Bの10ページをご覧ください。「各学校における教科用図書研究委員会_調査研究報告書」です。教育出版については、項目1で教育芸術社よりも多くの意見が挙げられております。教育芸術社につきましては、項目1以外の項目において教育出版よりも多くの意見が挙げられております。意見の総数についても教育出版より多くなっております。

続きまして資料C、12ページの左側をご覧ください。1点あります。「練習曲の難易度において構成が工夫されていることが評価できる」というご意見等がありました。以上で報告を終わります。

(選定委員長) ありがとうございます。それでは審議に移りたいと思います。答申のための報告書に付け加えたらよい点なども含めまして、修正・削除も含めましてご意見等ありましたらお願いします。修正でなくても感想等を含めたご意見で結構だと思うのですが、委員の皆さまよろしく願いいたします。いかがでしょうか。遠慮なく感想でも結構ですので、一言頂きたいと思うのですが、どうぞ。

(選定委員) 器楽の教科書に琴とか尺八とか三味線とかいろいろな楽器の演奏の仕方が載っていたことにすごく驚いて、こういう楽器は学校にも実物があるのですかね。

(選定委員長) お願いします、委員長。

(音楽器楽調査委員長) 教科書に記載されている和楽器や楽器が全て学校にそろっているということは恐らくないに近いのではないかなと思っていますが、学校によってギターは生徒の人数分そろっている、お琴はそろっているけれども尺八、三味線はないというような、学校のそろえ方によって差があるのが現状です。本校で考えてみましても、ギターとお琴と、三味線は一部そろっているのですが、やはり生徒に演奏させるときに足りない部分は市の施設からお借りしたり、他校との打ち合わせで共に使ったりという工夫をして、実際の体験はできるだけさせて音楽を学ばせたいということでやりくりしているのが現状です。

(選定委員) ありがとうございます。実際に触れるということを知って、すごく良かつ

たです。うらやましいなと思いました。あとは、和太鼓のページもあったので、石川県は和太鼓のグループ、演奏チームもたくさんありますので、ぜひ授業でも、県内ではこういうチームが活躍していますというふうに動画などで紹介いただける機会もあってもいいのかなというふうに思いました。以上です。

(選定委員長) 和太鼓で何かそういうのはありますか。授業でやられているところなどはあまりないですか。

(音楽器楽調査委員長) 太鼓に関しては、私は授業では紹介をするにとどまっているのですが、太鼓の中にもさまざまな種類があるということや、地域のお祭りで太鼓を目にすることがたくさんあるという部分に関して、器楽の授業だけでなく、中学生の音楽の教科書にも郷土のお祭りや芸能のところで太鼓の紹介はされているので、そちらでの紹介を映像を通してするという事はあります。太鼓そのものの生の楽器の演奏という点では、現在の私の学校では扱ってはいないのですが、前任校では締太鼓を体験させたりというふうに、学校の楽器の準備の現状に沿って授業を組み立てている形になります。

(選定委員長) ありがとうございます。よろしいでしょうか。他、いかがでしょうか。お願いいたします。

(選定委員) 今も意見があったのですが、生徒たちがどれだけ楽器に触れられるか。「触るな、壊れる」という指導があるのですが、やはり自由に触れるような雰囲気やぜひ作っていただきたいと。やはり金沢は和太鼓とか、実は三味線なども学校で見たことがあるのですが、私は触ったことがありません。そういうふうにもっと子供たちが自由に触れるような、そのような楽器の使い方をまた各学校で検討していただければと思います。教科書の選択よりも、子供たちが自由に触れる雰囲気、そのような場の設定をぜひ今後もお願いしたいなと思います。

(選定委員長) ありがとうございます。他、どうぞ。お願いします。

(選定委員) 二次元コードのところ、教育芸術社はすごく二次元コードに興味をもつような、単なる楽器の奏法などだけではなくて名前が書いてあるのですよね。一流の奏者のお名前があって、そのメッセージもバーコードを読み取れば出てくるということで、その楽器をやったことのない生徒たちがここからまずは興味をもつのではないかなと思って、私は教育芸術社の教科書はすごく興味があって、欲しいなと思うぐらいです。

(選定委員長) ありがとうございます。特に資料の方でさらに強調するような表現は必要ございませんでしょうか。よろしいですか。十分に表現されている部分、評価されているような書き方にはなっていると思いますが。ありがとうございます。他、いかがでしょうか。お願いします。

(選定委員) 今おっしゃっていただいたことと似ているのですが、教育芸術社の最初の見開きに読み物があるということで、A-1の5の項目で、現代的な諸課題への対応なのか分からないですけれども、世界に目を向けていろいろな地域でいろいろな音楽があるというところに自然と目が行くようになっていくのかなと思います。音楽は世界共通ではないですけども、そのようなところもあるかなと思ひます。もう少し専門的というか、音楽の知識をもってもらいたいということだと思ひますが、子供たちが音楽を通して世界を知っていくということを考えると、ここはもう少し評価していただいても。別にこれが駄目という、積極的に変えなければいけないというほどの気持ちはないのですが、そこはもう少し評価してあげてもいいのかなというふうに思ひました。

(選定委員長) ありがとうございます。A-1の5の項目ですね。配慮というよりも工夫されているというような、例えばそのような感じになりますかね。

(選定委員) そうですね。

(選定委員長) 他の委員の皆さま、いかがでしょうか。もう少しその辺の評価を高くしてもいいのではないかとご指摘ですけれども、よろしいでしょうか。特に反対がないようでしたら入れたいと思ひますけれども、表現については私の方で一任させていただいてよろしいでしょうか。紹介などを工夫とか、他のところの表現と整合性を保つような感じで修正させていただこうと思ひますが、よろしいでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) ありがとうございます。他、いかがでしょうか。修正も含めましてご意見等ありましたら、よろしいでしょうか。特にないようでしたら、器楽につきましてはいろいろご意見も頂きました。工夫してスケジュールを組みながら、みんなが借りやすいというか、交互に借りやすいように、非常に工夫されながら貸し借りしながら努力しておられるので、すごく大変だと思ひながら学校に行つたときに見させていただいているので、今後ともまた頑張つていただければと思ひております。

それでは、特にその他ご感想、ご意見、修正等もございませんようでしたら確認させていただきます。先ほどの調査委員会の報告に対して、ただ今審議された内容について、特にA-1の5の項目になりますけれども、修正させていただき、市民からの「難易度に応じた構成が工夫されている」などの意見を傾聴しながら、音楽器楽における教科書採択の答申を作成したいと思ひますけれども、よろしいでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) では、お認めいただいたということでありがとうございます。

そうしましたら、10分ほど休憩させていただきます。ありがとうございました。

<休憩>

③地理

(選定委員長) では、再開させていただきます。続いて「社会(地理的分野)」の審議をしたいと思います。では調査委員長、報告をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

(地理調査委員長) ただ今より、社会(地理的分野)の教科書の調査結果について報告いたします。社会(地理的分野)については、4者の発行者について調査いたしました。

まず、東京書籍について説明いたします。調査研究報告書A-1の9の項目についてです。調査では、単元の一連の学びが「自分でみんなで考える金沢型学習スタイル」に基づく展開構成のための工夫がなされているかという視点で調査しました。東京書籍では、この項目が優れていると判断しました。北アメリカ州の学習を例に説明します。104ページをご覧ください。「世界の窓」のコーナーで多くの写真を提示し、生徒の興味・関心を喚起し、106ページでは北アメリカ州の概観をつかませます。そして107ページでは、「北アメリカ州の探究課題を見つけよう」のコーナーで課題設定を行います。これにより、学習の見通しをもてます。その後、113ページまでは各小単元で学びを行い、114ページの「まとめの活動」というコーナーで、立てた探究課題の解決とともに単元のまとめを行います。解決のための資料を振り返ったり、図やチャートを使って情報を整理・分析したり、その際にグループで対話したりと多様な活動が提示されています。このような工夫から優れていると捉えました。その他、2、3、8の項目においても優れた内容が見られました。詳しくは報告書の内容をご覧ください。

次に、調査研究報告書A-2の1の項目、地域構成に関する事項について優れていると捉えました。19ページをご覧ください。三つの種類の地図が示されています。大陸ごとに色を変える工夫がされています。この節では地球儀と地図を比較し、その特徴を把握し、その上で大陸と海洋の分布や主な国の位置、大きさ、日本との距離などを学びます。この工夫により確実な学びにつながると捉え、優れていると判断しました。その他、2、4の項目においても優れた内容が見られました。詳しくは報告書の内容をご覧ください。

続いて、教育出版について説明いたします。調査研究報告書A-1の5の項目についてです。この項目では、現代的な諸課題をSDGsに関連する課題という視点で調査しました。教育出版は、世界の諸地域の各単元導入部分でも明示しています。117ページをご覧ください。オセアニア州の学習の導入では、「人や国の不平等をなくそう」「平和と公正をすべての人に」のマークが示され、多民族共存の問題を挙げています。さらに126、127ページでは「クロスロード」という特設ページを設けています。SDGsの17の目標を把握した上で、その課題解決に向けて主体的に追究することができるよう配慮されている点を優れていると捉えました。

調査研究報告書A-2の7の項目、地域の在り方に関する事項についてです。地理の2年間のまとめとして位置付けられ、これまで学んだことを生かして提案・発信することを目指す単元です。278ページをご覧ください。まず、各地域のさまざまな課題を取り上げています。そして180ページからは、より良い未来への提案に向けてどのように課題解決を考え、追究していけばよいのかを、水俣市を例に挙げています。180ページ、181ページをご

覧ください。生徒の視点に立った文例、調べていく際の視点や手法の実際も示されています。子供たちにとってどんなふうにとまとめたらいいのかということが、中学生の視点で文章が書かれているので分かりやすいというふうに分えました。こういった具体を示す工夫により、生徒一人一人が主体的に発信・提案まで取り組みやすくなっていると考え、優れていると捉えました。発信については、このような形でプレゼンを作って示すところまで示されています。その他、5、6の項目についても優れた内容が見られました。詳しくは報告書の内容をご覧ください。

続いて、帝国書院について説明いたします。調査研究報告書 A-1 の 1 の項目についてです。この項目では、各単元の終わり、まとめ、振り返りの部分を中心に、基礎的・基本的な知識、技能の習得のため、学習内容を確実に身に付けることができるかを調査しました。104、105 ページをご覧ください。「学んだことを確かめ、節の学習内容を振り返ろう」では、地図と結び付けながら用語やその都市等の特徴を振り返ることができます。地理の学びにおいて欠かせない場所と事象を結び付けて、知識として定着させる手だてがなされています。さらに 104 ページの下の方には重要語句を示し、説明できるか確認させる部分があります。また 102 ページをご覧ください。毎時間の節ごと、小單元ごとの用語解説が充実しております。このことから優れていると判断しました。

調査研究報告書 A-2 の 4 の項目、地域調査の手法に関する事項について優れていると捉えました。地域調査は生徒にとっては難しい、苦手と捉えられがちな単元です。しかし、地理的な見方や技能を養うには欠かせない単元で、学習指導要領の中でも地域調査は生きて働く技能とも言われています。調査では、意欲的に取り組める工夫がより充実しているのが帝国書院だと判断しました。132 ページをご覧ください。随所に設けられている「技能をみがく」では、地図や統計資料の読み取り方、地形図の使い方等が示され、調査を行いまとめる際に必要な技能について順を追って丁寧に理解することができます。さらに 137 ページに入りますと、調査ノートの取り方、分析、考察の実際が生徒目線で具体的に提示されており、意欲的に課題解決できるようになっています。この点から、A-2 の 4 の項目において優れていると判断しました。その他、2、6、7、8 の項目においても優れた内容が見られました。詳しくは報告書の内容をご覧ください。

続いて、日本文教出版について説明いたします。調査研究報告書 A-1 の 8 の項目についてです。調査では、協働的な学びの場で自分の言葉で説明したり対話したりするということを視点にしました。233 ページをご覧ください。「中部地方ではどのようにして特色のある産業が盛んになったのか」という単元の問いで、思考ツールを活用します。自分で考えを整理してまとめられるだけでなく、これを基に他者との会話も深まります。さらに発展的な課題として「議論してみよう」のコーナーで、産業の競争力を維持する方法を考え、話し合う場も設けられています。この一連の流れが協働的な学びを深めるための工夫となっており、優れていると判断しました。

調査研究報告書 A-2 の 6 の項目、日本の諸地域に関する事項についてです。中部地方について調査しました。218 ページから 222 ページまで、中部地方を広い視野から眺めさせています。そして 223 ページで、「節の問いを立てよう」で地方の課題を主体的に捉えさせる問いを作る場を設けてあります。また 223 ページの右下には、キーワードや地域の課題が提示されています。その後ページを追っていきますと、多様な資料、グラフなどが示さ

れ、中部地方の課題解決や将来について深く考えさせるように工夫されています。このことから優れていると判断しました。以上で社会（地理的分野）の教科書の説明を終わります。

（選定委員長） ありがとうございます。委員の皆さま、ご質問等をお願いいたします。

（選定委員） 社会の地理ではやはり資料を活用することがとても大事なというふうに思います。そういう中で、今ほどの4者の説明の中では、発行者ごとに一つ一つ、例えば思考ツールを使ったり、それから促すような写真を使ったりということで、それぞれ工夫されたところがあったと思うのです。今回の調査の中で、A-1の9の項目の「自分でみんなで考える金沢型学習スタイル」に基づく学習が展開できるような構成や工夫が図られているかという点で考えたときに、どの会社も図やチャートを使ってというところがある中で、特に東京書籍は文章の中に「情報を分析、整理し、よりよく課題解決することが」という文言が入っています。この点について4者の中で東京書籍の教科書がこのような点で優れているというか、特にこの点を報告書に示したということで、こういうところがいいなというところがあるならば、説明していただければと思います。

（地理調査委員長） では東京書籍なのですが、「自分でみんなで考える金沢型学習スタイルに」ということで、単元を通してまず最初に104ページ、105ページ、それから106ページ、107ページもそうなのですが、先生が教え込むというよりは全体を一度俯瞰させてから、「ここで考えたいことは何だ」という自分の問いを問わせるような仕組みになっています。このようなところで、まず自分自身が問いをもつということで優れている、考える場を与えているというところで優れているというふうに感じています。

さらに、最後のまとめのところになりますが、114ページ左下のところでは、課題や解決しなければならない地方や地域、国、または世界が抱える課題について「探究のステップでふり返ろう」ということで、どの資料がキーワードになっているか、ポイントになっているのかということを探究のステップで振り返らせる仕組みや、115ページの方は探究課題について、習ったことを情報として整理する場になるかなと思います。情報を整理させて、自分の考えをもち、そして「みんなでチャレンジ」というところで、課題を解決するためにグループで話し合う、自分の意見をそこで述べる、そして協働的な場の中で自分たちの考えをまとめていくという一連の流れが東京書籍の優れている点と捉えました。以上です。

（選定委員長） よろしいでしょうか。他、ご質問はいかがでしょうか。

（選定副委員長） 今のご質問と同じで、調査研究項目の9の項目について質問させていただきます。単元を貫く課題を自ら設定させたり、あるいは課題を確認したり、各発行者に違いがあるようです。そうした違いが実際の社会科の授業に大きく影響を与えるのかどうかについてお願いします。

（地理調査委員長） 現場の先生方はもう金沢型学習スタイルに慣れていますが、そしてさ

さまざまな授業づくりの中で金沢型スタイルを意識しています。金沢型スタイルが初めてできた年ならば、この9の項目というのは絶対に欠かせない部分なのかなというふうには思うのですが、先生方に身に付いているというふうには捉えた場合、調査研究していく中で資料の多さや資料の読み取らせ方といった部分の評価も大事だという話し合いはありました。以上です。

(選定委員長) ありがとうございます。他、いかがでしょうか。

では、私の方から、重なった質問になってしまうかもしれないのですが、どの教科書でも言えることかもしれませんが、こういった紙に書かれているものというのは結構知識的なものは表現しやすく書けるのだけれども、教科書の中で考えさせるというのは非常に難しいと思うのです。今ご説明がありましたように、東京書籍では単元を割と俯瞰したようなものの考え方をさせているということですが、特に今の学習指導要領の思考力・判断力・表現力という観点で、考えるということをポイントにしたときに、東京書籍は単元を貫くような部分の工夫、帝国書院などでも、中部地方など地域のことを深く発展的に考えさせる工夫をしているということもありますが、何かその辺での考えさせ方の違いは何かありますか。二者を比較して説明していただいても結構ですけれども。

(地理調査委員長) A-1とA-2の調査結果を見ていただくと、A-1では東京書籍の方が非常に優れており、A-2では帝国書院が優れていたという結果になっています。もちろんどの教科書も検定を通過しており、それぞれ優れているということが前提にあるというのを踏まえた上なのですが、東京書籍の方は「～を学ばせる場」というところが優れているのかなと。帝国書院は、「何を何で学ばせるのか」という視点が優れているのではないかと調査委員会で捉えました。

先ほども、どう学ばせるかという視点が、どの先生方にも、どの学校にも定着している場合、地理はどんな資料で何を学ぶかということが重要だと考えると、A-2で優れている帝国書院は資料の数も豊富です。もちろん金沢型学習スタイルに適さないというわけではなくて、協働的な学び、コミュニケーション力を高めるような場も盛り込まれています。

例えば97ページでは、帝国書院は今回の教科書から対話を促すアイコンを新設しています。2ページの小單元ごとの学びの中に、ここでこの資料を使って話し合っただけで考えを深めてみてという工夫もされています。103ページです。1時間の授業の中で随所に資料を基に考えて話し合う場があるというのはとても特徴的で、金沢型学習スタイルに適していると捉えました。また、A-1の8の項目のベーシックカリキュラム等を踏まえた指導との関連という点では、協働的な学びの場があるのかということも調査しており、ここに関連する優れた部分なのではないかと思っております。

(選定委員長) ありがとうございます。他、いかがでしょうか。ご質問等ありましたら、どうぞ。

(選定委員) 質問としましては、地理の分野と次の地図の分野は、発行者が変わること特に差異はないのかという話です。内容を見てみますと、例えばヨーロッパ州や北アメ

リカ州の移民に関する問題は共通事項であったりもするのですが、東北地方の震災後におけるいろいろな地理的条件、いろいろなものが変わったといったことの考えは、発行者によっては違うのかなと感じます。それと歴史でも多分出てくると思うのですが、領土・領海に関して帝国書院は比較的「固有の」という形の表現を強く出されていると思うのですが、捉え方によって他の発行者に関しては非常に曖昧になっているので、どういった形で提示するのかなということに疑問をもちました。

(選定委員長) 率直に言って同じ発行者の方が授業をやりやすいのでしょうか。個人的見解でいいと思うのですけれども。工夫次第なのか、それとも同じようなところの方が教えやすいのかということはいかがでしょうか。

(地理調査委員長) 私自身の捉えですが、違う発行者でも特に困ることはないです。毎回教科書が変われば、教科書を先生自身がしっかり学んだりすることもあれば、またそこで学んでいきますので、変わっても同じだろうなど。変わっても個人的には全く関係ないと思います。

(選定委員長) それでよろしいでしょうか。

(選定委員) 具体的にまず、今の東北地方の分と、ヨーロッパ州、北アメリカ州という移民に関することは発行者によって結構違っていると思うのです。発行者によってそこら辺に関する課題の傾向、いわゆるテキストだけ書いてある地理の教科書に対して、地図の方ではそれをビジュアルとして分かりやすくなっているのですが、そこで少し違いが出ているかなというのは感じるのですが、その点はいかがでしょうか。

(地理調査委員長) 教科書の部分で調査はしたのですが、地図の部分は次の。

(選定委員長) そうですね。

(地理調査委員長) 地図の分野のところは、私は見ていませんので、そちらと併せて調査するというのはできていません。

(選定委員長) どうぞ。

(選定委員) 学校の授業ではこれは別々でやるのですか。

(選定委員長) われわれ選定委員会の方でそういう意見が、これは同じでないともずいのではないかというご意見がありましたら、そういうものを含めて教育委員会にご報告させていただきます。今ほどのは調査委員長の個人的な見解でありますけれども、先生方も多分いろいろな意味で工夫はされると思うので、これは私の個人的見解ですけれども、他の地図に変えて、地図に十分書かれていないところは二次元コードで補うこともあり得る

のかなと個人的には思っております。もしわれわれとしても一緒の方がいいのではないかというご意見、あとまた次の地図になりますので、それも踏まえてご意見として出していただければ、教育委員会議の方で報告させていただこうと思います。そういうことでよろしいでしょうか。

(選定委員) その点は確認できましたので、分かりました。二つ目に言った「日本固有の領土」というところは、帝国書院以外は、例えば報告書に書いてあるような「本文での確認」ができましたということが確認できないのですが、これはどう捉えればいいのですか。帝国書院に関しましては、「断固として」とかそういった条約等とのくぐり方が具体的に書いてあるのです。他の発行者に関しては、報告書の中ではこちらの方を本文で確認するということが書いてありますが、実際にはそこら辺は書いていないかなというふうに言ったのですが、その点はいかがでしょうか。

(選定委員長) 書かれてないですかね。こちらの教科書そのものですか。

(選定委員) 実際の教科書そのものに。

(選定委員長) 領土については書かれていませんでしたか。

(選定委員) 差があるということです。

(選定委員長) 差はある。

(選定委員) 差があるのですが、例えば東京書籍に関しましては、資源に関するパートは、資源についてあるよということは書いてあるのですが、そこが日本の領土かどうかとか、固有のものであるということの見解は示されていないということです。報告書の内容のことが書いていないのではないかということで質問しました。

(選定委員長) 調査委員長、その辺のことで何かありますか。記載の表現の違いは出てこようかと思うのですが、何か領土に関して教える側としてかなり違いは出ていますでしょうか。

(地理調査委員長) 北方領土の記載に関する事項で帝国書院の方を優れていると自分たちは判断したのですが、領土の問題に関しましては、確かにどのような言葉で説明しているのかということで大きく変わってくる部分もあると思います。帝国書院では報告書にありますように、歴史的にも国際法上正当であるということや位置や範囲とともに理解できるような条約と地図を示していたり、さらには位置的な問題ということで、全体が写る北方領土の航空写真を載せていたり、竹島や尖閣諸島に関しても場所を地図でしっかり示し、その距離的な矢印で示されていますが、そういった距離的な捉えもしっかりできるようにされています。このような形で、歴史的にも国際法上の内容も踏まえた学びができるとい

うことで帝国書院の方を優れていると捉えました。

(選定委員) ありがとうございます。おっしゃるとおり、帝国書院は結構細かく書いてあるなと理解していて、そういった中で先ほどの地図の教科書の話があるのですが、そこら辺は帝国書院の地図も結構細かく書いてあるので、ということの質疑の趣旨でした。ありがとうございます。

(選定委員長) そういうことも踏まえて、場合によっては同じ発行者の方がいいのではないかとご意見としてはあろうかと思えます。また地図のところも踏まえまして、意見をまとめさせていただければと思います。

他、いかがでしょうか。ご質問はありますでしょうか。

(選定委員) 全体を通してなのですけれども、防災に関する学習というのが、地域の範囲の中ではないかなと思っていたのですけれども、そういう中では発行者4者はいかがだったでしょうか。

(地理調査委員長) どの会社もハザードマップだったり自然災害について触れている箇所はございます。例えば東京書籍には、先ほどSDGsの視点でということでお話もあったのですが、1ページには「防災・安全について考える」というところが、教育出版には、「災害から身を守るために」という学びがあります。帝国書院も「自然災害に対する備え」というところで、避難所での支援の様子などが紹介されています。日本文教出版も「震災からの復興と災害に強い地域づくり」というところで、防災について取り上げております。以上です。

(選定委員長) よろしいでしょうか。

(選定委員) ということは、4者ともさほど差はないというふうにご判断されたということでしょうか。

(地理調査委員長) そうですね。そのように捉えています。

(選定委員) ありがとうございます。

(選定委員長) 調査項目がどこにかかるかというのが、そこまで詳しい項目ではなかったもので、一応質問していただいて、あまり差はないということでしょうかね。ありがとうございました。他にご質問はありますでしょうか。

(選定副委員長) 地理の学習を通じて日本、世界の理解を広く深めてほしいなと子供たちに願うところですが、他方で自己理解というか、金沢市のこと、石川県や中部地方のことも、どんなふうに見られているかということも子供たちに見せると思っています。

が、そうした地元・ふるさとのことについての記述に関しては、この調査項目の中に含まれていたでしょうか。入るとしたら8の項目かなと思ったのですが。

(地理調査委員長) 金沢市のことということですか。

(選定副委員長) 金沢市が各教科書でどう記述されているかということです。

(地理調査委員長) 金沢市のことで言えば、地域調査の部分で、自分たちの学校の周辺や金沢市を捉えることも可能になっておりますので、地域調査では自分たちの住む金沢についてしっかり調査したりまとめたり、これからどんな金沢になっていったらいいのかということや、自分たちの地元の中で課題になっていることなどを取り上げることも可能になっています。あと、金沢市ということでは、中部地方の方で伝統工芸の話が出てきたり、金箔が示されたり、特に伝統工芸の部分で取り上げている部分が各者多かったです。4者とも金箔を取り上げている写真が見られると思います。以上です。

(選定委員長) よろしいですか。ありがとうございます。他に質問はございますでしょうか。ないようでしたら、事務局の方から報告をお願いいたします。B、C、Dについてお願いします。

(学校指導課長) それでは、資料Bの3ページをご覧ください。「各学校における教科用図書研究委員会調査研究報告書」では、東京書籍は項目1や項目3で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられております。意見の総数について最も多くなっているのは東京書籍になります。教育出版は項目2で最も多くの意見が挙げられております。帝国書院は項目4や項目5で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられています。意見の総数については、東京書籍に次いで2番目に多くなっております。日本文教出版は、項目2で多くの意見が挙げられております。資料C、市民からの意見はございませんでした。以上で報告を終わります。

(選定委員長) ありがとうございます。それでは審議に移りたいと思います。答申のための報告書に付け加えたらいい点や修正・削除したらよいという意見がございましたらお願いいたします。また感想等も出していただければと思います。

先ほどの領土につきましてはどうでしょうか。帝国書院の方、A-2の8の項目になるとと思いますが、文言的には良いでしょうか。あと、地図との関連についてはまた次の地図のところでも少し話題にさせていただこうと思います。何か感想などはございませんでしょうか。

(選定委員) いろいろな意見がありました。どうしても教科書を今選ぶということなのでなかなか難しいと思うのですが、社会の地理ですと結局、この教科書を基に地理的な力をつける、つけたことによって、それを生かして現代の課題を考えるというところがとても大事なのかなと思います。ですので、例えば金沢市がどれだけ出ているのかというところ

ろも教科書を見る上での一つの視点になるかもしれませんが、きっかけ的には社会の先生たちはいろいろな違う部分で勉強したことを基に、では金沢市のことを調べてみよう、どんなところに課題をもちますか、それから金沢の中でも自分の住んでいる地域ではどんな課題があるのだろうということを考えさせて学ばせるという点で、そういう意味で見ると、どちらかというところとA-1の九つの観点がある中で特に1、2、3の項目、学習指導要領の中で言われている三つの観点についてどういう点がそれぞれ優れているのかというところを見極めていただければと思います。

それから領土に関しては、今回の学習指導要領では授業でしっかり教えなさいと言われていているところなので、そういうところと言うと北方領土、竹島、尖閣諸島というところで見ると、どの教科書もある程度しっかりと書かれている。その中で、先ほど委員からもありましたけれども、帝国書院の方が他の教科書に比べると少し詳しくされている部分が見られるかなというところを、また選定のポイントにさせていただけるのかなと思いました。

(選定委員長) ありがとうございます。ご感想、ご意見という形でまた報告させていただこうと思います。他、いかがでしょうか。お願いします。

(選定委員) 現場で社会の先生の授業を見ていると、本当に社会の先生というのは、もしかして教科書の中で一番教材研究をされているのではないかというぐらい、教材研究をされています。そうすると、教材研究にかかる時間などを考えたときに、今はデジタル教材、デジタル教科書なども入ってきているので、先生方が教材研究しやすいような資料をたくさん提供してくれるような教科書であったらいいなというふうに思っています。デジタル教科書が今度採択の土俵に上がってくれば、またいろいろ視点も変わってくるのかなという感想をもちました。以上です。

(選定委員長) ありがとうございます。他、いかがでしょうか。どうぞ。

(選定委員) 話題に出ていたので、同じ発行者の教科書、社会の場合は地理と地図というのがあるのですが、先ほどの音楽も器楽と一般ということで2者でしたけれども、それぞれ発行者がもし違ったらということも出てくると思います。先ほど委員長も言っていましたけれども、基本的には先生方というのはいろいろなところから資料を集めます。そして、先ほど言ったように社会で大事なものはやはり資料を分析する、情報を集めて分析するというところですね。そういう意味では、この後地図の話になるのですけれども、視点だとは思いますが、例えば同じ発行者の教科書だと、地理の教科書で地図帳のこの部分に書いてあるというような文言を載せられるところはいいところだと思うのですが、それ以外の例えば資料とか何とかとなってくると、それは先生の技量で、教科書と地図帳の発行者がたとえ違っていたとしても、そこに出てくる資料をどんなふうに子供たちに提供して、課題解決につなげていくのかというところで使われるので、今は地理の教科書を選ぶという点で考えるのがいいのかなと思いました。

(選定委員長) ありがとうございます。今の段階では、ある程度独立して考えた方が。

当然、地図以外にも関わっている資料がたくさん教科書には載っていると思いますので、他、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

私も先ほど指摘させていただきましたけれども、自分たちの小さいときの授業と随分違って、資料に書いてあることを覚えるだけであれば、教科書に書いてあることということですが、いかに考えさせるかということで、教科書を基にまた先生方の力が必要になってくるころであると思います。先ほどの委員が言われたように、その力が発揮できるような、教材研究をしながら力が発揮できるような教科書であるべきなのかなと思ひまして、考えてきちんと問題解決ができる教科書ということで質問させていただいた次第でございます。

特に他にご意見がないようでしたら、よろしいでしょうか。では、特に修正等のご意見もないようですので、確認させていただきます。報告書Aの内容については、特に修正等のご意見はございませんでした。調査委員会の報告書の内容を尊重して社会科（地理的分野）における教科書採択の答申を作成してもよろしいでしょうか。

<異議なし>

（選定委員長） では、そのようにさせていただきます。ありがとうございます。それでは、特に今回4者でございますので、選定委員会として4者のうち二つほど評価が高かったというふうに選んでいきたいと思ひます。先ほどからのご意見、ご質問も踏まえまして、答申書は報告書の内容を見させていただいて、発行番号順で言わせていただきますけれども、東京書籍、帝国書院の評価が高かったと思われるのですが、4者のうちこの2者が評価が高かったということで報告させていただいてよろしいでしょうか。

<異議なし>

（選定委員長） そうしましたら、このことも認めていただいたということにさせていただきます。ありがとうございます。では、以上で社会科の地理的分野の審議を終了させていただきたいと思ひます。それでは、地図について審議に移りたいと思ひます。

④地図

（選定委員長） それでは準備ができましたら、委員長、ご報告のほどお願いいたします。

（地図調査委員長） それでは、よろしくお願ひします。ただ今より地図の調査結果について報告いたします。地図については、2者の発行者について調査いたしました。

まず、東京書籍についてです。調査研究報告書A-1の1の項目について、世界の各州や日本の各地方の特色を犬まかに捉えることができるように、それぞれの巻頭にはキャラクターによる問いが示され、基礎的・基本的な情報を誰もが読み取ることができるようキャラクターの問いの質に工夫が見られました。例えば、17～18ページのアジア州をご覧ください。17ページ下に「チベット高原から流れ出る川を5本探し、河口までたどってみよう」

というキャラクターによる問いがあります。この「みっち」というキャラクターの問いは、一つの図を見て取り組める問いで、比較的易しく基礎的な問いであり、誰もが取り組めるような問いの工夫が見られました。さらに、33～34ページのヨーロッパ州をご覧ください。ヨーロッパの位置を日本との比較で読み取る問いがあります。「ヨーロッパがどのくらいの緯度に位置しているか、日本と比べてみよう」です。続いて67～68ページをご覧ください。対馬から釜山までの距離を読み取る問いが示されています。このように各巻頭には同じキャラクターによる基礎的な問いが設定されており、誰もが読み取りやすい問いの工夫が見られました。この他、5と9の項目においても優れた内容が見られました。詳しくは報告書をご覧ください。

次に、調査研究報告書 A-2 の 1 の項目について、三つのキャラクターの質の異なる問いによって、地図や資料を段階的に読み取り、複数の地図や資料を活用することができるよう工夫されていました。例えば、59～60ページをご覧ください。60ページ上の一つ目の「みっち」の問いでは、「図1の断面図に沿って、土地利用がどのように移り変わっているか読み取ろう」とあります。これは一つの図を見て取り組む問いで、南アメリカ州の土地利用について、断面図を利用して読み取るものです。位置や空間を限定して読み取る問いが示されていました。その下の二つ目の「つーたん」というキャラクターの問いですが、「図1、図7、図8の三つの図を見て、大豆生産地がどのような地域に拡大してきたかを読み取ろう」とあります。これは二つ以上の図を見て取り組む問いで、南アメリカ州の大豆生産について、時期や時間の経過、地域の変化の様子について読み取り、考えることができるよう配慮されています。続いて、146ページをご覧ください。右のキャラクター、「ぼっち」の問いでは、「図8から日本の農業の課題を読み取り、それへの対策を考えてみよう」とあります。先ほどの問いよりレベルが少し上がり、図を活用して調べたり考えたりする問いの工夫が見られました。

続いて、帝国書院についてです。調査研究報告書 A-1 の 3 の項目について、生徒の興味・関心を引き出し、さらに自主的・自発的な学習を促すための視点として、調査委員会では鳥瞰図に着目して調査研究を進めました。まず、53～54ページのヨーロッパ州をご覧ください。地域の特色が体感できて、地形だけではなく自然環境や生活、文化、産業などがイラストによって視覚的に分かりやすく示されています。子供たちの興味を引きつける工夫がされています。情報量も非常に多いのですが、イラストによって分かりやすく掲載されているというお話も出ました。他にも65～66ページの北アメリカ州、79～80ページのオセアニア州もご覧ください。こちらも同様のことが言えます。続いて、日本の諸地域では、93～94ページをご覧ください。先ほどの鳥瞰図とは違うのですが、日本の諸地域においても子供たちが親しみやすいイラストを多数掲載しています。子供たちが興味・関心をもって学習に取り組めるように工夫が見られました。その他、5、6、7、8、9の項目についても、特に優れた内容が見られました。詳しくは報告書をご覧ください。

次に調査研究報告書 A-2 の 2 の項目について、地理と歴史を関連付けて、多面的・多角的に考察できるよう工夫されていました。例えば、85～86ページをご覧ください。ここでは琉球・沖縄の歴史年表が85ページに掲載されています。「地図で発見！」という問いでは、地図と歴史を関連付けて考えることができる問いがあります。続いて93～94ページをご覧ください。ここでは絵図と年表が掲載されています。「地図で発見！」という問いでは、

歴史と地形を関連付けて考察する問いが設けてありました。今の絵図とよく似ているのですが、35～36 ページにも東アジアと日本の交流を表した絵図があります。これは大陸から見た日本の絵図なので、日本が逆さまに描かれています。こういったところからも多角的に見ることができる絵図ではないかと思います。このように年表や絵図が充実しており、歴史の学習に関連する問いや過去の地図も分かりやすく示されて、歴史の学習内容と関連させて考察することができるような工夫が見られました。その他、3 の項目においても優れた内容が見られました。詳しくは報告書をご覧ください。以上で地図の説明を終わらせていただきます。

(選定委員長) ありがとうございます。では委員の皆さま、お願いします。

(選定委員) 地図2者ということで、どちらも昔の地図に比べると色遣いなどいろいろなところで工夫がされていて、どちらも地図として見やすいかなと思いました。委員長からの説明の中で、東京書籍よりも帝国書院の方の報告書の書きぶりとして、「多面的・多角的に読み取ること」や「主体的に」というふうに書かれているのですが、説明があった中でも見られるように、やはり社会科の地理的な分野での一つの課題、地理的な分野だけではないのですが、やはり多面的・多角的に考える視点はとても大事なので、そういう意味で帝国書院の方が東京書籍よりも、生徒がそういう学習に取り組めるような工夫がされていると捉えてよろしいのでしょうか。

(地理調査委員長) はい。そのとおりです。

(選定委員長) ありがとうございます。他、ご質問はありますか。

(選定委員) 先ほど地理で、地図と同じ発行者がよいのかという話があったのですが、社会科では地図は別に地理で使うだけではなくて、歴史や公民の授業でもしっかりと使うことがあります。どうしても地理の比重が高くなるのですが、歴史や公民の分野でも使います。それで、A-2 では歴史的分野や公民的分野との関連に関する事項が三つのうち二つ出ているということで、東京書籍と帝国書院の二つを比べたときに、報告書に書かれているように、帝国書院の方が歴史的分野、公民的分野との関連の中で、思考を深めたり、多面的・多角的に考察できるという視点で見ると、やはり帝国書院の方がそういう工夫がされているのかなと自分も思いました。先ほどの説明の中にも帝国書院の方であったのですが、歴史でも公民でも、そういったところが見られるということによろしいでしょうか。

(地図調査委員長) はい。帝国書院の方がそういった資料が豊富です。さらに、例を挙げてもよろしいでしょうか。帝国書院の9ページから14ページです。SDGsや公民に関係する資料かなと思います。奇数ページの上に主題学習というのが載っていて、こういったテーマを活用して考えること、そして例えば9ページのア～カの資料は、いろいろな確度から地球環境問題が見られる。10ページのキ～ケの資料は、いろいろな国での環境問題の取り組みなので、多角的に学べることがある。資料がたくさんあることによって、そうい

ったことができる工夫があると思います。

(選定委員長) ありがとうございます。他にご質問はいかがでしょうか。

私の方から。地理分野の学習でなくても、地図を使うということですね。地図は必要なときに先生が指示して持ってくるのですか。使うときに、どのようにされているのでしょうか。

(地図調査委員長) 一昔前は、地図は地理の授業で持ってきてください、地理が終わったら持ち帰ってくださいというふうにしていたのですが、最近は学校に置いてあるので、いつでも使えますし、どの授業でも使えるかなと思います。

(選定委員長) いつでも、先生は必要ときに「今日は地図を使います」という形で学習できるということですね。ありがとうございます。

それと、前の地理で話が出たのですが、同じ発行者の方が使いやすいですか。あまり関係ないですか。地図と地理は、歴史や公民でも使うといわれるから、一緒になる確率の方があれなのかもしれないけれども、個人的見解でもありましたら。

(地図調査委員長) 地理だけで使うのでしたら同じ方がいいのかなと思うのですが、公民や歴史で使うときは、どの発行者もよいと思います。

(選定委員長) 分かりました。ありがとうございます。

他、いかがでしょうか。ご質問ございましたら。よろしいでしょうか。そうしましたら、事務局の方からご報告をお願いします。

(学校指導課長) それでは資料Bの6ページをご覧ください。「各学校における教科用図書研究委員会_調査研究報告書について」です。東京書籍については、項目2で帝国書院より多くの意見が挙がっております。帝国書院については、項目1、項目3、項目5で東京書籍よりも多くの意見が挙がっております。意見の総数についても、東京書籍より多くなっております。資料Cについては、市民からの意見はございませんでした。以上で報告を終わります。

(選定委員長) では、審議に移りたいと思います。皆さまから報告書に対しての修正や削除、付け加えなどがございましたら、ご意見あるいは修正でなくても、ご感想も含めてよろしく願います。

(選定委員) 二つを比べたときに、東京書籍の方は子供たちに考えさせるようなテーマ設定が分かりやすいなと思ったのですが、昨今の例えば公立等の入試であったり、学習指導要領の変化だったりを見ていると、人口が事実として嘘をつかないものであり、人口動態に関するものは帝国書院の方が詳しいなと思います。北アメリカ州やヨーロッパ州における移民受け入れがどうやって農業政策に転化しているかとか、その辺も2年前の入試

問題に出ていたりしていますし、そう考えると帝国書院の方が、人口に関すること、政策がどう変わってきているかということがひもづけられて示されていますので、そういった意味では今後の学びとしては必要かなと感じました。

(選定委員長) ありがとうございます。ご意見としてまた報告させていただきたいと思います。他にいかがでしょうか。お願いします。

(選定委員) 帝国書院の表紙を見ると、見慣れた感じといますか、懐かしい感じといますか、義務教育が終わって地図は手元に残しておいたなということを思いながら見せていただきました。索引を先ほどから見せていただくと、帝国書院の方が索引のページが2ページ多いのです。なぜ多いのだろうと思って見ると、単なる地名ではなく名所旧跡、先ほどから歴史や地理の授業とも結び付くような、その辺のものが索引の中に入っています。地名については、世界もそうですが、何十年単位で地名が変わることもあるのですが、少し手元に資料として長く置いておきたいなという感じを受けました。以上です。

(選定委員長) ありがとうございます。他、ご感想を含めて結構ですけれども、いかがでしょうか。

(選定委員) 私も似ているのですが、昔は地図は見て暗記するものだと思っていたのが、今は見て考えるものだと思ったのがすごく驚いたことです。特に帝国書院の方を見ると、各種学力調査は今、複数の資料を読み取って課題について考える、答えるということですが、それにすごくよく対応しているなど思いました。教科書を教えるのではなくて、教科書で教えるのだとよく言われるのですが、まさに本当にこれを見ながら、それをしていかなければいけないな、大変だなというふうに思いました。

(選定委員長) ありがとうございます。他、いかがでしょうか。

(選定委員) 私も今まで地図帳は地理のおまけみたいな感覚で、地図帳だけを眺めることはあまりなかったし、記憶にも残っていないなど思ったのですが、今の地図帳を見たときに、地図帳単体で見ても学びが多くて、この教科書一つだけでもすごく勉強できるのだなと思いました。先ほどの委員もおっしゃっていましたが、資料を複数読み取って考えるという試験問題が非常に多いので、この地図帳はすごく勉強になるし、良いなと思いました。

(選定委員) 先ほど、地図帳は地理だけでなく歴史にも公民にも、他の教科にも関係してくるのだと。例えば理科は、気象とか天体をするにしても地図は大事ですし、それから見ると、帝国書院の方が、他教科での使いやすさがあると思うのです。本当に、卒業しても手元にある教科書というか、地図帳が各家にあると思うので。地図帳と地球儀は絶対に置いておくものですから、ぜひ、見やすさといったら帝国書院の方が、他教科でも使えるかなという気はします。以上です。

(選定委員長) ありがとうございます。他、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。私の方も、皆さまのご意見の集約にはなりますが、参考にさせていただきながら、同じような感想をもちました。特に地図というと、本当に地図だけというイメージが昔はあったのですが、今は本当に資料性が高いものが多い。しかし、逆に多過ぎてしまうとどこを見ていいのか分からない部分もあり、地図が細かければ細かいほどいいのかというと、どこを見ていいのか分からなくなる部分があります。そういう中で帝国書院の方は、例えば南アメリカの資料などは72ページなどを見ますと、地図の細かいものから、鳥瞰図があると本当に大事なところと、結構地図と違ってこういうものを見ると、ちょっとわくわくする部分もあるかなと。興味・関心の部分でも、もう一回地図を開いてみようかなという気持ちになる子もいるのかなという感想をもちました。以上でございます。

他、特にご感想がないようでしたら、まとめさせていただきますけれども、特に修正等はありませんでしたので、確認させていただきます。報告書Aの内容について特に修正のご意見はありませんでしたので、調査委員会の報告の内容を尊重するとともに、地図における教科書採択の答申を以上のように作成してもよろしいでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) では、確認を取ったということでありがとうございました。

4. 閉会挨拶

(選定委員長) 委員の皆さま、ご協力ありがとうございました。これで本日予定していた4種目の審議が終わりました。本日審議された結果は、本選定委員会の答申として教育委員会へ提出していきたいと思っております。今度は7月22日になりますが、技術、家庭、数学、理科の4種目についてご審議いただく予定でございます。次回もどうぞよろしく願いいたします。

では、司会を事務局にお返ししたいと思います。よろしく申し上げます。

(事務局) 委員の皆さま、長時間にわたり審議していただき、ありがとうございました。ただ今、委員長からお話がありましたように、第3回選定委員会は7月22日(月)13時から、本日と同じこの会場にて4種目について審議していただきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

以上をもちまして、第2回金沢市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会を終了いたします。本日はお疲れさまでした。

令和6年度 第3回金沢市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会

日時：令和6年7月22日（月）13:00～17:00

場所：金沢市教育プラザ富樫 121・122 研修室

（事務局） 委員の皆さま、本日もお集まりいただきましてありがとうございます。ただ今より、第3回金沢市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会を開催いたします。机上には7月16日と同様の資料を配付させていただいております。ご確認ください。

それでは、この後の議事進行を選定委員長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

（選定委員長） 皆さん、こんにちは。本日も4種目について審議していただくことになります。よろしくお願いいたします。それでは早速審議に移りたいと思いますけれども、技術から順に行ってまいります。では、技術について調査委員長の方で準備ができましたらご報告いただければと思います。

⑤技術

（技術調査委員長） ただ今より、技術・家庭科（技術分野）の教科書の調査結果についてご報告いたします。技術・家庭科（技術分野）については、3者の発行者について調査いたしました。

まず東京書籍について、調査研究報告書のA-1の項目1について、基本的な知識や技能の習得について優れている点を説明させていただきます。教科書は、32、33、42ページをご覧ください。このページは「材料と加工の技術」の分野で、問題解決するために技術の原理・原則や基礎的な技術の仕組みを「技術のとびら」、身に付ける必要のある技能を「TECH Lab」にまとめ、取り組む課題に応じて習得した技術を適切に選択できるように工夫されています。また、本文の内容を裏付ける図などを掲載することで、科学的な思考に基づく知識が習得できるように工夫されています。その他、2・5・6・7・8の項目においても特に優れた内容が見られました。

次に調査研究報告書、A-2の項目4について優れている点を説明させていただきます。教科書は264、265ページをご覧ください。「すごいぞ！技術」では、持続可能な社会の構築に向けて情報技術の活用例が具体的に掲載され、AIやメタバース、防災教育など、他教科との横のつながりを図る内容が充実しております。さまざまな技術によって社会を豊かにしようとして活躍している方々の具体例を知ることで、子供たちの積極的な学びにつながるかと考えております。その他、1・2・3の項目においても、特に優れた内容が見られました。

続きまして、教育図書については、調査研究報告書A-1の項目3について、生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習で優れている点を説明させていただきます。教科書は86～89ページをご覧ください。このページは、生物育成の分野で問題解決する手順が丁寧に掲載されています。特に4コマ漫画で計画・実行・評価・改善のプロセスが具体的に示されており、会話式になっているため生徒たちが自主的・自発的に取り組みができるよう配慮されています。また、89ページの「考えてみよう」ではこれまでに学んだ育成方法

を振り返り、次の栽培に向けての改善点や新たな視点を明記し、未来に向けてより具体的に考える機会がもてるように工夫されています。その他、4の項目においても特に優れた内容が見られました。

次に、調査研究報告書 A-2 の項目 1 について説明させていただきます。教科書は 31 ページをご覧ください。ペットボトルを例に、製品に込められた工夫を調べ考えることで、生活や社会からの要求や安全性、環境負荷の軽減、経済性など、社会的・環境的・経済的な視点で技術を評価し、活用する能力を育成できるように工夫しています。その他、2 の項目においても優れた内容が見られました。

続きまして開隆堂については、調査報告書 A-1 の項目 9 について、「自分でみんなで考える金沢型学習スタイル」に基づいている点を説明させていただきます。教科書は 276、277 ページをご覧ください。各章にも配列されていますが、問題解決の振り返りシートで成果の発表や自己評価、相互評価を行うなどの言語活動を充実させ、言語能力を養えるように工夫されています。また最適化やトレードオフの観点から、自分がどの内容を重視しているかを記入し、作品をより良くするためにどのように考えるのか、基礎を深める手立てとなっています。その他、1 の項目においても特に優れた内容が見られました。

次に、調査研究報告書 A-2 の項目 1 について説明させていただきます。教科書は 100、101 ページをご覧ください。これからの技術についての活用事例が具体的に数多く取り上げられており、3D プリンターなど将来的にも技術に関心や課題意識をもてるように工夫されています。未来に向けて、新しい材料や技術がどのようなものかという問題提起もあり、未来のあり方について他者と考えるような手立てになっております。

以上で技術・家庭科（技術分野）の教科書の説明を終わらせていただきます。よろしくお願いたします。

（選定委員長） ありがとうございます。では、委員の皆さまからご質問等ございましたらお願いたします。

（選定委員） では、質問させていただきます。A-1 の項目 2 についてです。各者とも思考する内容が工夫されているとありますが、東京書籍は「思考を深められるよう工夫されている」と書かれており、他の教科書については「思考する内容になるよう工夫されている」「思考できるように工夫されている」と書いてあることについて、違いを教えてください。

（技術調査委員長） それではお答えします。思考が深められるということで、東京書籍については 33 ページの「やってみよう」という項目をご覧ください。実際に自分たちが考えたり取り組んだりすることで、自分たちの思考を広げたり深めたりすることができるかと考え、2 の項目はそのように表しました。

あと、教育図書、開隆堂については、実際の課題は出ているものの、それを深めたりする部分が少し薄かったと感じております。以上です。

（選定委員長） よろしいですか。

(選定委員) はい、ありがとうございます。

(選定委員長) 他、いかがでしょうか、ご質問等ございましたらお願いします。

(選定副委員長) 技術科の内容の構成の特徴として、原理や法則、基礎的な技術の仕組みの理解の内容と、問題解決の活動に関する内容、さらにはこれからの社会の発展と技術の在り方を考える活動、こういう三つの内容構成になっていると思います。そうした点でこの3者において、この内容について特に優れているということが、今回の調査研究項目の中に反映されているか、あるいはもし反映されていない場合は私たち委員が考慮する必要がありましたら付け加えていただければと思います。

(技術調査委員長) 3者とも基本的には知識・理解、技術の原理・原則の仕組みを理解する、その理解に基づいて自分たちが課題を発見し、それを解決するために事前に原理・原則を知っている必要があるということになります。そしてその課題を解決した後に、自分たちで評価・改善をします。評価・改善では、自分に取り組んできたことはもちろん、周りからの意見なども聞いて、より良く次に生かすためにどのように取り組むかということに触れています。最後に「未来へ」ということで、それが自分のみならず社会全体でどのように扱われているか、そして自分たちの生活をより良くするために何ができるかというようなことを考える、3段階の構成になっています。よろしいでしょうか。

(選定副委員長) 中学校学習指導要領に示された内容の構成に基づいて、各者が、四つの内容を、章・節構成で記述されていると思うのですが、そういう目を見たときに、この3者の教科書の特徴みたいところで、優れている、劣っているという違いが明らかにあるようでしたら、ここで教えていただければと思います。

(技術調査委員長) それではまず、東京書籍から説明します。58、59ページをご覧ください。まずは「問題の発見と課題の設定」ということで学習課題が示されております。そして実際に課題を設定し、そして最終的に「まとめ」「振り返ろう」という形で構成されています。これが東京書籍の大きなところです。

次に教育図書におきましては、教科書の222、223ページをご覧ください。これは先ほども説明したように、漫画で分かりやすく説明されています。基本的には「めあて」があります。そして「学ぶ」ということで問題を解決する流れを示し、最後に実際に実行してみまして、最後は「振り返る」という形で構成されています。

最後に開隆堂におきましては、16、17ページをご覧ください。これも学習課題、問題を解決するための手順、そして原理・原則を技術の仕組みとして捉えまして、最後に実際にそれについて調べてみるという流れになっています。最後に調べて、まとめを行うという形で構成されています。これでよろしかったでしょうか。

(選定副委員長) 今は特に問題解決に関する内容についてのご説明だったかと思います。

そうすると今、ご説明いただいたようなことは、調査研究項目のA-1の9の項目、金沢型学習スタイルに基づく学習展開に関する項目の中にそうした調査結果が反映されると考えてもよろしいでしょうか。

(技術調査委員長) はい、そうです。

(選定委員長) 選定委員、お願いいたします。

(選定委員) お願いします。技術・家庭の技術の分野において、A-1の5の項目に「各教科との関連」ということがあると思います。特に技術・家庭においては理科との関連などがあると思うのですが、その辺で教科書の特徴があつたら教えていただきたいと思っています。

(技術調査委員長) 理科との関連でいきますと、特にエネルギーに関する技術の分野が大きいと思います。例えば、教育図書では118ページの「電気回路のしくみ」というところでは「中学校・理科」という形で関連が示されています。

(選定委員) ありがとうございます。

(選定委員長) よろしいでしょうか。他にいかがでしょうか。

(選定委員) それでは一つ教えてください。A-1の8の項目、金沢ベーシックカリキュラム等を踏まえた指導との関連ということで、後ほど家庭分野の教科書についても話し合いがされるわけですが、家庭分野と違って技術分野が金沢ベーシックカリキュラムと関連するのはなかなか難しいのではないかと考えています。家庭分野のように、食文化や衣文化が金沢の特長として濃く捉えられる部分とは違って、技術は関連を図るのは難しいのではないかと考えているのです。A-1の報告書を見ますと3者それぞれ表記が異なっております。何をポイントとして、どの発行者が優れているのかお聞かせ願えればと思います。お願いします。

(技術調査委員長) 東京書籍も教育図書も、インクルーシブ教育については触れているのですが、東京書籍においてはコンピュータを利用した防災に関わる中身を非常に詳しく出しているということで工夫されていると思われまます。開隆堂におきましては、環境や共生に関する中身については出ておりますが、金沢市により近い中身について、少し内容が弱かったのではないかなという形で、このような表記にさせていただきました。

(選定委員) ありがとうございます。

(選定委員長) 他、いかがでしょうか。そうしましたら、私の方から。道具の使い方や安全性も含めて3者で何か違いがあるかどうかを教えてください。

(技術調査委員長) まず、東京書籍につきましては42、43ページをご覧ください。ここでは、例えばのこぎりや金属を切る弓のこなどの使い方が示されています。先ほども説明したように、東京書籍については「あさり」の原理・原則を分かりやすく説明しております。

続いて、教育図書につきましては別冊の「スキルアシスト」というものがあると思います。それをご覧ください。ここも同じようにして、のこぎりの仕組みについては記載されていますし、同様に「あさりの特性」という形で、特に細かいところまでは示されていませんが、記載されています。

最後は開隆堂です。開隆堂は34、35ページをご覧ください。開隆堂におきましては、使う材質によってページを変えています。今、「木材の加工」と書いてありますので、のこぎりにつきましてはそこに書いてありますけれども、先ほど東京書籍で出てきた弓のこについては、また別のページに記載されています。

(選定委員長) 3者であり差はないということによろしいでしょうか。特に安全面や道具の使い方は、この者の方が分かりやすいというのがありますでしょうか。

(技術調査委員長) 安全面につきましては幾つかあるのですが、どの発行者も安全という形でマークが付いており、教科書の最初の方に、一般的な安全について述べられています。開隆堂におきましては、今使っているコンピュータやスマートフォンなどを使うときの注意事項についても述べています。

(選定委員長) 最近AIに関しても社会的に話題になっていると思いますが、情報に関連することだと思いますが、AIに関して、何か解釈していたり、それについてコメントしていたりと、よく取り扱っている発行者がありますでしょうか。

(技術調査委員長) それでは、また教科書に戻りますが、まず教育図書からお願いします。先ほどお話が出ていましたAIというのは、今後社会の発展でどういうふうにして情報の技術が扱われるかということにつながっているのではないかと思います。教育図書については、242、243ページにその内容が述べられております。東京書籍におきましては、最後の⑤、⑥のSociety5.0の中身が見開きで掲載されていると同時に、今日的な課題であるSDGsについても10、11ページに掲載されています。最後に、開隆堂は24、25ページに掲載されています。開隆堂については四つの領域の中での学習に関連させた内容で述べられています。

(選定委員長) ありがとうございます。他、いかがでしょうか、ご質問がありましたら。

そうしましたら、続きまして事務局より各学校の研究委員会報告、および教科書展示会における市民や保護者の意見を報告していただきます。課長、お願いします。

(学校指導課長) それでは、資料Bの13ページをご覧ください。「各学校における教科用図書研究委員会_調査研究報告書」になります。

東京書籍につきましては、項目1、項目2、項目3、項目4で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられております。全体の意見の総数については最も多くなっております。続きまして教育図書です。項目1、項目5で多くの意見が挙げられております。開隆堂につきましては項目1や項目3、項目5で、全発行者の中で最も多くの意見が挙げられております。全体の意見の総数につきましては、東京書籍に次いで2番目に多くなっております。

資料Cの市民からの意見はございませんでした。以上で報告を終わります。

(選定委員長) ありがとうございます。それでは、審議に移りたいと思います。技術に関しまして、特にAの資料で修正・加筆したい部分を中心に、ご意見等をお願いいたします。もし修正等がなければご感想を含めていただいて結構ですけれども、いかがでしょうか。

(選定委員) 今回、技術科の教科書を見させていただいて、本当にこれからの世の中を何とかしなければいけないと考えていく生徒たちが、この教科書を使ってどう考えていくのだろうと改めて感じました。その中において、東京書籍がこれからの防災やAIなどいろいろなことについてとても詳しく書かれているのではないかというふうに思いました。

(選定委員長) ありがとうございます。他、いかがでしょうか。

(選定委員) 皆さまご存じのとおり、技術分野というのは中学校にしかない分野です。小学校のときには図画工作の時間だったり、あるいは高校へ行くと情報の授業だったりということなのですが、先ほどいろいろな委員のお話に出てきております、例えば持続可能な社会の構築のことを考えるには、この分野しかないだろうと考えています。

プラスして、昨今いわれておりますSTEAM教育との関連で言うと、技術を使いこなすだけではなくて技術をつくる能力もこれからは求められていくということを考えますと、この教科書を入り口にして子供たちの興味・関心が技術をつくる能力の方に広がっていき、AIをどう使いこなすのかということまで子供たちが考えてくれればいいなと思っています。

(選定委員長) ありがとうございます。他、いかがでしょうか。

(選定委員) 先ほどの委員が言ったように、次のステップ、特に工業高校などに進学する生徒にとってはここがすごく第一歩になるということで、どの教科書を見ても工業系の方へ進む子供たちには後押しになってくると思っています。そして、先ほども質問しましたが、他教科との関連については、やはり東京書籍はすごく丁寧に書いてあるかなという感想です。

(選定委員長) ありがとうございます。他、いかがでしょうか。

(選定委員) 先ほどの委員の意見と重なるところがたくさんあるのですが、最近、もの

づくり大国・日本において、工業高校への進学は少ないように思います。そういう意味でも、ものづくりというものを主眼に置いている技術・家庭の教科というのは、そういう領域への関心を高めるためにも、とても重要な教科であると考えています。そういう意味では安心・安全がもちろん大事なのですが、この教科書を使っていろいろなものづくりをするに際して、最も適した教科書を採択できればいいのではないかと考えます。

(選定委員長) ありがとうございます。他、いかがでしょうか。

(選定委員) 情報モラルを取り扱った項目は東京書籍が一番分かりやすかったと思っています。検索エンジンの使い方だったり、情報の真偽をどうやって判断すればいいのかというところだったり、道徳でも扱う内容だと思うのですが、この内容を各者比較したときに、一番子供たちが見ても分かりやすい書き方になっていると思いました。

(選定委員長) ありがとうございます。他、いかがでしょうか。私の方から。場合によっては調査委員長からコメントを頂きたいのですが、日本は科学技術の大国であります。自分は理系ですが、理工系の教授の中には小さなときから物を分解してみたり作ってみたり、そういうことにワクワクドキドキしている人が科学者になってきているところがあります。最近、そういうことが足りないように感じます。

日本という国、あるいはこの地域における金沢も非常に科学に力を入れていただいている地であると思います。子供の視点から見ると何かこの教科書はワクワクドキドキするところがありましたら教えていただければと思います。

(技術調査委員長) 実際に子供たちは、今どういう技術があるのかを知らないで、どういうふうにして扱われているかというのを考える一つの手だてとして、例えば東京書籍の196、197ページに「すごいぞ！技術」というものがあります。例えば洋上風力発電はどのように使われているかを子供たちが目にしたとき、では自分たちは次に何ができるのだろうか、何を作れるのだろうかということを考えることができるのではないかと思います。

併せて、教育図書については4ページ、そして5ページをご覧ください。この場合は過去からの技術、そして現代、その先までどういう技術が作られているのかについて製作者の思いを考えながら、自分たちでできるもの、そして新たなものを開発するということが必要なのではないかと子供たちが考えるようになると思われれます。

最後に開隆堂の288ページ、そして289ページをご覧ください。技術分野で習う四つの領域の融合でこのようなことができるのだということを紹介しながら、自分たちの生活をより良くするためにできる手だてを考えていけるような構成になっているのではないかなと思います。

(選定委員長) ありがとうございます。ご質問、ご意見が特になければ、まとめさせていただきたいと思っています。では、確認させていただきます。特に修正等のご意見はございませんでしたので、調査委員会の報告書の内容を尊重して、技術における教科書採択の答申を作成したいと思いますけれども、よろしいでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) ありがとうございます。それでは認めていただいたということで、また他者と比べて特に評価が高かった発行者について、選定委員会として3者のうちの2者を選びたいと思っているのですが、まずはAの資料から考えて東京書籍はいいと思うのです。報告書の方でいただいたご意見からは教育図書の方が開隆堂より優れているのかなと思いますが、いかがでしょうか。開隆堂の方が各学校での調査では意見は多いのですが、どういたしましょうか。答申書に記載する内容を尊重させていただくと、全般的には学校での意見数というのは3者ともそう大きくは変わらないので、東京書籍、教育図書という2者を報告させていただくということによろしいでしょうか。特にこれに対してご意見はございませんでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) 特にご異論がないようでしたら東京書籍と教育図書ということで、選定委員会としては評価が高かった発行者ということで報告させていただきたいと思います。ありがとうございました。

⑥家庭

(選定委員長) それでは家庭科について審議を行いたいと思いますので、まず調査委員長から、準備できましたら報告をお願いいたします。

(家庭調査委員長) ただ今より、技術・家庭科(家庭分野)の教科書の調査結果について報告いたします。家庭分野については3者の発行者について調査いたしました。

まず東京書籍について、調査研究報告書A-1の6の項目について、系統的に学習を進めていく上での構成が大変優れています。1ページをご覧ください。ガイダンスと家庭の仕事や家族の機能等に関する内容を扱う学習を「1編」に、高等学校や社会へつながる内容を扱う学習を「6編」に構成しており、3学年間の学習にストーリー性をもたせて組み立てています。この点は生徒の発達段階に沿った構成で、免許外の先生方にも扱いやすい内容であります。各編末に持続可能な社会との関わりを考える内容を盛り込んでいる点も優れています。その他、1、2、5、9、の項目においても特に優れた内容が見られます。詳しくは報告書をご覧ください。

次に調査研究報告書A-2の6の項目について、実習の手順等が大変分かりやすく示されている点で大変優れています。82、83ページをご覧ください。実習例として「ぶた肉のしょうが焼き」が取り上げられています。調理手順を2ページにわたり、横の流れで分かりやすく示しています。主菜と組み合わせる副菜の調理についても同ページに記載し、献立としてイメージができるようになっています。写真も鮮明なものを扱っていて、生徒の作

ってみたいという意欲付けに効果的だと考えられます。調理上のポイントや火加減なども、色やイラストを工夫して分かりやすく示されている点が大変優れています。その他、5、7、8、9、11においても特に優れた内容が見られます。詳しくは報告書をご覧ください。

次に教育図書について、調査研究報告書 A-1 の 2 の項目について、基礎的・基本的な内容の学習から主体的に学習内容を深められるように「考えてみよう」「話し合ってみよう」「調べてみよう」などの活動が具体的に示されている点が大変優れています。17 ページをご覧ください。家族との関係について考える活動について小学生のときと比べて考えることや、他の人の家にショートステイしたらどうかを考えるなど、具体的に示されています。イラストも多く使われており、より活動がイメージしやすいように記載されています。27 ページをご覧ください。「体験してみよう」でも、高齢者疑似体験の動作体験の例や、高齢者との関わり方をイラストで示しており、大変分かりやすい記載になっています。その他、3、4、7、の項目においても、特に優れた内容が見られます。詳しくは報告書をご覧ください。

次に調査研究報告書 A-2 の 5 の項目について、食品の概量として 1 回に食べやすい分量や調理しやすい分量が分かりやすく示されている点が大変優れています。88 ページ、折り込みページをご覧ください。各食品群の食品の概量が写真を用いて分かりやすく示されています。また、実際の食品の大きさと同サイズの写真の掲載により、実際の食品をイメージし、より実践につながりやすいものとなっている点も大変優れています。その他、1、4 の項目においても特に優れた内容が見られます。詳しくは報告書をご覧ください。

最後に開隆堂について、調査研究報告書 A-1 の 7 の項目について、実物大の写真やイラストなどの工夫で、学習内容を視覚的にイメージしやすく工夫されている点が大変優れています。104、105 ページをご覧ください。体内の食べ物の変化がより分かりやすくイラストで示されています。122、123 ページをご覧ください。野菜の切り方について、写真を用いて切り方の過程も分かりやすく示されています。その他、2、3、4、5、6、9 の項目においても特に優れた内容が見られます。詳しくは報告書をご覧ください。

次に調査研究報告書 A-2 の 8 の項目について、布を用いた作品例として、学校生活や非常時に備えた作品例が取り上げられています。224、225 ページをご覧ください。衣服をリメイクした製作例も取り上げられており、持続可能な衣生活を目指した工夫も盛り込まれている点が大変優れています。その他、2、3、4、6、9、10、12 の項目においても特に優れた内容が見られます。詳しくは報告書をご覧ください。以上で技術・家庭科（家庭分野）の調査研究の報告を終わります。

（選定委員長） ありがとうございます。それでは委員の皆さま、ご質問がありましたらお願いいたします。いかがでしょうか。

（選定委員） それでは教えてください。A-1 の 8 の項目番、金沢ベーシックカリキュラムとの関連です。以前より食文化から衣生活について、金沢らしさというものが教科書にも各者散りばめられてきたと思っているのですがけれども、今回、報告書の内容が同じようになっています。何か少し違い等見られましたら、もう少し詳しく説明をお願いします。

(選定委員長) お願いします。

(家庭調査委員長) まず8の項目の金沢市、それから生徒の実態に即しているという金沢との関連については各者、資料として載せられています。東京書籍については雪止め、加賀友禅、かぶら寿しなどです。今見ているページは郷土料理のページですが、このような記載があります。また教育図書については、同じように郷土料理のところで加賀太きゅうりや治部煮の記載があります。開隆堂については同じように郷土料理の記載もありますが、制服のリユースについて金沢市の取り組みが他の教科書よりも大きめに記載されていました。

ベーシックカリキュラムについては、金沢市として組み立てていく中で、東京書籍の「1編」から「6編」の構成が3年間の授業の流れにより近い形で記載されているということから、東京書籍は他の発行者と比較して特徴があると思います。

(選定委員長) ありがとうございます。よろしいでしょうか。

(選定委員) A-2の資料の9の項目で、この前の地震を含めて、災害時に対して家庭科の教科書で、特に今、押さえている部分があれば紹介していただきたいのです。

(家庭調査委員長) 東京書籍については、「安全な住まい方」ということで、184ページ、185ページに掲載されています。「中高生が被災時にできたこと」、それから「避難所や仮設住宅での暮らしをよりよくする工夫」ということから考えられるようになっています。特に福島県、宮城県など東日本の震災の例も載っています。また、286ページの巻末の資料に、「災害に備える工夫」という資料があります。東京書籍は二次元コードから読み取る資料がとても多く「防災・減災手帳」のような以前は教科書の巻末に切り離し式で付いていた内容が、今回の教科書では二次元コードで読み取れるようになっています。

続きまして教育図書については、同じように災害に備えた住まいという内容があります。216ページの「自然災害への備え」では、このようにイラストが多く使われており、必要な備えや避難の備え等も記載されています。

開隆堂については、ハザードマップ、それから「私たちの防災」という資料も多く掲載されています。平常時からの備え、それから災害発生時の対応ということが記載されているページも多いです。開隆堂も二次元コードから動画等の関連資料を見ることができます。

(選定委員) ありがとうございます。

(選定委員長) よろしいでしょうか。他、いかがでしょうか。

(選定副委員長) 東京書籍1者が中学校学習指導要領における家庭分野の内容のA、B、Cの分け方を工夫したのでしょうか。冒頭に、第1編の中で、特に第2章の「私たちの家族と家庭生活」ということで家族・家庭生活から入り、第6編の中で「私たちの成長と家族・地域」ということで、家族生活の内容で終える点が他者と異なっているように見えた

のですが、そうした変更というのは、調査委員会では判断されているのでしょうか。

(家庭調査委員長) 3 学年間の中で、どこを先に学習するかとか、何年生でどこを学習するかということがそれぞれ学校で違っており、金沢市では金沢ベーシックカリキュラムで統一しています。あと、細かいところで各学校の実情に合わせてというところはあると思うのですが「1 編」のところはどちらかという小学校からの学習、それから自分の自立というところをベースにしています。ガイダンスというものはどの教科書も最初に学習して進めていくのですが、そこからつながる生活の自立という点が、進めやすい内容になっているかなと思います。

「6 編」のところは、金沢市の場合、幼児の生活などは2年生で扱うところが多いので、金沢市の実習の仕方では少し違っているところもあるのですが、「6 編」を3年生の最後にとすることで自分自身の成長とか、高等学校につなげるという点では、進めやすい流れなのではないかなと思います。

(選定副委員長) ということは、金沢市のカリキュラムのように内容指導の順序があり、東京書籍を含め、どの者もその点では対応できているということでしょうか。

(家庭調査委員長) はい。

(選定委員長) 他、いかがでしょうか。それでは私の方から。この前、夏休み前に小学校に行ったときに、子供が家庭科で玉結びを一生懸命やっていて、ちゃんとできているなと思って見ていたら、「最近、本当におうちでも、雑巾といってもお店で買ってきて、あまり縫うことがなかったりするの」という話を聞いたので、確かにそういう機会がないのかと思いました。今の金沢市の中学生にとって手縫いをする時に子供たちの実情に合って使いやすい教科書というのはありますでしょうか。

(家庭調査委員長) 手縫いは、小学校で習った内容を中学校で復習しながら、いろいろな生活に役立つものづくりというところにつなげていくのですが、東京書籍については補修のページが写真などを使って説明されています。このように用具の説明や手縫いのページでは、どの発行者も割と色も見やすく写真が使われていると思います。失敗例なども載っているので、こういうところは参考になるのかなと思います。

教育図書については大きさは少し小さめですが、このように写真や説明をまとめており、ミシン縫いの途中でほつれたときの対処法などの、補足もあります。

開隆堂についてですが、ボタン付けなども横から見た様子が載っているので、技術面・技能面に関しては写真やイラストでポイントを押さえてあるものが多いと思います。以上です。

(選定委員長) ありがとうございます。他、いかがでしょうか。

(選定委員) 説明ありがとうございます。今までの意見に重なるところがあると思うの

ですが、先ほどの技術も家庭も、やはり写真やイラストや動画というのはとても大事なと感じましたし、自分たちのときの教科書と比べるととても整理されていて、子供たちにとって分かりやすいと思いました。調査委員長の説明からもイラストや写真や動画が大事だと感じられましたけれども、もしこの3者のうちで、これまでにないすごい使い方があるとか、他者と違ってすごくいい使い方をしていると感じた発行者がありましたら、教えていただければと思います。

(家庭調査委員長) 各者、やはり特徴があると思うのですが、同じような内容で比較すると分かりやすいと思うので、調理実習のところ、それから触れ合い体験のところを紹介したいと思います。調理の方で、「ぶた肉のしょうが焼き」というのは各者、同じように扱っています。今映している写真は東京書籍ですが、写真が鮮明で、2ページを使って流す手法、それからポイント、副菜などの組み合わせが見やすくなっていると思います。

同じページで教育図書については、全体的にイラストなどがすごく多く使われていて、よりイメージしやすいページもたくさんあります。調理に関しましては、最初に課題設定を位置付け、縦書きで表しています。失敗例も載っており、どうしてこうなったのか考えたり、食材の働きも分かるというのが特徴的だと思います。

開隆堂については、「調理方法のQ&A」が調理手順の下に載っており、また、「しょうがを入れるとどうなるのか」とか、「なぜフライパンを熱してから油を入れるのか」ということも載っています。また組み合わせ例、配膳例なども1ページの中で確認できます。調理のこういう変化を、各ページに関連した内容で載せてあるのが特徴です。

幼児とのふれあい体験に関してですが、東京書籍については、このように写真を多く使っており、幼児の施設でこのように体験しようということで紹介されています。最近いろいろなふれあい体験があるので、行くばかりではなくて中学校に招く、それからオンラインで交流するといったことも紹介しています。

教育図書については、ふれあい体験のポイント、それから技術のポイントなどもイラストを用いて細かく説明しています。ふれあうときのコツなどもあり、さまざまなふれあいということで写真を用いて紹介してあります。教育図書はどちらかというと触れ合い方のポイントが細かくきれいに載っていると思います。

最後、開隆堂については、行事等、園に行き交流する、それから学校に招待してみよう、オンライン、あとは子育て支援センターや子育てサークルに行ってみよう等、バラエティに富んだパターンを紹介していて、より具体的なのかと思います。以上です。

(選定委員長) よろしいでしょうか。他、いかがでしょうか。

(選定委員) 先ほど少し触れられていたと思うのですが、小規模校では専科の先生がおらず、免許外の先生が家庭科を受け持っていますし、市内でも技術の先生が家庭科も受け持っていらっしゃるという学校も結構あるように感じています。免許外の先生が扱いやすい教科書のポイントであるとか、そういった発行者の差異があるのかどうかを教えてください。

(家庭調査委員長) 先ほども少し触れたのですが、東京書籍については、ガイドンスから自立に向かった学習を進める中で食・衣というふうに各内容を進めていくといった点で、慣れていない先生でも最初からページに従って進めやすいのかなという扱い方になっています。

教育図書については、「考えてみよう」とか、先ほども言った「話し合ってみよう」というような、思考力や判断力を育成する具体的なページが多く、専門的な内容を割と詳しく書いてあるので、学習内容を踏まえてどのような活動を行うといいかということは、ここに書いてある内容と関連して進めやすいかなと思います。

開隆堂については、ガイドンスのページから、他者と同じように「話し合ってみよう」とか、「やってみよう」といったページもありますので、学習内容を踏まえた発展的な学習も、考えさせるような内容だとどうしようかなと迷われる先生も扱いやすいのかなと思います。割と身近な内容も扱っているし、写真やイラストなどもよく使われているので、そういった点で、資料などを自分で準備しなくても教科書に沿って進めやすいのかなと思います。以上です。

(選定委員長) よろしいでしょうか。他、いかがでしょうか。

(選定委員) 今の委員のお話にも少し関係してくると思うのですが、技術科の先生が家庭科を受け持っていて、あるいは体育の先生も受け持っていたりするのですが、そもそも技術・家庭というのは隔週で替わっていたり、前期・後期で替わっていたり、2年、3年と入れ替わったりするのですが、技術分野・家庭分野で発行者が同じ方が学習しやすいとか、あるいは資料が重なるからあまり良くないとか、そういったことはあるのでしょうか。

(家庭調査委員長) 今まで技術・家庭は同じ発行者だったので、イメージが難しいのですが、分野で学習内容が全く違うし、進め方も違うので、それぞれでも進められると思います。

(選定委員) ありがとうございます。

(選定委員長) ありがとうございます。他、いかがでしょうか。では続きまして、事務局より各学校の研究委員会報告、および教科書展示会における市民や保護者の意見の報告をしていただきます。課長、お願いします。

(学校指導課長) それでは資料Bの14ページをご覧ください。「各学校における教科用図書研究委員会_調査研究報告書について」です。東京書籍についてです。項目1、項目2で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられております。全体の意見の総数についても最も多くなっております。続きまして教育図書です。項目3で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられております。続きまして開隆堂についてです。項目2、項目4、項目5で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられております。全体の意見の総数につきましては、東京書籍に次いで2番目に多くなっております。

続きまして、資料Cの市民からの意見についてです。8ページをご覧ください。常設展示につきましては8ページの左の方です。開隆堂について意見が寄せられています。移動展示では12ページをご覧ください。左の欄の下の方です。2点寄せられています。1点目は、発行者は書いてありませんが、記載内容のことが書かれています。もう一つは東京書籍について意見が寄せられています。以上で報告を終わります。

(選定委員長) ありがとうございます。それでは審議に移りたいと思います。答申のために報告書に付け加えたらよいと考える意見や、修正・削除したらよいと考えるところがありましたらご意見をお願いします。また、ご感想等もあればお願いいたします。いかがでしょうか。

(選定委員) 前回のこの会議では地図帳を捨てられないというお話をさせていただいたのですけれども、家庭分野の教科書というのは1人暮らしの必須本といわれておまして、高校を卒業して大学で親元を離れるお子さんたちがなぜか3年以上も前の中学校の家庭科の教科書を持っているなどという話はよく聞かれています。高校の家庭分野の教科書は結構文字が多いので、今回見ていただいた教科書もそうですけれども、1食分を簡単に作れます。健康の一番の基になる食生活の充実については、この教科書1冊でかなり網羅できるのではないかなと思っています。

実は法律が変わり、18歳が成人ということになりまして、クレジットカードも作成できる年齢になります。金銭感覚を養う消費者教育については、高校生になってからでは、高校3年生の4月から18歳になるお子さんが出てきてしまうので、中学生のうちからきちんと身に付けさせてほしいというお話はここ数年よく聞きます。

また、基礎基本にどれだけ忠実な教科書なのかということも私は大事だなと思っています。昨今、ネットでもそうですし、あるいは販売されている本などにも、便利さを追求する、時短を追求するということがよく取り上げられているのですが、時代が変わっても変わらない基礎基本、大事にしたい生活の営み方のようなものがきちんと載っている教科書で、子供たちに指導できたらいいと思っています。以上です。

(選定委員長) ありがとうございます。他、いかがでしょうか。

(選定委員) 東京書籍の方は、本当に僕たちが習ってきた家庭科のようなベーシックなものだと思いますし、まさに一家に1冊あってもいいのかなと思っています。

一方で教育図書の方は、自分たちのこれからの消費活動において子供たちに知ってもらいたいことが多く書かれているので、その点は非常に分かりやすいというか、これからの学びなのだなということは理解しています。

一方、開隆堂の方はガイダンスになぜ家庭科を学ぶ必要があるのか、これから学ぶ必要があるのかということに対して、非常に分かりやすく書いてあり、客観的に見て入りやすい流れだなと思っています。特に特徴的なのは、多様な個人の考えや生活様式といった点にも触れていますので、これからのものは開隆堂なのかなと思う一方で、一般的なのは東京書籍の方でいいのかなという、こういった二つの見方があるのかなと感じました。以上

です。

(選定委員長) ありがとうございます、他、いかがでしょうか。

(選定委員) 今の委員の話にも似ていますが、開隆堂の教科書の中で、自己肯定感やヤングケアラーに関するページもあって、社会課題にも触れているという点では、考えてほしいテーマでもあるなと思いました。

(選定委員長) ありがとうございます。他、いかがでしょうか。

家庭分野では実技的な面が多かったのですが、今はいろいろな意味で家庭を中心に考えていく内容が非常に増えてきているのかなと思っております。その中で、先ほど申しました写真とか、場合によっては二次元コードでの動画があるのだと思います。写真を見て本当にやってみたいとか、実際にやりやすいとか、そういうところは教科書として各者大切に、子供がやってみたい、実際にやりやすいというような内容がいいのかなと思っております。そういう側面からまた考えていただければいいかなと思っております。他、いかがでしょうか。意見等ございませんでしたら、よろしいでしょうか。

そうしましたら確認させていただきます。報告書Aの内容については、特に修正等のご意見はございませんでしたので、調査委員会の報告書の内容を尊重しまして、先ほどの市民の意見、東京書籍や開隆堂の詳細な意見がございましたけれども、そういう意見も傾聴しながら、家庭における教科書採択の答申を作成してもよろしいでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) ありがとうございます。では、確認させていただいたものといたします。また、他者と比べて評価が高かった発行者について、選定委員会としてはこの3者のうち2者ほどを挙げたいと思うのですが、報告書の内容、そして学校のいい点での数から申しまして、掲載順ですけれども、東京書籍、開隆堂ということでしょうかと思いますけれども、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) 特にご異論がないようでしたら、3者のうち東京書籍、開隆堂を評価が高かった発行者として報告させていただこうと思います。ありがとうございます。それでは、家庭分野の審議を終わりたいと思います。

休憩に入ります。10分ほど休憩させていただきます。

<休憩>

⑦数学

(選定委員長) それでは、再開させていただきたいと思います。数学の審議に入らせていただきます。調査委員長、準備ができていましたらご報告のほどお願いいたします。

(数学調査委員長) 今から数学の教科書の調査結果について報告いたします。数学については、7者の発行者について調査いたしました。

まず、東京書籍について説明します。調査研究報告書 A-1 の3の項目です。1年生の63ページをご覧ください。「文字を使った式」の導入で、「文字を使って考え表現する力を身に付けていきましょう」と書いてあるように、東京書籍は必ず導入部分で、学習する目的を明確に記述してあります。それに加えて64、65ページにありますように、「導入動画」やストーリー性のある題材で生徒の興味・関心を高め、主体的に学習に取り組めるよう大変工夫されています。それ以外でも1、2、5、8、9の項目で優れた内容があります。詳しくは報告書をご覧ください。

続いて、東京書籍の報告書 A-2 についてです。3の項目「関数に関する事項」について、1年生の149、150ページをご覧ください。「比例と反比例の利用」の導入で、待ち時間を予想するという身の回りの生活に即した題材を用いています。その他、2年生では「飲み物がいつまで冷たさを保てるか」、3年生では「自動車の制動距離はどれだけか」など、生活に関わる内容について、イラストや導入動画を用いて主体的に学習に取り組めるよう大変工夫されています。その他、1、2、4の項目でも優れた内容があります。東京書籍については以上です。

次に、大日本図書について説明します。報告書 A-1 の9の項目です。1年生の110、111ページをご覧ください。ここに活動1、活動2、活動3があります。大日本図書では活動が大変多く設定されており、生徒がこれまでの学習を生かして、自分の考えを伝え合いながら学習を深めていくことができるよう工夫されています。それ以外でも3、6の項目で優れた内容があります。詳しくは報告書をご覧ください。

続いて、大日本図書の報告書 A-2 についてです。2の項目「図形に関する事項」について、2年生の126ページをご覧ください。生徒にとっては初めて学習する図形の証明について、その仕組みをフローチャートで示し、穴埋めで書き方を習得できるよう配慮されています。その他、1年生にも、身の回りの課題から生徒が主体的に考えを深められるよう題材が工夫されております。

次に、学校図書について説明します。報告書 A-1 の6の項目について、3年生の教科書8ページをご覧ください。各章の初めに「ふりかえり」のページが設けられており、既習内容を詳細に確認することができます。また、3年生の62ページの「Tea Break」にありますように、数学が好きな生徒が興味をもち、さらに高等学校の学習につながるような内容を取り入れることで、系統的・発展的に学ぶことができるよう工夫されています。

続いて、学校図書の報告書 A-2 についてです。1の項目「数と式に関する事項」について、1年生の47ページをご覧ください。学校図書では随所にキャラクターの吹き出しで考えるきっかけを明確に与えており、さらに「正しいかな？」にありますように、誤答例を考察することで生徒の理解を促し、基礎基本の確実な定着を図っております。

次に、教育出版について説明します。報告書 A-1 の6の項目について、3年生の48ページをご覧ください。各章の前には「平方根を学ぶ前に」のように、関連する内容の復習問

題が用意されています。さらにそこに「学びのマップ」とありますが、264ページ以降に既習内容が系統的に示されており、例えば53ページにありますように、「もどって確認」として、全章に既習事項と関連付けながら理解できるよう工夫されています。また、発展として、高校と関連した内容も多く取り上げられています。

続いて、教育出版の報告書A-2についてです。4の項目「データ活用に関する事項」について、2年生の208、209ページをご覧ください。「冬日は本当に減っているのかな」という地球温暖化に関連した題材を取り扱い、章全体を通して生徒の関心・意欲を高め、主体的にデータを考察しながら学習を進められるよう工夫されています。

次に、啓林館について説明します。報告書A-1の2の項目です。1年生の95ページをご覧ください。下の方に「説明しよう」とあります。97ページには「話し合おう」とあります。そして、随所に「説明しよう」「話し合おう」があり、生徒がお互いに説明し合ったり、話し合ったりする中で表現力が身に付くよう図られています。また、96ページの中ほどに「すでに学んだ形にする」とありますように、大切な考え方も随所に明記され、数学的な見方や考え方の充実が図られています。それ以外にも7の項目で優れた内容があります。詳しくは報告書をご覧ください。

続いて、啓林館の報告書A-2についてです。1の項目「数と式に関する事項」について、1年生の102、103ページをご覧ください。方程式を立てる際の一般的な手順を示すとともに、図や言葉の式を用いて数量を文字で表すまでを丁寧に示し、基礎的・基本的な内容の理解が促されるよう工夫されています。

次に、数研出版について説明します。報告書A-1の1の項目について、1年生の71ページをご覧ください。「ふりかえり」として、ここでは割合や速さに関する既習内容が示されています。また146ページをご覧ください。「Note」として、ここでは反比例のグラフの注意点が書かれています。このように随所に既習内容やノートを取る際の具体的な注意点が示されており、知識や技能が確実に定着できるよう図られています。それ以外でも6の項目で優れた内容があります。詳しくは報告書をご覧ください。

続いて、数研出版の報告書A-2についてです。2の項目「図形に関する事項」について、1年生の170、171ページをご覧ください。生徒が興味・関心をもって作図の学習に取り組めるような題材を扱い、生徒が意欲的に学習に取り組めるよう工夫されています。2・3年生においても実生活に即した題材を取り上げ、生徒が主体的に学習に取り組めるよう工夫されています。その他、4の項目でも優れた内容があります。詳しくは報告書をご覧ください。

最後に、日本文教出版について説明します。報告書A-1の6の項目について、3年生の89ページをご覧ください。各章の前には「次の章を学ぶ前に」で、関連する既習内容を復習する問題が設けられています。また116ページの「やってみよう」や巻末の「数学研究室」にありますように、発展として高校での学習内容も多く取り上げられており、系統的・発展的に学習ができるよう構成・配列されています。

続いて、日本文教出版の報告書A-2についてです。2の項目「図形に関する事項」について、2年生の126～129ページをご覧ください。2年生で初めて学習する図形の証明について、思考の手順や過程をフローチャートや穴埋め等を用いて分かりやすく示しており、生徒が主体的に学びを深められるよう工夫されています。

以上で7者の調査結果について、報告を終わります。

(選定委員長) ありがとうございます。それでは、委員の皆さま、ご質問等お願いいたします。

(選定委員) では、お願いします。今回の教科書ではどの発行者も大変、身の回りの事象を数学的に捉える場面を大切に作られていると感じました。特に単元の導入部分については、本当に生徒が興味・関心をもって考えたいような題材がそろっていると思います。

先ほど説明がありましたように、東京書籍は半ページの中に単元のゴールまで見通せるような扱いだっと思えますし、学校図書は短い文で「○○?」となっており、その1文が大変、的確であると感じています。単元の導入部分で、この単元ではどんなことを学んで、どんなことができるようになるのかについて興味をもつことと、子供が見通しをもって学習に臨めるということはとても大切だと感じましたし、それが生徒の主体的、自発的な学習につながっていくと感じています。このようにA-1の3の項目に関連する部分において、7者の中で、特にここが優れているといったところをもう少し詳しく教えていただけたらと思います。

(数学調査委員長) A-1の3の項目については、まず、先ほど言いました東京書籍が非常に導入等も工夫されていると思います。また、大日本図書でも、2年生の41ページで、導入部分で具体的な目標が掲げられていますし、ページの上の方にどんなことについて学ぶかも書いてあります。同じように63ページ、「活用・探究」のページの一番下に、「自分で課題をつくって取り組もう」というものがあり、配慮がされていると思います。

(選定委員) ありがとうございます。今のところで、自分で課題をつくる場所は、数学において発展的に考えていく、条件を変えて考えるといったところにつながっていく大事な部分だなど思うのですが、他の教科書の取り扱いはいかがでしょうか。

(数学調査委員長) 3の項目では例えば、数研出版の1年生の122ページに、身近な話題から興味・関心を高めた後に「Try」とあるのですが、「Try」というもので段階的に生徒が学習でき、自主的に学習が進められるようになっていると思います。それから日本文教出版につきましても、例えば1年生の109ページに、「学びに向かう力を育てよう」というのがあり、これも自主的な学習につながるように配慮されています。

(選定委員) ありがとうございます。

(選定委員長) 他にいかがでしょうか。

(選定委員) A-1の6の項目で、どの教科書も高校とのつながりが書いてあるのですが、中学から高校のつながりは非常に大切だと思うので、適切に高校とのつながりが示してあ

る教科書があれば教えていただきたいのです。あまりにも高校の方に深く行き過ぎると余計に分からなくなってしまうということも生じるのではないかなと思い、高校へのつながりというのは適切にどういう教科書がいいか教えていただければと思います。

(数学調査委員長) 高校とのつながりというのは、どの教科書も似ております。例えば分母が多項式のようにになっている無理数の場合に分母を有理化するとか、または以前中学校で学習していた、円に内接する四角形とか、接弦定理とか、どの教科書でも紹介しています。

(選定委員長) よろしいでしょうか。

(選定副委員長) 先ほどの委員から、日常生活や社会の事象に数学を活用する素材あるいは教材について質問があったと思うのです。他方で、数学ですと、世界の事象を数学化して、問題を見出して解決し、さらに統合的・発展的に考察していくという、数学の事象について興味深い素材とか問題があれば教えていただければと思います。どの発行者も並んでいますかね。

(数学調査委員長) 数学の事象として興味深いものということですか。社会とのつながりではなくて数学の事象として。

(選定副委員長) はい。どの発行者も興味深い素材を扱っているような印象でしょうか。

(数学調査委員長) 思考力・判断力・表現力等を育むという意味では、啓林館や東京書籍の題材が良かったという印象があります。

(選定副委員長) 例えば中学校2年生の図形領域で、東京書籍であれば151ページからの数ページ、啓林館でいうと157、158ページのような素材のことでしょうか。

(数学調査委員長) はい、そうです。

(選定副委員長) 承知しました。ありがとうございます。

(選定委員長) よろしいでしょうか。

では、私の方から。二次元コードは各発行者によって違う気はするのです。例えば発展的な問題集であったり、授業で使える補助的な映像・教材であったり、子供が分かりにくいところの解説であったりするのだと思うのですが、金沢の生徒たちにとっても、先生方にとっても、この発行者の二次元コードは使いやすいのではないかという特徴的なところがありましたら教えてください。

(数学調査委員長) 東京書籍は導入動画、アニメーション等もあるのですが、それ以外

に実は対話シートというものがあります。画面に図や表があつて、そこに自分の考えを書き込んでお互いに学び合うという、協働的な学びができるように工夫されたシートが付いております。啓林館でも似たようなものが付いております。その他は計算の解説や問題の回答というものが多いのですが、東京書籍と啓林館にはこのような二次元コードが付いています。

(選定委員長) ありがとうございます。はい、どうぞ。

(選定委員) 今の二次元コードについてですが、協働的な学びというのはなるほどと思いましたし、自分が見たいいくつかの教科書では、解答の充実であるとかサポート QR みたいな、つまりいた子がそこを読んだら詳しく分かるようなところがかなり増えているなど感じました。二次元コードの扱いとして、数学ならではの良さといえますか、変化の様子が目に見えて分かります。紙では難しいけれども、こんなところはとてもいいというところがあれば紹介してください。

(数学調査委員長) シミュレーションが一番いいと思うのですが、例えば関数分野で $y=x^2$ の放物線を理解する際、細かなドットが出てきたり、図形分野で四角形の各辺の中点を結んで平行四辺形になることを理解する際、元の四角形をどれだけでもずらせたりとか、そういう内容は東京書籍と啓林館には付いておりました。

(選定委員) ありがとうございます。

(選定委員長) 他にご質問はいかがでしょうか。

(選定委員) どの単元も最後に章の問題が付いていると思うのですが問題の量や質、あと A、B、または発展問題が各発行者ともあると思うのですが、違いはありますか。

(数学調査委員長) 問いの量や質ということになりますと、そこまでの分析はちょっと難しいと思います。

(選定委員) ありがとうございます。

(選定委員) 市内のほとんどの学校で習熟度別で学習していると思います。数学の授業を見ていると、問題を解かせたりしている中でそれぞれ個別に対応して、先生が教えていると思うのですが、興味があつたり、すごく好きだという子供には高校につながるような問題をさせたり、逆に分からない、数学が苦手だという子供については、小学校のときに戻って振り返らせたりということもあると思います。どの教科書も工夫されていると思うのですが、調査委員会で習熟度別で、個別的にやれるような、子供たちがより勉強しやすい教科書についての話し合いがあれば教えていただければと思います。

(数学調査委員長) これも東京書籍になるのですが、例えば1年生の99ページの一番下に「クイックチェック」があります。ページの上にも例に即した問いがあるのですが、それが終わった生徒はできたかどうかをクイックチェックすることですぐチェックできます。さらに99ページの「クイックチェック」の上にある問いの2を見ていただくと、(1)(2)(3)(4)にハートマークがあると思います。これは、これだけはできてほしいという問題を示しておりまして、そういう部分で東京書籍が優れているかなと思います。

(選定委員長) よろしいでしょうか。他にいかがでしょうか。

(選定委員) 数学の見方・考え方を働かせてという部分については、どの教科書も大変丁寧に扱われていますし、先生と子供がこれを確認しながら進めていけていいなと思いました。発行者によって巻頭や巻末にまとめて載っていたり、使うために折り込んでいたりしますが、調査委員会でこの発行者が使いやすいとか、そんな話題が出ましたでしょうか。

(数学調査委員長) その話題は出てはいなかったです。

(選定委員) では、個人的でも構わないですが、この教科書はとても分かりやすいというものがあれば教えてください。

(数学調査委員長) 数学というのは流れがあります。多くの場合は目次のところで、以前の復習や、各学年とのつながりが示されています。また、東京書籍の巻末には「数学の目でふりかえろう」というのがあります。分野別にこれまでの学習の流れをまとめたものがあります。

(選定委員) どこも丁寧に扱っていて、あまり大きな差はないということによろしいですか。

(数学調査委員長) そうですね。それぞれにうまく配慮されているのではないかと思います。

(選定委員) ありがとうございます。

(選定委員長)他に質問はいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

そうしましたら、続いて事務局より、各学校の研究委員会報告書および教科書展示会における市民や保護者の意見を報告していただきます。課長、お願いします。

(学校指導課長) それでは、資料Bの7ページをご覧ください。「各学校における教科用図書研究委員会_調査研究報告書」です。まず、東京書籍についてです。項目2、項目4、項目5で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられております。意見の総数については最も多くなっております。続きまして、大日本図書です。項目2で多くの意見が挙げられて

おります。続きまして、学校図書です。項目3で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられております。続きまして、教育出版です。項目1で多くの意見が挙げられております。続きまして、啓林館です。項目1で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられております。続きまして、数研出版です。項目2で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられております。意見の総数については、東京書籍に次いで2番目に多くなっております。続きまして、日本文教出版です。項目1で多くの意見が挙げられております。

続きまして、資料Cの7ページをご覧ください。右の中段です。1件意見が寄せられております。そこには東京書籍のことと大日本図書のことについて意見が寄せられております。続きまして、11ページの下ほどです。啓林館のことについて意見等が寄せられております。以上です。

(選定委員長) ありがとうございます。それでは、報告書に付け加えたい内容や修正・削除したらよいと考える意見などを出していただければと思います。

(選定委員) 先ほど東京書籍について説明されたときに、A-1の3の項目で、とても工夫されているのだということを強調されていたので、「学習に取り組むことができるよう工夫されている」という方が適切な表現なのかなと感じました。

また、数学は積み重ねの教科で、つまずくと自分でリカバリーをするためには家庭で教科書をもう一度開く必要があると思います。そういうつまずいた子供が読み返して分かりやすいよう、解説や解答が丁寧な教科書が選ばれるといいなと思います。

(選定委員長) ありがとうございます。今のご指摘では、東京書籍のA-1の3の項目になりますが、調査委員長の説明にありましたように、そこが他者と比べて優れている点なので、主体的に学習に取り組むことができるように「配慮」ではなくて、「工夫」と表現した方がいいのではないかというご意見ですが、いかがでしょうか。

(選定委員) 何人かの委員がよく似たようなことを言っていると思うのです。数学というのはすごく頑張っている子供と頑張ろうとする子供が多くいると思うのです。すると、今から頑張ろうとする子供がぱっと教科書を見たときに、最初の導入段階において、つまずきの観点で構成されて学習しやすいのは、やはり東京書籍だと感じるのです。

(選定委員長) 先ほどの東京書籍のA-1の3の項目の修正については「工夫」という表現の方がいいというご意見だと思います。他にご異論がないようでしたら、優れていることが伝わる表現として「できるよう工夫されている」ということに修正させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) ありがとうございます。その他、修正やご意見がございましたら、お願いいたします。

(選定委員) やはり数学は積み上げ教育という中で、東京書籍が各単元における目的意識が非常に高く、分かりやすく書いていると思います。皆さまからご意見があったように、最初の導入段階でつまずくと考えたら、市内の公立中学校の子供たちはいつも正負の数の段階で差が出ていると思いますので、東京書籍が非常に、子供たちが積み上げていく教育の中では、論理的に物事を考えていく過程で、分かりやすい教科書になっているかなと感じました。

(選定委員長) ありがとうございます。他に感想を含めて結構です。ご意見を頂ければと思います。

(選定副委員長) 今回の現行の学習指導要領では思考力・判断力・表現力等を育むことが求められ、特に数学科では統合的・発展的に考察する力を育成することが目標に明記されており、特に調査研究報告書のA-1の2の項目に当たると思います。数学教育の一側面ではありますけれども、数学の世界、数学の問題を自分で作ったり、成り立つ事柄を生徒自身が予想して、自分で予想したことをそれが正しいと証明したり、証明し終わった後も、証明したことから見出した事柄からさらに条件を変えて発展させていく、新たな事柄をさらに見出していくという、「できる」を超える、そういう力を中学校の現場の先生方は育もうと努力しておられることと思います。

先ほど調査委員長の方から、東京書籍と啓林館でそうした工夫が見られるような発言があり、その部分の教科書を見てきたのですが、そういう観点で見ますと、東京書籍は現行の教科書では図形の中に直線が引かれていたのですが、そこをあえて今回から消して、生徒にその直線を入れさせて、見出したい事柄を自分で気付かせるような工夫をしています。啓林館ですと、似た素材なのですが、東京書籍と違って複数の図を記載することで、一つの図だけで判断しないで複数の図から成り立つ事柄を自分で気付かせよう、いつでも成り立つことかどうかを考えさせようという工夫をしており、ご指摘いただいた2者の工夫を私も感じました。

(選定委員長) ありがとうございます。他にご意見、いかがでしょうか。私の方からも、調査委員長のご報告の中に含まれていたと思いますが、やはり数式ばかりになると何をやっているのかよく分からない状況になることもあろうかと思うのです。あえて日常生活との関連や、具体的な状況や文脈で使われるような設定がきちんとされて、この数式がこういうことに関わってくるのだなという学びでないと、子供たちも主体的に考えられないのではないかと考えています。

金沢市に限らず、石川県内の学校を回らせていただくことが多いのですが、いきなり問題集の問題の計算式が出てきて、解きましょうというのは興味をもたないだろうと思うことがあり、そういった文脈がちゃんとできている教科書が採択されると先生方も授業を設計しやすいと思います。場合によっては日常生活との関連や具体的な状況・文脈、あるいはこれまでの学習との関連が分かりやすい教科書が選ばれるといいと感じております。

他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。特にないようでしたら、確認させていた

できます。調査委員会の報告書に対して、ただ今審議された内容について一部修正がございましたので、それを加えさせていただいて、市民からの、特に東京書籍、大日本図書、啓林館に関しての意見がありましたけれども、それを傾聴しながら数学における教科書採択の答申を作成したいと思いますけれども、よろしいでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) ありがとうございます。それでは、お認めいただいたということで。

また他教科と同じように、他者と比べて特に評価が高かった発行者について選定委員会として、私の方でまとめさせていただきますと、先ほどの報告書の記載内容、そして各学校、まずは報告書の記載内容から申しますと、こちらのご発言でもたくさん発行者名が出てきたと思いますけれども、掲載順で東京書籍、啓林館については、特に評価が高かった発行者ということでこの二者を選ばせていただければと思っております。

それでその他、この報告書の記載内容と、各学校で研究調査いただいた報告の意見数、それぞれを並べていきますと、その他5者は優劣が付けにくいので、この2者ということでよいと思っています。よろしいでしょうか。特にないようでしたら、特に評価が高いと思われるのは東京書籍と啓林館ということで報告したいと思います。よろしいでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) 特にご異論がないようでしたら認めていただいたということで、ありがとうございました。

それでは、数学についての審議は終わりたいと思います。調査委員長、ありがとうございました。退室していただいて結構でございます。

⑧理科

(選定委員長) それでは、理科の審議に移りたいと思います。調査委員長、準備ができた段階で結構ですので、準備ができましたらご報告のほどお願いいたします。

(理科調査委員長) それでは、今から理科の教科書の調査結果についてご報告させていただきます。理科は5者の発行者について調査いたしました。

まず、東京書籍についてです。調査研究報告書 A-1 の3の項目について、2年生の教科書 205 ページをご覧ください。導入と終末の構成に工夫が見られております。ここにある「Before & After」では各単元、各章の学習前と学習後で同じ問いを投げかけていて、学習後に学びの成果を自分で比較できるようになっています。章の始まりとなる 205 ページの「天気予報はなぜ必要なのだろうか」という問いかけを、章の終わりである 220 ページでも行っています。また、206、207 ページをご覧ください。クエスチョンマークで課題を提示し、ビックリマークで自分の考えをまとめさせていますが、このまとめの例を巻末の方に一覧として掲載しているように、学習したことを適切に振り返ることができたか自分で

評価していくこともできるように考慮されております。巻末の方は 299 ページのところになります。この他にも項目の 1、2、4、5、6、9 についても特に優れた内容が見られましたので、詳しくは報告書の内容をご覧ください。

次に、調査報告書 A-2 の 6 の項目について、3 年生の教科書 58、59 ページをご覧ください。ここでは電池の仕組みについて分かりやすく学ぶために工夫された構成が見られました。ここに示してあるダニエル電池の仕組みについて、マイナス極・プラス極に分けて、モデルと化学式を使って説明しています。見開きのページを最大限に使って分かりやすく配置されています。それから、長時間電流を流した後の電極の様子を写真で示すと同時に、モデル図でもプラス極になる銅の電極に銅が付着している様子を図で表現するなど工夫が見られます。また、これは二次元コードからの動画によりますと、イオンや原子の移動をシミュレーションで表していて大変分かりやすくなっております。併せて、48、49 ページをご覧ください。レモン電池の紹介から始まり、金属板と電解質水溶液から電流を取り出すことができることを実験から見出し、ボルタ電池の仕組みを学んだ後、その問題点を改良したものとしてダニエル電池の学習につなげているのも大きな特徴といえます。この他にも項目でいいますと 1、2、3、4、5、9、10、11、12、13 についても優れた内容を見ることができました。東京書籍については以上になります。

続いて、大日本図書についてです。調査研究報告書 A-1 の 6 の項目について、3 年生の教科書 226、227 ページをご覧ください。ここではこれまでの学習内容との関連が分かりやすく示されておりました。「これまでに学習したこと」で、小学校 3 年、4 年、6 年で学習した内容を写真や図で振り返ることができるようになっています。このように全ての単元の初めに見開きで、写真や図でこれまでの学習内容を示し、視覚的に学習内容を思い出させ、この後の学習につなげていくことができるよう工夫されています。また、「つながる」で、他領域や他教科での学びとの関係が分かるようになっています。この他にも 5 の項目について優れた部分が見られました。

次に、調査研究報告書 A-2 の 8 の項目について、1 年生の教科書 52 ページをご覧ください。ここでは脊椎動物の分類に関して分かりやすく学習するための工夫が見られました。身近な動物の体の外見から分かる共通点や相違点を基に動物が分類できることを見出し、理解する学習になります。このページでは代表的な動物の特徴を写真と言葉で一覧表にまとめており、大変分かりやすくなっています。他にも 54、55 ページでは、草食動物と肉食動物の特徴を比較してまとめられています。このように、単元での学習の中心となる「比較する」「分類する」ということがしやすい工夫が見られます。大日本図書については以上になります。

続いて、学校図書についてです。調査研究報告書 A-1 の 2 の項目について、2 年生の教科書 45 ページからをご覧ください。探究の過程を重視した構成が見られました。課題解決に向けて、「気づき」「課題」「仮説」「計画」「方法」「結果」「考察」と探究の過程を重視した流れになっています。また、「理路整然」で探究した内容を活用して学びを深める工夫がされています。このような探究過程を重視した内容構成はここだけではなく、ほぼ全ての実験・観察に関わる部分で見られました。他にも、6 の項目についても優れた内容が見られました。

次に、調査研究報告書 A-2 の 13 の項目について、3 年生の教科書 204、205 ページをご覧

ください。天体の運動と見え方の学習に対して優れた内容が見られました。天体の運動と見え方については、地球上の観測者の視点と宇宙から俯瞰する視点を関係付けて考え理解していくことが求められますが、このページでは同じ時刻に観測したときの月の位置と満ち欠けの様子を両方の視点で分かりやすく示しており、理解が深まるよう考慮されています。学校図書については以上になります。

続いて、教育出版についてです。調査研究報告書 A-1 の 9 の項目について、2 年生の教科書 27 ページをご覧ください。ここでは「話し合う」といった言語活動の充実を図る工夫が見られました。水分子から水素分子と酸素分子ができることをモデルを使って考える場面で、モデルで表現されていることが正しいかどうかを既習事項を生かしながら話し合うことで学びが深まるよう工夫されています。この「話し合おう」というのは、単元の導入時、予想や仮説を立てるとき、考察から結論を導くとき、活用するときなどに設定されており、いろいろな場面で言語活動の充実が図れるようになっています。

次に、調査研究報告書 A-2 の 1 の項目について、1 年生の教科書 208、209 ページをご覧ください。興味・関心を高め、問題意識をもたせる導入の部分に優れた部分が見られました。ここでは光の反射の規則性について学ぶ内容ですが、初めに「やってみよう」で光のリレーに取り組ませています。遊び要素を入れながら光の反射について興味をもたせ、課題発見につなげています。他にも 222 ページの凸レンズによる像など、写真や言葉だけではなくて簡単にできるもので実際に実験として取り組ませている内容となっています。教育出版については、この他に 2 の項目についても優れた部分が見られました。教育出版については以上になります。

続いて、啓林館についてです。調査研究報告書 A-1 の 1 の項目について、1 年生の教科書 220 ページをご覧ください。基礎基本の理解定着を図る構成に工夫が見られました。ここでは凸レンズによってできる像について、作図を通して考え理解していくことができるよう例題が設定されています。また、二次元コードからの解説動画では、考え方や練習問題についての丁寧な解説があり、個々のペースで学習を行うことができるようになっています。また、221 ページの「Review」が各章末にあり、用語の解説とこの章で大切な考え方を振り返ることができ、さらに単元末には、「学習のまとめ」「力試し」で学習内容の定着が図れるよう工夫されています。啓林館はこの他にも 2、3、4、5、6、8、9 の項目についても優れた内容が見られました。

次に、調査研究報告書 A-2 の 3 の項目について、2 年生の教科書 254、255 ページをご覧ください。日常生活と関連させた電磁誘導の学習に関して興味・関心をもたせる優れた工夫が見られました。ここでは電球と磁界について学習しますが、難しく感じる生徒も多いかと思います。そこで、電磁誘導を利用することで、日常生活がより便利で快適なものになっている例を紹介しながら学習意欲を高めるようにしています。254、255 ページでは、開発が進められているリニアモーターカーの原理を簡単なモデル実験で紹介するとともに、272、273 ページでは電磁調理器を使った実験や防災、地震、ワイヤレス充電を紹介するなど、生徒の興味・関心を高める工夫が見られております。この他にも項目 1、6、7、9、10、11、12、14 についても優れた内容が見られました。啓林館については以上になります。

以上、理科の調査報告になります。よろしく申し上げます。

(選定委員長) ありがとうございます。それでは、委員の皆さま、ご質問等お願いいたします。

(選定委員) ここに書かれている報告書は、自分も教科書と見比べてみて、とても的確にまとめられているなど感じました。ここに書いていないことで少しご質問させてください。まず、理科ですから実験・観察がメインになることかと思います。特に安全面での配慮で特筆すべき教科書があれば、その部分を教えてください。また、これは他の教科書にはない、特徴的で、効果的で、とても魅力的な実験・観察があったら紹介してください。

(理科調査委員長) 安全面に関しては、どの教科書も注意が図られるように注意のマークを付けたり、色を付けたり、強調したりしており、特に大きな差はなかったと思っております。実験面については、先ほど紹介した中で、例えば電磁誘導のところのリニアモーターカーの原理の実験で、たくさん巻いたコイルの中に乾電池の両側に磁石を付けて通すと、すーっと動いていく様子はとても興味深く、同じように二次元コードから動画で見えていくことができ、非常に分かりやすく、子供たちも面白そうだと感じると思います。

あと、啓林館では後ろの方に「探Qシート」があります。通常の実験で行うものですが、詳しく実験に取り組むことができますし、「探Qシート」の裏面を見ていただくと、「探Qラボ」ということで、また違った実験、深めるための実験、発展的な実験も掲載されております。こういったことが大きな特徴かなと思います。

(選定委員) ありがとうございます。

(選定委員長) 他にいかがでしょうか。ご質問がありましたらお願いします。

(選定委員) 質問ですが、30年前と学ぶ内容が変わっていないところを見ると、その中の原理原則的なものから子供たちに世界で起きていること、世の中で起きていることに関心をもたせるという、まさに探究学習の要と理解しています。その中で、8の項目に対して、各教科書を比較するときにICT機器とのつながりといった部分で比較するのか、本来は子供たちがより物事に対して関心をもたせるきっかけとしてどう工夫がされているかといった部分で比較するのか、まさに金沢ベーシックカリキュラム等々を踏まえた点ではないのかなと思うのですが、この点で少しご意見等を聞かせてもらえればと思います。

(理科調査委員長) ベーシックカリキュラムの方でいきますと、課題を見つけ、自分たちで考え、そして探究していくという流れになっていきます。理科の学習の場合、どの教科書においても探究的な学びが重視されている部分があります。特に探究的な学びでいえば、啓林館、学校図書、東京書籍は、詳しく出ていると捉えております。

特に金沢ベーシックカリキュラムには、ICTの活用がありますので、特にICTの使い方によってどれだけ差があるかというところ、東京書籍、啓林館では二次元コードを活用した内容が多く見られました。もちろん探究過程と併せて、今あるICTを重要視して、8の項目について調査しました。

(選定委員長) よろしいでしょうか。探究についてはあまり差がなかったということで、ICT、金沢ベーシックカリキュラムに関係しているということでしょうか。よろしいでしょうか。他にいかがでしょうか。

(選定委員) 教科書は理科だけが幅広いのですね。たくさん資料が入って見やすくなっていると思いますが、実はいろいろな学習を将来自分の生活に生かす、日常生活に生かすという観点で明確にしてある教科書があったら教えていただきたいと思います。理科の学習は将来的には自分の生活に直結するところが一番興味・関心を引くところだと思うので、そういうところに重点を置いている教科書があればと思います。それと同時に、やはり過去からの研究の流れが今現在に流れ着いているという観点でも、大切にしている教科書があれば教えていただきたいと思います。それが1点目です。

2点目です。どんどんどんどん実験の量が増えているのですが、個人的な感覚ですけれども、これだけの実験が果たして時間内に可能なのかという気がするのです。これだけ実験が多いと、先ほどの委員が言ったように、1人で3学年を担当するとなると実験の準備だけでも大変だなという気がするのです。そういう観点で実験をどこまでやるかという話を調査委員会でされたなら教えていただきたいと思います。

最後に、3点目です。啓林館だけ目次の配列が違うのです。啓林館だけ1分野、2分野で並べてあります。他の発行者は今の金沢ベーシックカリキュラムに沿った流れになっているのですけれども、これは何も違和感というか、支障がないのでしょうか。すみません、たくさん聞きました。お願いします。

(理科調査委員長) それではまず、1点目のいろいろな研究や歴史的なつながりについてですけれども、例えば東京書籍では「歴史にアクセス」という箇所があります。具体例では、東京書籍の3年生の教科書61ページをご覧ください。「乾電池の発明」ということで漫画で紹介されています。その次のページにも「電池の歴史」ということで、紹介されていたりもします。東京書籍の場合は「歴史にアクセス」という項目で、これまでのものを紹介するページがよく見られております。

それから啓林館ですが、2年生の教科書164ページをご覧ください。ここには「新元素の発見の歴史」ということで、ニホニウム（ ^{286}Nh ）の発見について詳しく紹介されています。あと、他の教科書にもいろいろと歴史的なもの、生活に結び付いたものが紹介されてはおりますが、やはり東京書籍、啓林館の二つの発行者に関しては、こういった項目もたくさん含まれていると見ています。他の教科書に全くないということではなくて、他の教科書にもやはり紹介はされておりますけれども、特に目立つところではこういったものがあるということです。

それから2点目の実験について、たくさん実験があるということですが、理科の学習をしていく中で、実験・観察がなければ理科ではないだろうという感じになってきております。やはり探究過程を重視していく上で欠かすことができない部分があると思います。ただ、全てやるためにはうまく時間を設定していかないとできないと思います。いろいろな教科書を見ると、重点的な学習や、じっくり探究する学習等はそういった項目が付いてお

り、強弱を付けながらやっていくことで時間的には何とか収まるのではないかと考えています。ただ、実際には全部の実験をしていく方がいいとは思っております。調査委員会では、実験が多過ぎるので難しいという声は特にはなかったです。

それから3点目の、啓林館だけ単元配列が1分野、2分野で並んでいるということでしたが、授業する順番に並べてあるのが一番都合いいかと思えます。しかし、単元の内容を学ぶには、さほど影響はないかなと考えております。

(選定委員長) よろしいでしょうか。他にご質問はいかがでしょうか。

(選定委員) 啓林館の二次元コードから読み取れる動画だけナレーションがAIのようだと思って違和感を感じました。

(選定委員長) 二次元コードを比較されて、調査委員長から何かありますか。

(理科調査委員長) そこまでは違和感は、調査委員会では感じませんでした。ただ、二次元コードからの動画で、ただスライド形式で出す動画もあれば、本当にシミュレーションとして動いていく動画もあり、それぞれ工夫されている部分はあったと思います。

(選定委員長) よろしいでしょうか。ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

(選定副委員長) 各発行者の教科書の違いとして、例えば中1のエネルギーですか、音の記述で、他者と違うと思ったつくりがあったのです。東京書籍です。162ページからの「音の大きさや高さ」という内容の記述で、冒頭に弦楽器が4種類、写真で掲載されていて、「レッツスタート! 問題発見」ということで、こういう楽器の大きさによって音にどのような違いが出るだろうかと書いてあります。大きく違うと思ったのは、この内容のまとまりの最後のところなのです。165ページに、サイエンスとしては理科の知識というよりは「楽器と音の高さ」という項目立てで記述がなされているのです。一方、実験室みたいな、理科から私たちが生きている世界というのですか、楽器のことを念頭に置いたときに理科の知識としてはこうなるのだという、より日常生活や社会との関わりに留意した記述に、教科書のつくり、記述の違いが他の内容でもいえるのでしょうか。それともここが東京書籍の特徴というか、その違いについてご存じであれば教えていただきたいと思えます。

ちなみに、東京書籍では最後の記述を引き出すためなのか、冒頭の問題発見のところや、その下にある「?」の記号のところ、「音の大きさや高さ」と音源の振動にはどのように関係があるだろうか」という、問題や課題に取り組むために、二次元コードで「NHK for School」の動画を活用しているのです。この者はそれを少し加工して、冒頭にある、弦楽器だと小さいと高い音が出て、チェロみたいに大きいと音が低いところをカットしていたのです。そうしたICT、二次元コードを通して、日常生活や社会と理科との関わりについての配慮が東京書籍の特徴といえるのか、この1例だけのことなのかということをお教えいただきたいです。

(理科調査委員長) 理科の学習が日常生活に結び付くということを示すために、各発行者で「つながり」という形で、例えば参考事例としてこんなふうに関わっていると表示しているのはあるかと思います。東京書籍に見られているようなものは、本当にこれから学習することが日常生活のどこにつながっているのかなということであり、課題を見つけさせる、より良い工夫をされている部分だと思っております。

それから、二次元コードについては、東京書籍、啓林館、学校図書に二次元コードから「NHK for School」が紹介されています。それに加えて、例えば啓林館では、各章の導入のところに「はてなスイッチ」という二次元コードが付いていて、ここでこれから学習する内容に関係するような、興味を引くような動画を紹介しております。各発行者で、いかに日常生活や身の回りのことに結び付けていく工夫が図られている部分かと思います。ご指摘のとおり、東京書籍については、楽器に結び付けて考えていこうという試みがあったのではないかと、こちらの方では思っております。

(選定委員長) 他にいかがでしょうか。ご質問がございましたら。

(選定委員) 単元の中に、「学びを活かして考えよう」というのが東京書籍、あと「アクション—活用してみよう」というのが啓林館、この二つが目に残ったのですが、中身を見ると、東京書籍の方は学んだことと直接的なことではなく、題材を変えるといいですか、変えた視点で書かれていると思います。啓林館の方は、実際に学んできたものを場面を変えて、こっちの場面だったらどういうふうになるかという、本当の応用問題のような形で書かれています。基礎基本を定着させて、さらに発展させて自主的に、取り組むところで、授業では扱えないところかと思うのですが、どちらの方が有効なのか、教えていただきたいです。

(理科調査委員長) どちらも必要で大切なことかと思えます。既習を振り返って活用していくことも大切ですし、これを次の学習につなげるという発展的なものがあったもいいと思いますし、その結果がそれぞれの発行者の思惑なのかとは思いますが、啓林館はとにかく「活用しよう」と、活用する場面が他者と比べると多く含まれていると捉えております。東京書籍も、学んだことをそのまましっかり活用できるようにという工夫も見られると思います。この二つの発行者は、活用する場面がたくさん見られるので優れていると捉えております。結論としてはどちらも必要なので、それぞれ両方あったのではないかと思っております。

(選定委員) ありがとうございます。

(選定委員長) 他にいかがでしょうか。では、私の方から。地球の分野になると思いますが、防災の記述について違いや特徴的なものがありましたら。

(理科調査委員長) 防災関連につきましては、1年生で地震や火山について学習します。

2年生で天気について学習します。こういった単元につきましては、どの教科書にも防災関係のことは記述として載っています。ただ、東京書籍、啓林館には、それ以外の単元でも関わる記述があります。例えば東京書籍は、1年生の教科書99ページのところに化学の学習ではありますが、「防災特集」という形で「注意が必要な気体」として、火山性ガスなどの紹介がされております。それから啓林館では、例えば2年生の教科書181ページに、ここも化学の分野ですけれども「防災・減災ラボ」といった形で紹介されています。また、同じように2年生の教科書234ページ、ここは電流の単元ですけれども、「テーブルタップの火災に注意」ということで紹介されております。というふうに、東京書籍、啓林館については、該当する単元以外のところでもこういった防災関係について紹介されています。

(選定委員長) ありがとうございます。もう1点、キャリア教育的になりますけれども、昔の科学者というよりも割と現代的な科学者で、子供たちが見て、こういう科学者に自分もなりたいなというような紹介であったり、発展的な内容になるかもしれませんけれども、科学者が取り組んだ科学技術に関する記載であったりとか、そういうものが特徴的な教科書がありましたら紹介していただければと思います。

(理科調査委員長) 例えば東京書籍の1年生の26ページのところに、「サイエンスアーティスト」といった形で、こういった方の仕事を紹介されている部分があります。あと、先ほどのニホニウムの発見につながるものであるとか、チバニアン発見の記事も、東京書籍1年生の241ページにあり、ここに「地層を見れば」ということで紹介されているところがあります。

(選定委員長) ありがとうございます。日本人は頑張っているのに意外と載っていないのですよね。観察・実験のところにページを割いている。例えば、先ほども電池の紹介がありましたけれども、リチウムイオンは日本人が開発しているのになかなか扱われないから、もう少し掲載されることで、子供たちも夢をもって学習できるのではないかと思います。

他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。そうしましたら、質問は以上にいたしまして、続いて事務局より各学校の研究委員会報告、および教科書展示会における市民や保護者の意見を報告していただきます。課長、お願いします。

(学校指導課長) それでは、資料Bの8ページをご覧ください。「各学校における教科書用図書研究委員会調査研究報告書について」です。まず、東京書籍についてです。項目1、項目3、項目5で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられております。意見の総数についても最も多くなっております。続きまして、大日本図書についてです。項目1で多くの意見が挙げられております。続きまして、学校図書です。こちらも項目1で多くの意見が挙げられております。教育出版です。項目4で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられております。続きまして、啓林館です。項目2で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられております。意見の総数につきましては、東京書籍に次いで2番目に多くなっており

ます。

続きまして、資料 C の 12 ページの左側です。意見は 3 件寄せられております。こちらは移動展示のものになりますが、発行者名が挙がっているものもあれば、発行者名が挙がっていないものもあります。常設展示ではご意見等はありませんでした。以上で報告を終わります。

(選定委員長) ありがとうございます。では、委員の皆さまから、報告書に関しての付け加えや修正・削除などのご意見とともに、ご感想もありましたらお願いいたします。

(選定委員) ここに報告されているとおり、東京書籍と啓林館の教科書が群を抜いて、優れているのかと。もちろん他の発行者もそれぞれいいところがあるのですが、全体的に見たときにはやはりこの 2 者になると思いました。若干 A-2 の報告書では東京書籍が優れているかなとは思いますが。

(選定委員長) ありがとうございます。他に意見、修正の意見などありましたら。

(選定委員) 今の委員のお話にあったように、自分も東京書籍と啓林館の 2 者がいろいろな項目で優れているのかなと思うのですが、残りの 3 者について見るポイントとして、例えば A-1 で言うとやはり、金沢市なので 8 の項目、9 の項目であったり、それから学校からの調査研究報告書で言うと 4 の項目の「金沢市や児童の実情に即し」というところだと思います。そのポイントで見ると A-1 の 9 の項目で言うと教育出版が啓林館と東京書籍と同じよう優れていると感じますし、B の調査報告書で言うと、4 の項目では教育出版が五つの項目の中で一番多くの意見を得ていると感じました。

(選定委員長) ありがとうございます。報告書の文面については、修正まではいきませんでしょうか。また、教育出版の方のご指摘だったと思いますけれども、その辺はいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

私の感想でございますが、やはり日常生活とか、本当に習ったことをどう活用していけるかというのが、理科に限らずいろいろな教科で重視されているところですので、そういう関連を探究の取っかかりとして、観察や実験の意味や意義、場合によっては価値を学習できるような教科書が金沢の生徒たちに向いているという感想をもっております。

他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。そうしましたら、先ほどの確認をさせていただきます。報告書 A の内容につきまして、調査委員会の報告を尊重するとともに、市民からの東京書籍、その他複数の発行者についてのご意見に傾聴しまして、理科における教科書採択の答申を作成してもよろしいでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) ありがとうございます。それでは、お認めいただいたということで。報告書の表記内容、そしてまた各学校からの報告結果を見ますと、この 5 者のうち東京

書籍と啓林館が評価が高かった発行者としたいと思うのですが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) 特に異論がないということで、お認めいただいたということで、東京書籍、啓林館が評価が高かった発行者ということで報告させていただきます。

それでは、調査委員長、ありがとうございました。以上で理科の審議を終わらせていただきます。

それでは、委員の皆さま、ありがとうございました。これで本日予定しております4種目の審議を終了させていただきます。本日審議された結果は、本選定委員会の答申書として教育委員会へ提出したいと思えます。次回は国語、書写、英語、道徳の4種目についてご審議いただく予定にしております。次回もどうぞよろしく願いいたします。

では、司会を事務局にお返ししたいと思います。

3. 事務連絡

(事務局) 委員の皆さま、長時間にわたり答申につきまして審議していただきまして、ありがとうございました。ただ今、委員長からお話もありましたように、第4回選定委員会はあさって7月24日(水)13時から、本日と同じこの会場にて4種目について審議していただきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

以上をもちまして、第3回金沢市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会を終了します。お疲れさまでした。ありがとうございました。

(一同) ありがとうございました。

令和6年度 第4回金沢市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会

日時：令和6年7月24日（水）13:00～17:00

場所：金沢市教育プラザ富樫 121・122 研修室

（事務局）委員の皆さま、本日もお集まりいただきましてありがとうございます。ただ今より、第4回金沢市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会を開催いたします。それでは、この後の進行を選定委員長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

（選定委員長）皆さん、こんにちは。本日も国語から順に4種目を審議していただくこととなります。よろしくお願いいたします。それでは早速ですけれども、準備できておられましたら国語について調査委員長から報告を頂きたいと思っております。よろしくお願いいたします。

⑨国語

（国語調査委員長）それでは今から、国語教科書の調査結果についてご報告いたします。国語科は4者の発行者について調査いたしました。

まずは東京書籍です。調査研究報告書A-1の3の項目、生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習が促されるよう配慮されていることについて、分かりやすく工夫されていました。例えば1年生の教科書48、49ページですが、言語活動の目標を達成するためにはどのような活動に取り組んでいくのがよいのか、案内役のキャラクターをモデルに自分のこととして考えられるよう工夫されていました。東京書籍の教科書ではこちらだけではなく、多くの場面でキャラクターや中学生による吹き出しがあります。生徒目線で語られる疑問や思いは生徒自身の自主的・自発的な学びが促されると考えられます。その他A-1の4、6、7の項目についても特に優れた内容が見られました。詳しくは報告書の内容をご覧ください。

調査研究報告書A-2の2の項目、話や文章に含まれている情報の扱い方に関する事項では、系統的に学べるようにするとともに、各領域の言語活動と関連付けながら豊かに学ぶことができるよう工夫されています。例えば1年教科書66、67ページの「情報と論理の学び」の「情報の分類・比較」をご覧ください。この教材では情報の扱い方だけではなく、前時に学んだ説明文「オオカミを見る目」で取り組んだ段落の役割、段落同士の関係や、次に学ぶ食文化のレポート、比較して分かったことを伝えようと異なる領域の学習と重ねて学ぶことができるよう工夫されています。その他A-2の1、5の項目についても特に優れた内容が見られました。詳しくは報告書の内容をご覧ください。

次は三省堂です。調査研究報告書A-1の4の項目、伝統と文化を尊重する態度、道徳性などを養うための内容や話題・題材の充実が図られていることについて優れた内容が見られました。古典学習の導入において生活の中で目にする身近な題材を取り上げ、豊富な資料や教材で生徒の興味や関心を引き出すよう配慮されています。特に1年生の教科書116、117ページの、古典学習のオリエンテーションともいえる「月を思う心」の教材においては、現代の私たちにも身近な存在である月について、美しい色彩の見開きページで昔と通

じる思いに触れることで古典作品への理解が深まることにつながると考えられます。その他にA-1の7の項目に優れた内容が見られました。詳しくは報告書の内容をご覧ください。

調査研究報告書 A-2 の 4 の項目、話すこと・聞くことに関する事項において、1年生教科書 36～39 ページをご覧ください。こちらのグループディスカッション「話題や展開に沿って話し合いをつなげる」では、話し合いのこつを明示することで学びを焦点化し、生徒が効果的に学習を進めていけるよう配慮されています。特に 37 ページの話し合いの場面では、青・黄色・赤・紫とポイントに当たる箇所を色分けしてあります。まさに話し合いのこつである、38 ページにある「提案」「促し」「質問」「確認」を示しているということが明確に分かるよう工夫されています。その他に A-2 の 5、6 の項目に優れた内容が見られました。詳しくは報告書の内容をご覧ください。

次に教育出版です。調査研究報告書 A-1 の 3 の項目、生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習が促されるよう配慮されていることについて分かりやすく示されていました。例えば 1年生の教科書 102 ページでの「文法の小窓 文の成分」では、キャラクター同士の交流の場면을例に学習活動の流れを明示することで、生徒自らが自分の考えをもちながら学習に意欲的に取り組めるように工夫されています。また、教科書 104 ページにもありますが、このように随所において会話文より疑問や課題、ポイントに生徒自身で気付くことができる仕掛けがなされています。その他 A-1 の項目 5 に優れた内容が見られました。詳しくは報告書の内容をご覧ください。

調査研究報告書 A-2 の 3 の項目、わが国の言語文化に関する事項においても優れた内容が見られました。1年教科書 34 ページをご覧ください。「四季のたより 草萌」では、季節感やそれに対する先人の思いが表れた文芸作品を紹介することで、特にわが国の言語文化に親しむことができるよう配慮されています。ページの右には具体的な春のイメージが言葉で分かりやすく表現されており、さらにその季節に関する繊細で美しい作品に触れることは生徒の五感や言葉を豊かにする機会につながると考えられます。

最後は光村図書です。調査研究報告書 A-1 の 8 の項目、金沢市や生徒の実情に即し、金沢ベーシックカリキュラムなどを踏まえた指導との関連が図られていることについて優れた内容が見られました。1年生教科書 90、91 ページをご覧ください。教材に関連した自伝、インタビュー、絵本、随筆・評論など多様なジャンルから多くの図書を紹介することで、読書体験が豊かになるように配慮されています。こちらでは多様なテーマや内容の読書について各教科やSDGsなどの視点から取り上げられていたり、有名人による私の1冊を紹介したりすることで、多彩な読書の世界にいざなう仕掛けがなされております。その他、A-1の1、2、5、9の項目にも特に優れた内容が見られました。詳しくは報告書の内容をご覧ください。

調査研究報告書 A-2 の 5 の項目、書くことに関する事項においては 1年生の教科書 141 ページをご覧ください。「学びのカギ 根拠を明確にして書く」では、学びを焦点化し、言語活動のモデルとなる具体例を示すことで、具体的に言語活動が行えるよう充実が図られています。根拠である文章の引用や図表の引用について、ポイントと思われる箇所をマーカーで色分けしていたり、142 ページに見られるレポートの言語活動例を示していたり、生徒が見通しをもって各学習に向かえる工夫がなされています。この教科書を使い、全てのさまざまな教科での報告書の作成であったり、「学びのカギ」という部分もこの教科書が

ら学ぶことができると思います。その他、A-2の1、2、3の項目にも特に優れた内容が見られました。詳しくは報告書の内容をご覧ください。

なお、今回は各発行者1年生の教科書を使い説明しましたが、2年生、3年生の教科書にも同様に優れた内容が見られましたことをお伝えいたします。以上、国語科教科書4者についての調査研究報告をさせていただきました。

(選定委員長) ありがとうございます。それでは委員の皆さまからご質問等お願いいたします。

(選定委員) 各項目、詳細に調査されているなという印象をもちました。特にA-1の2の項目と9の項目において、光村図書の「学びへの扉」が優れている点に大変共感いたしました。今回の教科書にはどの発行者においても、その単元で付けたい力を付けるための学習活動が記載されているのですが、光村図書はその内容と表記の面で他者より優れているなという印象を受けました。

それでは、その他の項目について3点伺います。1点目、A-1の6の項目。学年相互間の関連についての報告内容を見ると、光村図書が他者より少し優れているような気がしたのですが、調査委員会ではどのような話し合いがされたのか、もう少し詳しくお聞かせください。

2点目、先ほどの説明にもあったようにA-1の8の項目、金沢市との関連について、ここでは読書に絞って報告されています。金沢子ども読書推進プランが今年度改定されたことによると思いますが、来年度から始まる新金沢型学校教育モデルで新しく編成される金沢ベーシックカリキュラムの中に、デジタル力の育成としてデジタルタイムが位置付けられます。そういう観点からICT活用についての記述を見ると各教科書で扱い方に違いがあると感じたのですが、そういう話題は出なかったのでしょうか。教えてください。

3点目、最後です。二次元コードについて各教科書の取り扱いについて詳しく教えてください。

(国語調査委員長) まずA-1の6の項目で光村図書は、「学びのカギ」の一覧があり、系統的に構成されています。東京書籍は「言葉の力」の一覧があり、3年間の学習のつながりや深まりが詳しく書かれており、報告書に示したとおり、見開きで全ての学年を閲覧できるのが非常に魅力であり、調査委員会でも東京書籍の方が良いという意見が多かったです。

2点目です。新しいデジタル力の部分ですが、例えばICTの活用でいいますと光村図書の教科書12ページに紹介されているように「学習の流れの中にICTを活用すると効果的な学習場面」を示すマークが各単元に位置付けられています。そういった工夫が、デジタル力の育成に向けて大いに活用できるのではないかなと思われま。

3点目の、二次元コードについては、前回の教科書よりもさらに増えており、各領域の解説動画や外部とつながっているコンテンツなど、とても興味がそそられる内容でした。二次元コードだけで比較すると三省堂のがとても印象的でした。タブレットで二次元コードを読み取って導入で活用したり、教科書の内容を深めたりということがこれから新しい

教科書でできるのではないかなと思います。

(選定委員) ありがとうございます、A-1の6の項目については、確かに東京書籍が3年間の系統性が見開きで一目で見られることが大変素晴らしいと思います。一方で光村図書は、文章ごとに付けたい力について丁寧な記述があり、これを見ることで教師が系統的に指導することを意識できるのかなと思ひまして、もう少し優れていることが伝わる内容に報告書を修正してもいいのではないかなと思ひました。

2点目のICT活用の件ですが、調査委員長からもお話があったことに関連して、「ICT活用のヒント」という一覧が光村図書の教科書の巻末にあります。本文の方にもICTマークがあるので、その点も優れていることを確認させていただきました。

3点目の二次元コードについては三省堂が、外部コンテンツのNHK「10min.ボックス」にさっとつながるようになっているところが大変いいなと思ひました。東京書籍の方も興味深い資料があったと思ひました。

(選定委員長) ありがとうございます。他、ご質問等ございますでしょうか。

(選定委員) A-1の7の項目において、例えば三省堂は色を多用していて分かりやすくなっているとあります。一方で、これも本当に個人の好みなのかなというふうに思うのですが、光村図書は色が落ち着いた配色とあります。教科書は全般的にカラフルになっていると思うのですが、国語という教科を考えたときに、色の全体的なトーンについて現場でどうお考えになっているのかを教えてくださいたいと思ひています。

また、巻末と巻頭のページに何を掲載するかというのは、教科書を作られるときにとっても考えるところかと思うのです。メッセージが込められているのではないかと想像しているのですが、そういうふうには子供たちは見ないのででしょうか。現場の感覚を教えてくださいたいと思ひます。

(国語調査委員長) 私ども調査委員は、配色等については、いわゆるユニバーサルデザイン等を加味した部分はとても大事だと思ひております。今の子供たちは確かに色彩が非常に派手なものに目がいきますが、おっしゃるように国語という教科はやはり落ち着いた中で日本語を学ぶことがとても大事だと思ひます。そういった点では東京書籍はデザイン的にいいかと表紙にある中村至宏さんのイラストで生徒の興味を引いていると思ひれます。そういった点では、色の使い方としては非常にカラーが多いという印象を受けましたし、優れていると思ひます。ただ、やはり国語という教科においては、必ずしも色ばかりに着目するものではないと思ひております。ここはご判断いただければと思ひます。

もう一つですが、例えば表紙裏の詩ですが、各者それぞれにこだわりが見られます。現場では授業開きのとき、大変活用しており、とても重要なものだと認識しております。

(選定委員) ありがとうございます。分かりました。

(選定委員長) 他はいかがでしょうか。

(選定委員) A-1の5の項目について、他の教科との関わりについての分量やSDGsなどの現代の課題について教材として取り上げている分量というのはどの発行者も同じなのかをお聞きしたいのです。

(国語調査委員長) 随分違いがあると思っております。東京書籍、三省堂についてはそれぞれSDGsについて本文の中では触れていますが、系統的にSDGsとの関係を示しているのは教育出版と光村図書だと思っております。現代の諸課題という点では、例えば教育出版では解決方法を探る言語活動を設定したり、考えを合意形成できるように話し合う場面を設定したりしており、光村図書では生徒が自己選択しながら学びを深めることができるような多くの工夫をしていると思います。ただ単に話題を出すのではなく、それをどう考え、どう自分たちのものにしていくかというのが、この2者につきまちは大変よく考えられた教科書ではないかなと調査委員会では調査・検討させていただいております。

(選定委員) ありがとうございました。

(選定委員長) 他、いかがでしょうか。

(選定副委員長) 言葉による見方・考え方を働かせることを促す教材として優れているところを見ていると、先ほどの委員がご指摘くださいました、光村図書の「学びのカギ」の一覧がそれに該当すると考えたところです。各学年で発達段階に応じて、学習の途中でも、学年の終わりでもどんなことを学んできたかということ振り返るのに使える優れたページだと思ったのですが、他者でそうした言葉による見方・考え方を働かせるために使用できそうなまとまったページなどがございましたら教えていただければと思います。

(国語調査委員長) 東京書籍では「言葉の力」や「広がる言葉」というところがあり、教科書の297ページで言葉についての学習の道しるべとして一つにまとまった形で提示されています。

三省堂では、「学びの道しるべ」や「思考の方法」というところで学習過程や思考のヒントが丁寧に説明されています。人物相関図などを使って読み方の学び方が道しるべとして示され、「語彙を豊かに」というコーナーで言葉についてのヒントが多く示されていると思っています。

先ほど光村図書の方で「学びのカギ」について話題が出ておりましたが、これは振り返りなどでかなり使うことができますし、現場では多くのことを学べるのではないかと思います。

(選定委員長) 他、質問はいかがでしょうか。よろしいでしょうか。そうしましたら続いて事務局より、中学校の研究委員会の報告、および教科書展示会における市民や保護者の意見の報告を頂きます。よろしく申し上げます。課長、お願いします。

(学校指導課長) それでは資料Bの1ページをご覧ください。各学校における教科用図書研究委員会調査研究報告書です。東京書籍につきましては項目1、項目3、項目5で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられております。全体の意見の総数につきましては光村図書に次いで2番目に多くなっております。

続きまして三省堂です。項目1、項目2で多くの意見が挙げられております。

続きまして教育出版です。項目5で多くの意見が挙げられております。

続きまして光村図書です。項目2、項目4、項目5で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられています。全体の意見の総数についても最も多くなっております。

続きまして資料C、1ページをご覧ください。1ページの右側の中段です。教科書展示に寄せられたご意見です。光村図書、三省堂に対して意見が寄せられております。続きまして同じく資料Cの9ページです。移動展示場で寄せられた意見です。左側の下段です。ここでは、光村図書に関する意見が一つ寄せられております。以上で報告を終わります。

(選定委員長) ありがとうございます。それでは審議に移りたいと思います。国語について、答申の報告書に追加したらいい部分、修正・削除したらいい部分を含めましてご意見を頂ければと思います。

(選定委員) 先ほども言わせていただいたのですが、A-1の6の項目で、光村図書は「学びのカギ」一覧で見方・考え方を詳しく示しており、もう少し優れていることが分かる表現に修正してもいいのではないかと思います。

(選定委員長) これに関しては先ほどの委員からも光村図書についてご意見があったのですが、何か付け加えはございますか。少し表現を工夫した方がいいような部分はありますか。

(選定副委員長) 優れていると伝わる表現になればいいのではないかと思います。

(選定委員長) 今のご意見に関して、特にA-1の6の項目について、光村図書が系統的に学ぶことができるよう構成されているということで、系統的に、確実に学ぶことができるのか、そのような言葉を加えて少し強調した形にさせていただこうと思いますが、よろしいでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) ご異論ないようでしたらそのように修正させていただきます。

(選定委員長)

他、ご意見、修正のご意見、追加したらいいご意見も含めましてございますでしょうか。

(選定委員) 先ほど申し上げたことなのですが、やはり文を読みながら自分の中でイメ

ージを育てていくというのが国語の力だと思うので、別にカラフルな方を否定する必要はないと思うのです。統一感があって、あまり視覚的に強くなくてもいいのではないかと思いますので、光村図書の A-1 の 7 の項目の表現を修正してもいいのではと思います。

(選定委員長) いかがでしょうか。

(選定委員) この 7 の項目について、図などの取り扱いがと書いてあるので、先ほどおっしゃっていた扉の表紙裏に掲載されている教材の使いやすさも併せて考慮いただければと思います。

(選定委員長) 例えば興味を引くというか、学習意欲を高めるというような言葉を加え、配色が落ち着いたところをもう少し表現してはどうかと思うのですが、いかがでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) 特にご異論もないようですので、先ほどのように文言はお任せいただければと思います。他はいかがでしょうか。

(選定委員) 光村図書は「朝のリレー」から始まり、今回は「シンシユン」がなくなったなど見ていたのですが、その中で、教科書に関してはすごく大人目線から考える、物事の見方や考え方がすごく分かりやすく示されており、その点では光村図書が非常に優れているのかなと感じております。ただ、教える側の先生方もこれだけ多岐にわたる物事、情報の中で、技量というか教え方が非常に難しいなと感じますので、ぜひサポート、フォローをお願いできればと思っております。

(選定委員長) 要望ということで、また教育委員の会議のときにも、私の方で述べさせていただければと思います。他、いかがでしょうか。

考えていただいている間に、今日欠席されている委員からご意見を頂いておりますので少し紹介させていただきますと、東京書籍については「言葉の力」で学びが深まり接しやすくなると思いましたがということ、光村図書は「広がる読書」の案内が幅広いジャンルだったので良いのではないかとということ、二次元コードの内容が多くて学びやすそうであるというご意見を頂いております。

他、いかがでしょうか。感想を含めての意見は。

(選定委員) 東京書籍で、「浦島太郎」の話があり、突然古典が現れるのではなくて昔から少しずつ変わってきて今の私たちの言葉があるというのを感じさせてくれるのが非常に面白かったので、こういう観点は教科書として面白かったという感想です。

(選定委員長) 指導に当たってそういうことも配慮していただければという意見だと思

います。

他、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。そうしましたら確認させていただきます。調査委員会の報告書に対して、ただ今審議いただいた内容について修正がございましたので、そこを加えさせていただきます。また市民から光村図書や三省堂についてのご意見が幾つかありましたので、それらの意見に傾聴いたしまして、国語における教科書採択の答申を作成してよろしいでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) ありがとうございます。では、認めていただいたということで。

他者と比べて、選定委員会として特に評価が高かった発行者について各学校の調査の意見数からも考えまして、掲載順で東京書籍と光村図書の2者を報告させていただきたいと思うのですけれども、よろしいでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) ありがとうございます。それでは東京書籍と光村図書を評価が高かった発行者ということで報告させていただきます。それでは、国語に関しましては以上で審議を終わりたいと思います。調査委員長、ありがとうございました。退室いただいて結構でございます。

⑩書写

(選定委員長) それでは、続きまして書写について審議したいと思います。調査委員長、準備ができましたらご報告のほどお願いいたします。

(書写調査委員長) それでは、今から書写の調査について報告させていただきます。書写は4者について調査いたしました。

まず、東京書籍です。調査研究報告書 A-1 の8の項目について優れた内容が見られました。目次2、3ページをご覧ください。各学年に「生活に広げよう」という教材があります。ここでは、書写で学んだことを学校生活や他教科の学習に生かす工夫が図られています。例えば教科書60ページの「本のポップを書こう」では、ポップに書く内容を効果的に伝えるため、用紙、筆記具、文字の大きさ、配列について「下書きを作る」の部分で考えさせるなど、書写での学びを生かすような工夫がされています。その他、1の項目、2の項目、3の項目、7の項目、9の項目においても優れた内容が見られました。詳しくは報告書の内容をご覧ください。

次に、調査研究報告書 A-2 の2、文字文化に関する項目についてお願いします。72ページをご覧ください。ここから75ページにかけては、身の回りにある幅広い文字表現をふんだんに取り上げており、表現の目的や工夫について考え、自分の思いを効果的に表現する活動につなげるよう工夫されています。その他、1の項目についても優れた内容が見ら

れました。詳しくは報告書をご覧ください。

続いて三省堂です。調査研究報告書 A-1 の 3 の項目に優れた内容が見られました。77 ページからの資料編をご覧ください。資料編 78～83 ページは、さまざまな日常の書く活動を具体的に捉えることができるようになっております。送り状、のし袋、願書、原稿用紙の書き方など、さまざまな様式が具体的に載せられております。同じく資料編の 87 ページからをご覧ください。ここには補助教材として多くの楷書、行書の手本が掲載されており、生徒が自ら学び書くことができるなど、自主的、自発的な学習が促されるよう資料が充実しております。その他、7 の項目でも優れた内容が見られました。詳しくは報告書をご覧ください。

次に調査研究報告書 A-2 の 2 の項目です。68 ページをご覧ください。「身のまわりの文字」では文字文化の豊かさに触れ、また効果的に文字を書くことについて学習しております。その上で 74 ページ、「名言集を作ろう」で、今までの学習を生かして自分が気に入った言葉を書く活動につなげるよう配慮されています。

それでは続いて教育出版です。調査研究報告書 A-1 の 4 の項目に優れた内容が見られます。52 ページをご覧ください。ここからのコラムではまず、歴史上の人物の手の跡の紹介、続いて活字についてのさまざまな情報が載せられております。また、61～64 ページの見開きの『『書くこと』の変遷』なども非常に充実しており、伝統文化、文字環境に関して生徒が興味深く学べるよう工夫が見られます。

次に調査研究報告書 A-2 の 1 の項目についてです。40、41 ページをご覧ください。行書の「連続」「変化」「省略」などの特徴がひょうたんのような形のマークで書かれております。大変見やすく示されており、これがこの後の学習でも繰り返し示されています。例えば 45 ページをご覧ください。「変化」「連続」などの特徴を同じマークで示し、部分における筆使いの注意点、形の整え方などを細かく表しております。学んだことが応用できるように工夫がされております。

最後に光村図書です。調査研究報告書 A-1 の 2 の項目についてお願いします。教科書 78、79 ページをご覧ください。「楷書と行書の使い分け」では、①の「考えよう」、②の「確かめよう」の部分で相手や目的に応じてどのように書くことが適切であるかを考えさせ、③の「生かそう」で自分で場所、書体を選び、書くようにするという、身に付けた知識・技能を生かして書くよう構成がなされています。また、次の 80、81 ページで行書の良さを生かした生徒作品を紹介するなど、身に付けた知識・技能を学校生活や日常生活に生かすよう、生徒の意識を高める工夫が見られております。他にも 1、3、4、5、7、8、9 の項目でも優れた内容が見られました。詳しくは報告書をご覧ください。

次に調査研究報告書 A-2 の 1、文字の書き方に関する事項に優れた内容が見られます。教科書本編と別冊「書写ブック」をセットで活用することで、書く力が定着されるよう工夫がされております。例えば教科書 54、55 ページをご覧ください。まず、楷書と行書の比較を通して行書の特徴を捉え、運筆の注意点やイメージを分かりやすく示しています。次に、その学習を終えた後、別冊「書写ブック」10 ページをご覧ください。10、11 ページでは、先ほどの教科書本編での学びを確認しながら繰り返し書くことで、基礎・基本の習得ができるよう、書く力を定着させるよう工夫されており、大変使いやすいものとなっております。以上で報告を終わります。

(選定委員長) ありがとうございます。では、委員の皆さまからご質問等をお願いいたします。

(選定委員) それでは2点お伺いします。1点目、A-1の1の項目について、光村図書の教科書だけが「書写ブック」という切り離して使用することができるノートが付いています。他の教科書は書き込むタイプですが、この「書写ブック」は昔の硬筆ノートのように単独で使うことができます。その点についての調査をもう少し詳しくお聞かせください。

2点目、A-1の7の項目について、ここでは文字の大きさなどには触れられていないのですが、各教科書で教科書本体やお手本の大きさが違っています。書写の教科書は机の上で広げて使うものなので、使い勝手の面での比較など調査委員会で話し合いがあったのでしょうか。教えてください。以上です。

(書写調査委員長) それでは、2点についてお答えいたします。一つ目、A-1の1の項目のことですが、光村図書は「書写ブック」、別冊での切り離しのものが使用されています。これについては調査委員会の中でも、今現在使われている教科書なので使い勝手についても調査委員会で話がありました。点検・評価をする際にこの切り離された「書写ブック」を提出することで非常に使い勝手が良いという話もあり、他の教科書にはない特徴があるということで優れていると判断しました。

2点目のお手本の比較についてです。机については、光村図書以外は少し小さめのお手本となっております。光村図書は大きなサイズのお手本になっており、今までの机の状況でしたら少し置くのが難しいという話もありましたが、今、金沢市の学校では机が大判になり、手本も大きくした方が生徒にとってなお良いお手本となるのではないかという話も出ました。ということで、まだ実際にはどうなのかということろまでは踏み込んではいませんが、調査委員会の中では大判のものが良いのではないかという話は出ました。以上です。

(選定委員) ありがとうございます。

(選定委員長) 他にいかがでしょうか。ご質問をお願いいたします。

(選定委員) 質問なのですが、光村図書は各学年に習得してほしい目標が非常に分かりやすく書かれていることは理解しています。他の三省堂や東京書籍もそういった形で少し分かりやすくは書いてあると見ています。ただ、教育出版は少し違って、どちらかというところからの学びというか。文字文化だけに関してフォーカスしていた分、子供たちに学びましょうというのは他の三つの出版者もいいのかと思うのですが、非常にデジタル機器の活用等が多い中で、インプットすることは長けますが、結局アウトプットする機会がなかなかない子供たちにとって、そういった教育出版の流れを使うと、例えばノートのまとめ方から入り、各段階において子供たちが自分たちで文字を使ってどう表現するか、どう活用していくかというのが非常に分かりやすく書いてあるのかなと思うのです。そういつ

た点でどういう見方をされたのか、通常どおりの見方なのか、ましてやこれからの金沢のベーシックカリキュラムにのっとったような、学んで、自分で伝えていくという形の中で、そうした見方がされているのかということが気になりました。以上です。

(書写調査委員長) ただ今ご質問があったように、これからの時代、デジタル的なものということで、いろいろ学ぶべきことはあるかと思えます。教育出版も非常にそういう面を意識されたものかなと思って、調査委員会の中でも話がありました。ただし、他の教科書についても、これからの時代の例えばデジタルを使ってまとめるという意識も、各者取り入れているなどというところも見られます。どの教科書についても、タブレットを活用してのまとめといったことを入れているなどというふうに話はされました。以上です。

(選定委員) 公立の中学校の子供たちが学んでいる環境を見ていますと、自ら学んでという自学の時間がこれから増えていく中で、本当にノート一つとってもものすごく差が出てしまうというか、せっかく文字というものを活用して自分自身の学習をしていかないといけないのに、ノートのまとめ方さえ教わらない、分からないという子が多い中で、すごくそこに差が出ている現状があります。もちろん書写の時間でそういったことを特出してやるものではないかもしれませんが、そういった点でも子供たちのこれからの学習等のやり方の中で、私は教育出版がそこら辺がフォーカスされていたので、子供たちにとっては学習等への取り組み方にも影響はあるのかなと思って、そこは優れていると評価したいなと思いました。以上です。

(選定委員長) お願いします。

(選定委員) 私は先ほどの委員とちょっと観点は違うのですが、書写、字というのは苦手な子がいるのです。私がそうなのですが。そうしたら、字を書こうとする最初の段階で、特にここの発行者の教科書はどのようなところを意識して作られているか。例えば光村図書の最初の「書写ブック」というのは、結構苦手な子に対しては入りやすいと思うのです。そういうふうに教科書全体として、書写というのは一つの芸術みたいになるので、苦手な子に対しての配慮、特にこういう教科書は留意してあるというのがあればいいのですが、それがそのまま A-1 の 8 の項目の金沢ベーシックカリキュラムにつながるように、生活にどう関与していくかということところにも広がっていくと思うのです。書写の苦手な子の立場でお答えください。

(選定委員長) それについて何かありますか。書写を書くのが苦手とか、そういうものに対して議論されたことや、それに対応した教科書というのがあれば、調査委員長のコメントを頂ければと思います。

(書写調査委員長) 調査委員会の中でそういう苦手な子に関してはというところは、はっきりとは話にはならなかったのですが、どの教科書についても非常に分かりやすくポイントが書かれていて、イラストなどもとてもなじみやすい工夫がされているという話はあ

りました。書写が苦手な、字を書くのが苦手な子に対しても、いろいろな工夫がどの教科書にもあるなという話が出ておりました。どの教科書も、それぞれに良いところがありまして、はっきりとこの教科書が特別にいいというところまでは調査委員会の中では出ませんでした。以上です。

(選定委員長) はい、どうぞ。

(選定委員) ちょっと変な質問なのですが、光村図書の55ページをご覧いただきたいのですが、書くときに「びょん」と書いてあるのですね。それで東京書籍だと、例えば10ページを見ていただくと、「とん」「すー」「びたっ」とか。何かこのような言葉で私も習った気がするのです。他の二つの教科書には特に音は書いていなくて、音を書くというか、書くのが苦手な人がここに力を入れて何とかでと言われるよりも、音でリズムカルに教えていただくといいと思うのです。一方で「びょん」というのは初めて聞いたので、この教科書で習うと大人になっても「びょん」と思っていると思うのです。そういう意味では、この音の表記についてどのように理解したらよろしいでしょうか。

(書写調査委員長) ありがとうございます。この「びょん」という、その辺のことも少し話がありました。今まで先生方も自分なりの音でいろいろな工夫をしながらやっているという話も出まして、これをそのまま使うかどうかは別にしても、こういう擬音などを使って指導するというのは教師としても割となじみいいもの、子供たちにとってもいいものではないかなという話があり、光村図書もその部分は、ちょっと変わった音かもしれないけれども、これでもいいねという話がありました。よろしいでしょうか。

(選定委員) 私もいいと思っているのですが、この「びょん」という感じは先生的に、字を書かれるときに「とん」「すー」「ぐっ」「すっ」というのと、「びょん」「びたっ」というのと、感覚として先生が字をお書きになるとき、教えられるときにどちらの方が、ふさわしいという、言い方は正しいか分からないのですが、多くの先生にとって多分こっちの方がいいだろうというのはありますか。

(書写調査委員長) 個人的な感じにはなるかなと思います。先ほど委員がおっしゃられたように、「とん」「すー」「びたっ」というのは、割と私の時代では先生もそういうふうに指導のときに使ったり、私自身もそのような言葉がけをした記憶があるのですが、けれども、「びょん」というのは正直、私の個人的なことを言うとあまり聞かなかつたです。けれども、調査委員会の中では、「びょん」というのは、割と若い調査委員の方とかはこういうのもいいねということがちらっと出ました。その辺は個人差とかいろいろなものがあるのかなと思ってその話は聞きました。

(選定委員長) よろしいでしょうか。小学校でも書写はありますので、小学校で子供たちが使う音が、そのまま中学校で流れで使ってしまうかもしれないし、中学校は中学校で教科書の記載に沿って使うかもしれませんが、その辺、子供たちが何を使っている

かというのは、どうですか、調査委員長、あまり感じ取っておられないかなという気はしますか。

(書写調査委員長) 子供たちがどういうイメージで、それこそ「びよん」なのか、「とん」なのかということまでは、申し訳ない、把握していないところが実際です。すみません。

(選定委員長) 多分、小学校の影響も受けてしまうかなという気はしています。ありがとうございます。

他はいかがでしょうか。ご質問はありますでしょうか。ないようでしたら事務局からの報告を、続いて各学校の研究委員会報告、および教科書展示会における市民や保護者の意見を報告していただきます。課長、お願いします。

(学校指導課長) それでは資料 B の 2 ページをご覧ください。「各学校における教科用図書研究委員会調査研究報告書」です。東京書籍についてです。項目 3 で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられております。全体の意見の総数については光村図書に次いで 2 番目に多くなっております。続きまして三省堂です。項目 1 で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられております。続きまして教育出版です。項目 5 で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられております。光村図書です。項目 2、項目 4 で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられております。全体の意見の総数についても最も多くなっております。

続きまして、資料 C の 9 ページ左側の下段から右上段にかけてです。移動展示で意見を頂いております。ここにつきましては、東京書籍、光村図書に対する意見が寄せられておりました。以上で報告を終わります。

(選定委員長) ありがとうございます。それでは審議に移りたいと思います。報告書に対しまして付け加えたら良い点、修正・削除したら良い点などご意見を頂ければと思います。ご感想も含めていただいて結構です。よろしくお願いします。

先ほどご指摘のありました、「書写ブック」の件や文字の大きさの件、あとノートの書き方と言ったらいいのでしょうか、そういうところも、もう少し報告書の内容について文言を変えたらいい部分がありましたら。

先ほどのノートの取り方について、委員のご意見がありました。他の委員からも、教育出版のノートの取り方が最初の方に出てくるのはいいと思いましたというコメントを頂いています。その他、幾つかありますけれども、今の議論に関してはそのようなご意見、ご感想というか、いかがでしょうか。

(選定委員) 感想なのですけれども、書写ですので、やはりそこで今の学生たちを見ても、きれいに字を書く気はあるのかなと思うときがあるのです。そういうときに、手書きの良さとは何だろうという、この教科の存在意義は何だろうと光村図書は考えさせているのはすごくいいことだなと。光村図書が言っていることを子供たちが「そうだ、そうだ」と思うかどうかは別として、1 度立ち止まって、何のために書写をやっているのかということを考えるという意味では面白いかなと思いました。

教育出版の、そうではない活字文化のようなものを取り上げるのも面白いのですが、光村図書の考えさせることは大事だなと思いました。

(選定委員長) ありがとうございます。他、ご感想でも結構でございます。幾つかコメント、ご感想を頂ければと思います。

(選定委員) 字を書くことが苦手であった自分にとって、今改めて教科書を見てみると、自分が読み進めてみて、こんなふうにして練習していったらいいのか、こんなバランスなのだなということが非常に分かりやすく、どの教科書もなっていることに非常に驚きました。

子供たちはこれからというか、もう既に現在タブレットが入って、字を書く機会が以前に比べて少なくなっていると思いますが、日本の大切な文化でもありますし、またこれで自分もきれいに書いてみたいとか、苦手だけれども頑張ってみようとか、そんなことが思えるような教科書であつたらいいなと思うことと、先ほど選定委員長からありました、小学校の影響かなということも、「びよん」というあそこのところでありましたけれども、書写は決して時数が多いわけではないので、できれば小学校のつなぎみたいなのところも見ていただけたら大変いいのではないかと思います。感想です。

(選定委員長) ありがとうございます。他、いかがでしょうか。ご意見、ご感想でいいと思いますけれども、コメントを頂ければ。

(選定委員) 実は最近、毎日学級通信を出されている先生が生徒の手元だけを全部写して学級通信に載せたものを頂いたのです。そうすると、まともに鉛筆を持っている子は一体何人いるのかと数えたら、本当に教えるほどなのです。

やはり昔に比べれば本当に字を直接書く機会は減っているかもしれないのですが、手を動かすことの意味はとてもあると思うのです。そういう意味では、どの書写の教科書も一長一短あるとは思いますが、この教科の存在意義としては、とても残してほしい教科の一つだなと改めて教科書を見て思いました。

(選定委員長) ありがとうございます。最近、筆圧が下がっているということをよく聞きますね。他はいかがでしょうか。

(選定委員) 自分が書写を習った頃に比べるといろいろな場面で文字が使われている。そして、学校生活の中でもこのように活用できるという写真や解説があつて、書写の時間が始まる前にちょっと子供たちが開いて興味・関心をもてる工夫がとてもたくさんされていると思いました。

先ほどからどの委員の方々も手書きの良さを大切にしていかなければいけないということをおっしゃっていますけれども、金沢ベーシックカリキュラムから各学校の教育課程の中にぜひ書写での取り組みといたしますか、学校生活での活用なども入れていくと、金沢出身の子はちゃんと手書きでできるというような良さも出るのかなというふうに思いました。

(選定委員長) ありがとうございます。他、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。私も、ここで書写についてどの委員も強調していただいて、どの教科も重要ですし、どの活動も重要なのですが、本当に書くことという、やはり金沢の子はしっかり書けるようにということを思います。

うちの大学は今パソコン必携なので、授業中みんなパソコンなのです。「ノートに書いてもいいのですよ」というか、最近「ノートに書きなさい」ということも言うのですが、研究者の中にもよく、パソコンで書こうとした段階で思考が束縛されるというか、キーボードを叩くという行為で自由度が限定される。だから、「君がこれから抜き出ようと思ったらノートにきちんと書ける力も大事なのだよ」ということをよく言うのですが、それは私自身も非常に感じる事なので、自分もたくさんパソコンを使いますが、最終的にアイデアを出すときにはノートが一番出やすいかなという、ちょっと個人的な見解かもしれないけれども、研究者の中にも結構そういうふうに言われる方も多いので、ぜひ書写は時間数も本当に少ない中ですが、他の教科にもかなり影響があることだと思いますので、金沢市としてしっかり書写に力を入れて子供たちが書けるようにしていただければうれしいなど。感想を勝手に述べましたけれども、よろしくお願ひしたいと思います。

そうしましたら、まとめさせていただきます、確認させていただきますけれども、調査委員会の報告書に対して、ただ今示された内容について、特に修正を加えるところはございませんでしたので、調査報告書の内容を尊重するとともに、先ほど市民からの東京書籍、光村図書などに対する意見がありましたけれども、傾聴いたしまして、書写における教科書採択の答申を作成したいと思いますけれども、よろしいでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) ありがとうございます。認めていただいたということで、では他者と比べて特に評価が高かった発行者について選定委員会としては4者のうち、掲載順で東京書籍と光村図書ということになりますけれども、この2者が評価が高かった発行者ということで報告させてもらってよろしいでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) ありがとうございます。それでは、認めていただいたということで、書写についての審議を終了したいと思います。調査委員長、今日はありがとうございました。ご退出いただいて結構です。

そうしましたら、これより10分ほど、休憩ということでお願いいたします。

では、45分から再開したいと思います。

<休憩>

⑪英語

(選定委員長) 続いて、英語について審議を行いたいと思います。では、調査委員長から、準備ができましたら報告をお願いいたします。

(英語調査委員長) それでは、ただ今より、英語の教科書の調査結果について、私から報告いたします。英語については、6者の発行者について調査いたしました。

まず、東京書籍について。調査研究報告書 A-1 の 8 の項目について、ご当地グルメや自校に取り入れたいユニバーサルデザインを発表する活動があり、既習事項を活用して主体的に自分の考えを表現できるよう工夫されていました。例えば、2年生の教科書 26 ページをご覧ください。ここでは、地域で一番お勧めのグルメについての情報をまとめ、ペアで互いに紹介し合うとともに、相手が紹介するときに用いた表現を自分の記事に生かし、グループ内で発表する活動が設定されています。また、同じく 2 年生の教科書 66 ページでは、身の回りの施設から自分の学校に取り入れたいと思うユニバーサルデザインについて考え伝え合うなど、主体的に考え、表現できるように工夫されていました。その他、1、6、10 の項目についても特に優れた内容が見られました。詳しくは報告書の内容をご覧ください。

次に、調査研究報告書 A-2 の 3 の項目について。「Stage Activity」では、目的・場面・状況が生徒にとって分かりやすく、自分の考えを段階的に整理し、着実に表現する力が身に付くよう配慮されていました。例えば、3年生の教科書 88 ページをご覧ください。ここでは、「Mini Debate」をするための手順が段階的に示されています。論題に対する意見を読み、それを賛成側と反対側に分類し、主張と理由、質問の仕方を学び、実際に「Mini Debate」を行えるように工夫されていました。

続いて、開隆堂出版について。調査研究報告書 A-1 の 1 の項目について、各単元で基本本文が漫画で紹介されているため、誰にとっても使用場面が容易に理解でき、知識・技能を確実に身に付けることができるよう配慮されていました。例えば、1年生の教科書 38 ページをご覧ください。ここでは、この単元で身に付ける基本表現を用いた対話が漫画とともに一度に紹介されています。対話を 1 往復とし、分かりやすい場面になるよう工夫されていました。その他、6、8 の項目についても特に優れた内容が見られました。詳しくは報告書の内容をご覧ください。

次に、調査研究報告書 A-2 の 2 の項目について、「Review & Retell」では、イラストやキーワードを基に内容を自分の言葉で再現する活動が設定され、思考・判断しながら表現力を育成できるよう工夫されていました。例えば、3年生の教科書 36 ページをご覧ください。まずストーリーを振り返って、台詞文を考えるだけでなく、自分の感想も加えるように配慮されていました。その他、3 の項目についても特に優れた内容が見られました。詳しくは報告書の内容をご覧ください。

続いて、三省堂について。調査研究報告書 A-1 の 9 の項目について、「Project」ではペア・グループで協働しながら、生徒自身が伝える内容を整理し、課題を解決することができる充実した言語活動になるよう図られていました。例えば、3年生の教科書 76 ページをご覧ください。ここでは、目覚まし時計についてのラジオ CM を作る活動が設定されています。

時計についての説明を読み、どちらのCMを作るのかを自分で決め、その後CMのタイプ、構成について、ペアで意見交換やアドバイス交換をして、実際のCMを作る活動が設定されています。自分で考えた後、周りの意見を参考にしながら課題を解決できるよう工夫されていました。その他、3、6、7の項目についても特に優れた内容が見られました。詳しくは報告書の内容をご覧ください。

次に、調査研究報告書A-2の2の項目について、「Take Action!」では、複数の情報の中から必要なものを選択したり抽出したりして、自分の考えや気持ちを表現する力が身に付くよう工夫されていました。例えば、2年生の教科書68ページをご覧ください。ここでは、オンラインショッピングの説明を読んで、自分なら誰にどのヘッドホンを勧めるかを考える活動が設定されています。相手の好みや購入目的を示すことで、なぜそのヘッドホンを勧めるのかについて、相手を意識して考えられるように配慮されています。その他、1、4の項目についても特に優れた内容が見られました。詳しくは報告書の内容をご覧ください。

続いて、教育出版について。調査研究報告書A-1の5の項目について、現在問題になっている食品ロスなどの環境問題や児童労働等の社会問題が多く取り上げられており、SDGsに関連した学習の充実が図られるよう配慮されていました。例えば、3年生の教科書91ページをご覧ください。この単元では、レストランでの食べ残しを持ち帰るためのドギーバックについて、賛成と反対の立場に分かれてディベートを行う場面を通して、食品ロスの問題について考えられるよう配慮されています。その他、10の項目についても特に優れた内容が見られました。詳しくは報告書の内容をご覧ください。

次に、調査研究報告書A-2の1の項目について、「Grammar」では文法事項が色別で見やすくまとめられていることで構造的に理解しやすく、ペアでの会話を通して確実に定着するよう工夫されていました。例えば、2年生の教科書59ページをご覧ください。ここでは、不定詞の形容詞的用法、動名詞の主語としての働き、「何々ということ」という意味を表すthat節の用法について、意味の固まりを色の違いによって示すことで分かりやすくなるよう工夫されています。

続いて、光村図書について。調査研究報告書A-1の9の項目について、「You Can Do It!」では、グループで考えを深めたり、友達の意見を参考に自分の考えを再構築したりするなど、充実した言語活動になるような工夫が見られました。例えば、3年生の教科書44ページをご覧ください。ここでは、海外の生徒の「制服は必要である」「昼寝時間は必要である」という意見について、グループでどちらを議題にするかを決め、自分の考えをもった後、話し合いをしてグループの意見をまとめるという活動が設定されており、言語活動が充実する工夫が見られました。その他、1、3、7の項目についても特に優れた内容が見られました。詳しくは報告書の内容をご覧ください。

次に、調査研究報告書A-2の1の項目について、「Active Grammar」では、ストーリーと関連付けて文法事項を復習することができ、場面と意味が分かりやすく、学習内容が定着しやすいよう工夫されていました。例えば、2年生の教科書81ページをご覧ください。ここではUnit2とUnit6で学習した二つの接続詞について場면을想起しながら比較し、復習できるように工夫されています。その他、3の項目についても特に優れた内容が見られました。詳しくは報告書の内容をご覧ください。

続いて、啓林館について。調査研究報告書A-1の2の項目について、「Project」では、既

習事項を生かし、4技能5領域を統合的に活用できるようになっており、思考力・判断力・表現力が身に付くよう配慮されていました。3年生の教科書44ページをご覧ください。ここでは、ALTの先生へインタビューをして、聞き取った内容を文章にまとめる活動が設定されています。聞く・読む・話す・書くの活動を取り入れ、学んだことを生かして課題が達成できるように配慮されています。

次に、調査研究報告書A-2の2の項目について、「Think & Speak (Write)」では、聞いたり読んだりしたことを基に、段階的に自分の考えを発表する自己表現活動につながるよう工夫されていました。例えば、2年生の教科書58ページをご覧ください。ここでは、災害時の取るべき行動について考える活動が設定されています。災害発生時に取るべき行動についての内容を聞き取ったり、自分が選んだ災害について、発生したときの自分が取るべき行動について考え、発表したりするように工夫されています。以上で私からの調査結果の報告を終わります。

(選定委員長) ありがとうございます。それでは、委員の皆さま、ご質問等がございましたら、お願いいたします。

(選定委員) 4点質問させていただきたいと思います。

まず、1点目です。項目の中では紹介されていないのですが、1番の「基礎的・基本的な知識や技能の習得のため、学習内容を確実に身に付けることができるような」ということで、英語ではやはり文法の学習が生徒の中に定着することも重要なことだと思います。現在使っている教科書で、1年生の最初の方に新出文法が以前の教科書よりもたくさん盛り込まれているため、1年生の最初につまずくことがありました。

それが東京書籍なのですが、最初にたくさん盛り込まれており、その後は通常どおり、疑問詞などの文法の順番になっています。開隆堂出版は詰め込みがなく、一つずつ順番を追って文法事項を学んでいくような形になっています。三省堂は、早い段階のLesson4ぐらいから過去形が入ってきています。他の教科書は2年生から未来形が入るのですが、三省堂だけは1年生の最後に未来形が入ってきます。その他、受け身はどの学年も2年生の最後に学習することになっているのですが、三省堂は3年生に入ってから受け身を学習するというので、三省堂だけは文法を習う順番がこれまでと大きく違うということが気になったのですが、調査委員会ではどういう流れで学習する方が生徒に身に付きやすいかというお話があったのか、教えていただきたいというのが1点目です。

2点目です。A-1の6の項目に、「CAN-DOリスト」というのがよく登場しています。どの教科書も巻末に必ず「CAN-DOリスト」というものがあります。技能別になっていて、聞くこと、読むこと、話すこと(やりとり)、話すこと(発表)、そして書くことについて、段階を踏んで、できるようになることを示したものになっています。東京書籍は教科書の途中に、これが巻末の「CAN-DOリスト」のこの項目に当てはまるという記述があります。開隆堂出版は「CAN-DOリスト」自体が各単元別、プログラム別になっています。これだと生徒自身がすぐできたということがチェックしやすいと思います。三省堂は最後のページに技能別になって、その単元の項目の中にこれはここで習った内容ですという記述があります。英語科では必ず、各学校で「CAN-DOリスト」を作成することになってい

と思うのですが、どの発行者の「CAN-DO リスト」が使いやすいのか、そういうお話があったのかということをお伺いしたいです。

(選定委員長) たくさんあるようですから、今の2点について調査委員長、お願いできますでしょうか。

(英語調査委員長) 一つ目の質問について、調査委員会の中では、文法事項の学習順についての話題は特に出ませんでした。全ての文法事項についてどのような順で学ぶべきかというのはすごく難しいかなと私は考えております。

2番目の「CAN-DO リスト」については、ご指摘のとおり全ての学校で作っております。

(選定委員長) 続けて質問していただいて結構です。

(選定委員) 続いてA-1の9の項目、「自分でみんなで考える金沢型学習スタイル」に基づく学習が展開できているような構成や工夫が図られていることとして紹介されている教科書の部分は、単元を幾つかクリアした後に、学期のまとめ的などころで行う活動だと思います。それが東京書籍では「Stage Activity」、開隆堂出版では「Our Project」、三省堂では「Project」だと思うのですが、次のA-2の項目3の「言語活動に関する事項」も同じ場所について調査がされています。このよさとA-1の項目9でのよさが若干異なっていて、どういう点で違うふうにしたのかということが疑問だったので教えていただきたいです。私自身は、開隆堂出版の「Our Project」が、A-2の項目3に書いてあるとおり、生徒の意欲が高まるよう、スモールステップを踏むことで着実に表現力が身に付くよう配慮されているのが本当に素晴らしいなと思ったので、A-1の9の項目の内容も同じよう優れていると表現としていただけたらなと思いました。

続けて、もう一つあるので聞いてもいいですか。

(選定委員長) はい、どうぞ。

(選定委員) A-1 10の項目のデジタル教科書についてです。デジタル教科書は、この出版者だけでなく、デジタル教科書を作っている会社があって、実は東京書籍と三省堂は同じLentranceという会社のデジタル教科書です。でも、このよさが違います。開隆堂出版と教育出版も同じデジタル教科書の会社で作成されていますが、このよさも違ってきます。ここは同じ会社のデジタル教科書でも具体的にどのように違ったのかどうかを教えてください。

(選定委員長) 調査委員長、お願いします。

(英語調査委員長) 最初の質問のA-1の項目9と項目3のところなのですが、非常に関連しているなと捉えておりました。それで、ご紹介した部分については特に優れていたとお話ししたのですが、東京書籍の「Stage Activity」と開隆堂出版の「Our Project」の

すべてに目を通したところ、報告書にあるような違いが出たと捉えておりました。

デジタル教科書については、東京書籍と三省堂は Lentrance の仕様になります。調査の結果、例えば自分の発話を録音して聞いたりできるようなことを考えているということも実際に見られていました。

(選定委員長) よろしいでしょうか。

(選定委員) ありがとうございます。

(選定委員長) 他にご質問はいかがでしょうか。

(選定委員) 一般的に、文法等を学べば入試対応等はできるのかもしれないですが、ネイティブと普通にコミュニケーションが取れるような最低限の中学英語の定着を図るためには、どの教科書がよいのでしょうか。ただ書ければいいというものではなくて、コミュニケーションを取るための教科であるのだったらどれが一番適しているという見方をされたのか、その点を質問させていただきます。

(選定委員長) お願いします。

(英語調査委員長) どの教科書にも素晴らしい部分はあったと思います。自分で考えて、それを再構成、再構築しながら、さらに相手に伝えることができ、相手からの意見を受け入れて、またそこで自分の考えを深めることができるような構成になっているものが特に素晴らしいのではないかなと私たちは捉えました。そうすると、先ほどの A-1 の項目 9 のように、自分の力をどんどん高めていくような、表現できていくような、コミュニケーションができていくようなことが仕込まれている教科書が、子供たちの力を伸ばしていく上ではよいと思います。

(選定委員) 確かにどの発行者がという絞り込みはできないと思いますが、開隆堂出版だけは、最初のガイダンスの部分で音について結構触れていたの、そこは各学年であるのかなということも思ったのです。「SUNSHINE」は学年が上がるにつれて結構簡素化されていくのですが、「NEW HORIZON」は各学年の成長過程に合わせて結構バラエティに富んだ話題提供をしているので、そういうのが考える機会になるのかなというふうに見ました。最後は感想です。以上です。

(選定委員長) ありがとうございます。他にご質問はいかがでしょうか。

(選定委員) 小学校との絡みというか、市民の意見にもあったと思うのですが、小学校で使っている教科書と中学校で使う教科書との関連について意見が出たのかどうか。特に英語はいろいろなイラストや登場人物というか、いろいろなつながりが他の教科よりもちよっと強いような気がするのですが、そういう点で話されたことはあるのでしょうか。

(英語調査委員長) 小中連携については、金沢市がずっと取り組んできているところです。調査委員会の中では、教科書を見る限りでは、例えば1年生の教科書の中で、東京書籍ですと Unit0 から Unit4 まで小学校との関連を表示していますし、三省堂でも1年生の教科書のスタートアップとして Unit1 から Unit4 まで小学校の内容を確認していて、各者それぞれ小学校で学んだことを中学校でも取り入れられるような工夫は見ることができました。

(選定委員長) よろしいでしょうか。

(選定委員) はい。

(選定委員長) 他に質問はいかがでしょうか。

(選定委員) 英語が苦手な子ということ考えたときに、昔の英語と違って今の英語は、授業にALTが入って、話す・聞くということがとても大事なことで扱われていると思うのですが、家へ帰って1人で勉強するということ考えたときに、A-1の1の項目の基礎・基本をきちんと定着させることが大事なのかなと思います。そういう意味で、勉強するときにはやはり教科書を基に勉強するので、苦手な子たちが自分で勉強しようと思ったときに勉強しやすい教科書という点で、自分は1の項目がとても大きなポイントになると思ったのですが、他の項目でこういうところも英語が苦手な子たちにとって大事だという、いい例があったら教えていただければと思います。

(英語調査委員長) 最初の基礎的・基本的な知識の点については、各教科書とも二次元コードがよく掲載されていて、その二次元コードを読み取ると新出語句の音声が開けたり、辞書にアクセスできたり、または本文を聞くことができ、それぞれの生徒がうちに帰ってから、また自分のタイミングで学習することができるようにはなっています。英語が苦手な生徒という部分については、やはり生徒が興味をもてるような内容であることが一つ挙げられると思うのですが、6者のどれを見ても今の話題をかなり取り入れているところが多くて、例えば先ほど出ていたSDGsの話や、何年後の自分に対するメッセージを最後に書いてみようというものがあります。

苦手な生徒は本当に苦手とってしまうとなかなか次に取りかかるのが難しいので、それをきっかけとして考えるのであれば、教科書が全て文字で埋め尽くされているというのではなくて、少しほっとできるような部分があるとよいというふうに私は考えております。

(選定委員長) では、どうぞ。

(選定委員) 取り上げられている題材についてお伺いします。例えば、英語が話せるようになるのが一番大事だと思いますけれども、海外の方とコミュニケーションをするとき

には、やはり人権の問題などを知らないで話すのは非常に危険というか、むしろ話さない方がいいという気がしています。例えば、三省堂の3年生ではマララさんのスピーチが出ていたり、私の世代としては懐かしいキング牧師の「I Have a Dream」が出ています。これは世界の人たちからすれば、われわれ世代だけかもしれませんが、古典のようなものかなと思っています。義務教育の最終学年でここまでというのは結構いい取り上げ方だなと個人的には思いますけれども、それについてどう思われるかということと、他の教科書でもこの辺がきちんと取り上げられているということがあれば、どうぞ判断されたかというのを教えていただければと思います。

(選定委員長) お願いします。

(英語調査委員長) 確かに私たちが会話でコミュニケーションをするときに、自分の都合だけで話をしてはいけませんし、やはり相手のバックグラウンドであるとか、相手のことを考えながらするという点で、私はこういうことは本当に大切なことかなと考えています。

(選定委員長) 他の者にも似たようなものは何かありますか。先ほど指摘されたような問題は。そうないですか。この者だけでしょうか。

(英語調査委員長) 題材として例えばパラスポーツであるとか、そういう教材はありませんでした。

(選定委員長) 特にここの部分は特化されていたのでしょうか。

(選定委員) 東京書籍にもマララさんのことは載っているという指摘があったかなと思います。古典なのですけれども、今ちょうどアメリカの情勢を見ていると、ということもありますし、そういう意味で他の教科書の知識なども関わってくると思いますので、人権の問題というのは意外と、コミュニケーションを大事にするという点においても、この教科書にとってはすごく大事なポイントなのかなと個人的に思います。A-1の項目4の道徳性という意味では、これは実ほどの教科書も同じというか、横並びだなという感じがして、もし幾つかの発行者で人権みたいなものを積極的に、一応ガンジーが出ているというお話を聞きましたけれども、ガンジーよりも、今のわれわれの世代というか、今現実に起きていることとすごく関わっている感じがしますし、世界のニュースを見るときも、背景などニュースを理解するときのいい教材かなと思っていて、そういう観点で見たらどうかなと思って聞いてみました。

(選定委員長) ありがとうございます。

(選定委員) 私も題材の中身について同じような質問をさせていただきます。A-1の項目3、生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習という項目なのですけれども、

各者、学び方について書かれているように思うのです。英語の教科の学習をするときに、かなり興味・関心に差があると思っています。それでもこの中身だったら、分からない英語の単語や文法を勉強してでも読みたいと思わせる題材があったらいいと思うのです。それは恐らくドキュメンタリーであったり、教科書の中に原爆ドームのことが書かれているとか、オバマさんが広島を訪問されたような題材もありましたけれども、何かそのような点について項目としてなかったのか、当てはめるとすれば項目3かなと思うのですけれども、取り上げられている題材の中身そのものについての議論はあったのか、お聞かせください。

(英語調査委員長) 子供たちにとえば、例えば日本の文化の中でアニメや漫画の文化を取り上げているところはありました。三省堂なのですけれども、漫画に注釈を付けるときに日本語と英語では注釈の付け方が違うということが書かれていたり、日本語にはあるのだけれども英語ではそんな表現はなくて、それをどう解釈して付けるかということが書かれているのですが、そういうところは子供たちの興味をそそるところではあると思います。

あとは、スポーツ選手であるとか、そういう話題は何者が取り上げていて、今話題の人たちを取り上げ、それぞれどういうことを経験してきているとか、活躍しているとか、そういうところから興味をもつようなものは見られました。

(選定委員) 感想も含めて言いますけれども、日本語で書いてあるものは日本語で読めばいいので、そこに興味・関心をもたせるのはなかなか難しいかなと思っています。むしろ英語で書かれているもの、あるいは先ほど言ったキング牧師の話だったり、そういう外国の方のドキュメンタリーがあったら興味が高まるのではないかなと思います。そういうものが教科書に入ってくれたらいいなど。感想です。

(選定委員長) ありがとうございます。他にご質問はありますか。

(選定委員) 先ほどの委員の質問に関連して、小学校の教科書と中学校の教科書の系統性について伺います。私が以前、他の市で勤務したときに、小学校と中学校で発行者が異なっていて、既習だと思っていたものが新出として出てきたり、逆のことがあったりして、大変やりにくかった経験がありました。言語を学ぶ教科として英語も国語と共通している部分があると思うのですが、小学校の発行者と中学校の発行者が異なっても、新出単語や語句などを教える上で特に支障はないものなののでしょうか。

(英語調査委員長) 新出語句の点からすると、確かにそういうことは出てくるかなと思います。私たちもそこを深く話し合いをしたわけではないのですが、小学校の教科書と中学校の教科書の発行者が仮に違っていても、それほど大きくは響いてこないのではないかなと考えております。

(選定委員) ありがとうございます。

(選定委員長) 他にございますでしょうか。教科書の最後あたりに、ワードリストみたいなものがありますが、発行者によって使い方のいい悪いはありますか。使いやすい、使いにくいというか。あまり差はないですか。

(英語調査委員長) 特にないと思います。例えば3年生だったら、これは2年生で出てきたとか、1年生で出てきたということを記されている場合がほとんどですので、その点はすごく有効な表示ではないかなと私は考えています。

(選定委員長) ありがとうございます。他にございますでしょうか。ないようでしたら、事務局より各学校の研究委員会の報告、および教科書展示会における市民や保護者の意見を報告していただきます。課長、お願いします。

(学校指導課長) それでは、資料Bの15ページをご覧ください。「各学校における教科用図書研究委員会_調査研究報告書」です。東京書籍につきましては項目1、項目2、項目3、項目5で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられ、意見の総数も最も多くなっております。続きまして、開隆堂出版です。項目4で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられております。続きまして、三省堂です。項目3で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられ、意見の総数につきましては、東京書籍に次いで2番目に多くなっております。続きまして、教育出版です。項目2で多くの意見が挙げられております。続きまして、光村図書です。項目2で多くの意見が挙げられております。続きまして、啓林館です。項目1で多くの意見が挙げられております。

続きまして、資料Cの8ページをご覧ください。左側のところです。ここでは東京書籍、三省堂、啓林館の発行者に対してのご意見が寄せられております。

続きまして、資料Cの12ページ、移動展示についてです。移動展示につきましては、左側の下段からご覧ください。そこでは東京書籍、三省堂、啓林館、教育出版等の発行者に対する意見が寄せられております。以上で報告を終わります。

(選定委員長) ありがとうございます。そうしましたら、英語について審議を行いたいと思います。答申のための報告書について、付加したり、修正したり、削除したらよい点についてご意見を頂ければと思います。ご感想も含めていただいて結構でございます。

(選定委員) 例えば東京書籍の3年生だと145ページから、帯活動用「Small Talk」というものがあります。これは、毎回授業の最初にペアやグループで質問し合う活動に使う資料です。これが各学年ともあるので、経験の浅い先生でも帯活動で対話練習をすることができ、先ほどお話のあった会話力を身に付けるという意味で継続した活動になるので、とても使いやすいと思います。

同じく会話力、表現力を身に付けるという意味では、開隆堂出版は各プログラムごとに話が終わると「Review & Retell」というのがあって、本文の内容について他の人に伝えるという活動があります。本文の音読や意味の理解にとどまらず、それを他の人に伝える活動

をすることで表現力が付きます。ただしゃべるのではなく、人に何を伝えるかということが英語ではとても大事で、これを毎プログラムごとにやることで定着し、表現力が付く、とても素晴らしい内容ではないかなと思っています。

家庭学習での定着についてです。英語のデジタル教科書は現在、全ての生徒の Chromebook に入っております。教科書を実際見るととても内容が豊富で、授業でしなければならない活動内容がたくさんあります。実は最近、英語の授業では音読活動が減っています。全員で音読するという昔ながらの活動が減っていて、それが特にあまり得意ではない生徒の身に付かない、身に付きにくい原因ではないかなと。やはり声に出して教科書を読むということはとても大事な活動だなと思っています。そういう意味では、デジタル教科書を使って、各自で流れてくる音に合わせてリピートする、単語も意味も全部そこに載っていますので、Chromebook を使ってデジタル教科書で家庭学習をすることで、英語が苦手な子も身に付くという活動が継続してできるのではないかなと思います。デジタル教科書については、どの教科書がいいかというのはちょっと分からないですが、そういう活動にとっても役に立つものではないかなと思っています。

先ほどから何回かあった、学期ごとのまとめ、東京書籍の「Stage Activity」、開隆堂出版の「Our Project」、三省堂の「Project」等の活動ですが、特に開隆堂出版の活動は、これまで習った内容を生かしてまとめの活動をするというのがとても丁寧に教科書の中に書かれているのではないかなと思うので、この活動をすることで生徒が身に付いたなど達成感が得られるような取り組みができるのではないかなと思っています。

(選定委員長) 表現等、報告書の修正等は必要ありませんでしょうか。今のご意見、ご感想を含めた内容から。例えば、最後の方の開隆堂出版のこれまでの活動を生かしてというところは、少し強調してもいいようであれば、そういう内容も含められるのかなと思いますけれども、それはどうでしょう。A-1 の項目 9 になるのでしょうか。どの辺の位置になりますでしょうかね。

(選定委員) A-1 の項目 9 のよさがちょっと伝わるといいかなと思いました。

(選定委員長) そういうことでしょうかね。ご感想も含めたご意見でしたけれども、その辺はどうでしょうか。その前の委員の調査委員長に対する質問等も含めて、私もその辺なのかなという気がしていたのです。これまでの活動を生かして自分の考えを深めるような工夫という表現を入れたらいいのではないかということだと思いますけれども、他の委員、どうでしょうか。もう少しこの辺のよさを強調したいというご意見かなと思いますけれども、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) では、その辺の修正については私と事務局にお任せいただいて、少し優れていることが伝わるような形にさせていただければと思います。

他に修正のご意見、感想やご要望的なことも含めて、修正がなくてもその辺の意図が伝

わるように、口頭になるとは思いますが、教育委員会議では私から説明させていただこうと思います。

(選定委員長) 他にご意見、ご感想も含めて結構です。

(選定委員) 先ほど指摘させていただいた件なのですが、三省堂の方でインド映画を取り上げていたり、英語というものが英語圏の英語だけではなくて世界的な言語として用いられていて、世界でのコミュニケーションツールであると考えたときに、やはりこういう人権の問題をちゃんと取り上げている。しかもスピーチをしていく力を、養うかどうかは分かりませんが、一つの学びとしてそういうのがあればいいなと思いますので、三省堂の項目4なのか項目5なのか、人権問題および世界で使われている英語という表現を入れていくのはいいのではないかと思うのですが、いかがでしょうか。

(選定委員長) A-1の項目4か5あたりで、人権問題や世界的に使われている英語というような趣旨ですね。

(選定委員) そうですね。グロービッシュというか。

(選定委員長) 題材を強調すると項目4になるかもしれないけれども、現代的課題の人権や世界でという、今は世界的にいろいろな諸問題がありますので、どちらに入れやすいかということもありますけれども、その辺はお任せでも構いませんか。どちらにしても項目4か項目5の中に、人権的な問題や世界で使われる英語という観点でそういうところが優れているという表現にさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) では、そのような修正を図らせていただきます。他にいかがでしょうか。ご感想も含めてありましたら、よろしいでしょうか。では、確認させていただきます。調査委員会の報告に対しまして、ただ今審議された内容につきまして修正箇所がございましたので、それを加えさせていただき、先ほどの市民からの東京書籍、三省堂、啓林館、教育出版等への意見に傾聴いたしまして、英語における教科書採択の答申を作成したいと思いますけれども、よろしいでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) では、確認させていただいたものとします。また、他者に比べて特に評価が高かった発行者について、選定委員会として先ほどのよさについてのご意見、あと報告書の内容、そして各学校の調査での意見数から申しまして、掲載順は東京書籍、開隆堂出版、三省堂になろうかと思うのですが、いかがでしょうか。その3者でよろしいでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) ありがとうございます。そうしましたら、6者のうち……。

(選定委員) すみません。光村図書も。

(選定委員長) 光村図書もあった方がいいでしょうか。

(選定委員) いえ、開隆堂出版よりも光村図書ではないかなと。そんなことはないですか。

(選定委員長) 分かりました。そうしましたら、修正させてください。掲載順になりますけれども、東京書籍、開隆堂出版、三省堂、光村図書ということになりますけれども、その四つでよろしいでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) ありがとうございます。その四つを特に評価が高かった発行者ということで報告させていただきます。どうもありがとうございます。それでは、英語についての審議を終わりたいと思います。調査委員長、ありがとうございます。退席していただいて結構でございます。

⑫道徳

(選定委員長) それでは、道徳の審議に入りたいと思います。調査委員長、準備ができましたら、ご報告をお願いいたします。

(道徳調査委員長) 今から「特別の教科 道徳」の教科書の調査結果についてご報告させていただきます。道徳につきましては、7者の発行者について調査いたしました。

まず、東京書籍です。調査研究報告書 A-1 の 5 の項目についてお伝えします。3年生の教科書の巻末、198 ページをご覧ください。どの学年においても、このように一覧にて他教科との関連や、関連する主なテーマが多く示されています。また、8 ページをご覧ください。8 ページの下の方にあるように各題材にはこのようにコードが付いており、コードの横には参照可能コンテンツが図で明記され、中には筆者のメッセージとともに活動内容の詳細が動画で紹介されるなど、他教科の内容を使って多方面から主体的に学べるよう配慮されています。その他、7 の項目についても特に優れた内容が見られました。詳しくは報告書の内容をご覧ください。

次に、調査研究報告書 A-2 の 2 の項目についてです。3年生の教科書 8 ページならびに 126 ページをご覧ください。主として自分自身に関する事項において、著名な人物の考え

方や自転車操作スマホなど情報モラルに関する話題が充実しており、日常生活における自分自身の行動を見つめ直したり、進路選択について具体的に考えたりできるよう工夫されています。

続いて、教育出版です。調査研究報告書 A-1 の 6 の項目についてお伝えします。2 年生の教科書 154 ページならびに 120 ページをご覧ください。154 ページの方で、「けやき中」が出てきます。けやき中という同一中学校での学校行事や、120 ページのように「雅司、由紀、美佐」という 3 人の同一登場人物の葛藤が、1~3 年と学年を追って構成されています。自分の進級とともに共感しながら自分のこととして感じられるよう工夫されています。

続いて、調査研究報告書 A-2 の 5 の項目についてです。3 年生の教科書 136 ページならびに 140 ページをご覧ください。主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関する事項において、「いのちをかがやかせる」では、動物と人間の関わりや臓器提供での命の尊さなど、最適解が簡単には見出せない題材を通して、多面的・多角的な視点から主体的に生命を深く考えられるよう工夫されています。

次に、光村図書です。調査研究報告書 A-1 の 6 の項目についてお伝えします。1 年生の教科書 2 ページならびに 82 ページ、続いて 172 ページをご覧ください。まず 2 ページです。2 ページには、いじめや情報モラルのユニットがあります。82 ページは絵本作家の問いを基に、引き続き次のページには、探究活動につながる「今日の『てつがく』」があったり、172 ページで見ていただいたように、「橋の上のおおかみ」などの小学校の定番教材が全学年で系統的に分かりやすく配置されています。主体的に学びを深められるよう工夫されています。

続いて、調査研究報告書 A-2 の 2 の項目についてです。3 年生の教科書 16 ページならびに 69 ページをご覧ください。主として自分自身に関する事項において、漫画家や陸上選手の題材から、自己肯定感を高められたり、自分の課題に気付ける多様な教材があったりと、より良い自分の生き方を考えられるよう配慮されています。

続きまして、日本文教出版です。調査研究報告書 A-1 では、特に 4 の項目に優れた特色が見られました。目次の例として、1 年生の教科書 2 ページをご覧ください。そちらにあるように、ネットや多様性、いじめに関する教材が豊富で、ユニットを通して多様な視点から考えることができるように工夫されています。また題材の例として、2 年生の教科書 30 ページ、併せて 34 ページをご覧ください。どちらも同じ「五月の風」という題材ですが、「カナ」と「ミカ」の双方それぞれを主として描き分けた内容になっており、各学年に応じて違う立場から考えることができるよう工夫されています。その他、2、3、5 の項目についても特に優れた内容が見られました。詳しくは報告書の内容をご覧ください。

続いて、調査研究報告書 A-2 の 3 の項目についてです。3 年生の教科書 60 ページならびに 108 ページをご覧ください。主として人との関わりに関する事項において、「できない」を抱える人がロボットに託した思いや、「電車の中で」という現代社会の振る舞い方についての話題に触れることで、自分も相手も大切に、将来も含めた自分の在り方を考えられるよう工夫されています。

続きまして、学研教育みらいです。調査研究報告書 A-1 の 2 の項目についてお伝えします。3 年生の教科書 61 ページをご覧ください。「深めよう」では主体的に課題を見つけ、「考えよう」「やってみよう」「話し合おう」「自分の生き方につなげよう」という一連の流れ

れが示され、体験的な学習の充実が図られるよう工夫されています。

続いて、調査研究報告書 A-2 の 1 の項目についてです。石川県、金沢市に関する事項において、2 年生の教科書 32 ページ、ならびに 1 年生の教科書 68 ページをご覧ください。2 年生の 32 ページでは「父との約束」の題材で松井秀喜選手の人柄に触れる教材を扱ったり、1 年生の 68 ページでは災害に強いまちづくりの題材を取り上げたりして、郷土と関連させて考えられるよう配慮されています。

続きまして、あかつき教育図書です。調査研究報告書 A-1 の 5 の項目についてお伝えします。1 年生の教科書 184 ページをご覧ください。どの学年においても巻末のページには、ほぼ全ての教材で他教科との関連や共生、情報、防災、国際等、現代的な SDGs などの課題との関わりが明記され、学びが日常生活や各教科の多様な学びにつながるよう配慮されています。

続いて、調査研究報告書 A-2 の 5 の項目についてです。主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関する事項において、3 年生の教科書 20 ページならびに 90 ページ、そして 164 ページをご覧ください。多様な視点からの生命や自然に関する話題が多く取り扱われ、特に出産時における命の奇跡や臓器提供に関する生命倫理など、より自分のこととして理解や学びが深まるよう工夫されています。

では最後に、日本教科書です。調査研究報告書 A-1 の 7 の項目についてお伝えします。1 年生の教科書 7 ページをご覧ください。内容項目でまとめた始まりに必ずこのような 4 コマ漫画があり、内容項目が確認できるようになっています。また、表題が各学年に応じた目標になっていることで、発達段階に応じた学びの意識が高まるよう工夫されています。

次に、調査研究報告書 A-2 の 1 の項目についてです。石川県、金沢市に関する事項において、3 年生の教科書 28 ページならびに 162 ページをご覧ください。28 ページには、道徳いしかわの「栄冠は君に輝く」が取り上げられ、162 ページの巻末の「わたしたちの郷土」では千枚田や白山が紹介されるなど、郷土を身近に感じて考えられるよう配慮されています。

以上で「特別の教科 道徳」の報告を終わらせていただきます。ありがとうございました。

(選定委員長) ありがとうございます。それでは、委員の皆さまからご質問をお願いいたします。

(選定委員) 3 点伺いたいと思います。全者、3 学年に目を通したつもりなのですが、それでも、「特別の教科 道徳」になる前からずっと取り扱っている題材が若干見られ、「足袋の季節」だったり「夜のくだもの屋」というのがあったので、より現代の課題に合わせて題材を変えていかないといけないのではないかなという話題が出たかどうかを教えてください。

2 点目は、調査項目のどれとはちょっと言えないのですが、ジレンマ教材というのが各者に入っていたように思うので、ジレンマ教材の扱い方、あるいはその適性について話が合ったか教えてください。

最後ですけれども、道徳の授業においては、発達段階に応じて答えが一つではないよう

な課題について、生徒が自分自身のことと捉えて考える、それから議論するということが大切だというのは分かっているのですが、題材によってはそれこそ範読するだけ、あるいは生徒が自分で読むだけでも、とても心に染みるというか、考えさせる効果のある題材もあるように思います。そのようなものがどの者にあったかという話題は出たのか。この3点について教えてください。お願いします。

(選定委員長) 調査委員長、お願いします。

(道徳調査委員長) では、一つ目のご質問です。現代となると、やはりスマホの話になってくると思います。スマホ絡みでいじめに発展するような題材が各者に増えてきているなどというふうには思いました。突出しているのは、先ほども説明させていただきましたが、とにかく三つのユニット、いじめのユニットが三つ、情報のユニットが二つと、1学期、2学期、3学期を問わず年中必ず出てくる、それは1年でも3年でも、それぞれの学年で出てくるという話題になったのが日本文教出版でした。情報モラルに関することは出てくるのですが、若干少なかったりするという話題も同時に出ました。多く出てきているのは、先ほど申し上げた日本文教出版だったと思います。

二つ目のジレンマ教材の扱い方については、この話題も、この話題もといろいろ出てきたのですが、一番多く出てきたのは、臓器提供だったと思います。リアルにきょうだい、家族、親子に突然のことが起こり、カードを持っているのだけれども、さあどうしたものかということそれぞれの立場で家族一人一人が思い悩む。答えが一つとは限らないというところが多くあるねということは話題として上りました。

三つ目のご質問の発達段階に応じてというのも、答えが一つではないというお話だったと思うのですが、読むだけでも心に染みる話題は本当にたくさんありました。自然に関することであるとか、それこそ先ほど申し上げた中でいうと、あかつき教育図書の二次元コードには、出産シーンの動画が数分間で表示されていたりするので、話題をみんなで読んだ後にその動画を見るとまた効果的かなと。本当に命は尊いものという単純なことなのかもしれないのですが、読むだけでも心に染みる話題は数多くあるなどという話題が出ました。

(選定委員) ありがとうございました。

(選定委員長) 他にご質問はいかがでしょうか。

(選定委員) 同じくいじめについて、とても興味をもって資料等も見せていただきました。量的には日本文教出版がとても多かったということなのですが、質的な部分で子供たちが自分事としてきちんと捉えられる内容である、そこも兼ね備えているのかどうかというところの確認が1点と、「考え、議論する道徳」といわれていますが、そういったところでの工夫が多い発行者はどこだったのかということ、そうしたことについての議論がどの程度されたのかということについて教えていただければと思います。

(道徳調査委員長) いじめのことに関して、先ほど私は日本文教出版のお話だけしまし

たが、光村図書とあかつき教育図書でもいじめが取り上げられているという話題になりました。いろいろな意見が出てくる教材というのは、自分に一番近い表現をしてきている子が自分のグループの中にいたり、分かってくれる子がこの教室にはいるのだという安心感につながったり、本当に多種多様な意見が出やすい、そしてそれを記憶に留めるという意味で、この教科書の中に書くスペースがあるかどうかという話題にもなりました。

あとは、自分の意見を否定されずにしゃべってもいいのだという。本当に4月の最初にグループワークを始める前の話し合いの段階で、この1年間こんなふうに話し合いを進めていけばいいのだよという、これはいじめ以外に関することにもつながってくるのだと思うのですけれども、道徳の時間は自分が考えたことをきちんと聞いてもらえる、最後まで話の腰を折らずに聞いてもらえるということが最初に明記されている発行者はどこかということも話題になりました。

話し合いの手引きからお話しします。どの者においても大体流れが書いてあります。1. 気付き・出会い、2. 考える、3. 話し合い・深める、4. 広げる・つなげるで、それを分かりやすく順を追って示していたのは1年生でいうと、東京書籍の4、5ページ、2者目が教育出版の4、5ページ、日本文教出版の7ページ、学研教育みらいの9ページになります。先ほども申し上げたように、どの者も流れや机を合わせた図など、話し合いをするということは載っています。4者を取り上げてご紹介したいと思います。先ほど申し上げました、「具体的に相手の話を最後まで聞こう、詳しく知りたいことは質問しよう」と明記してあるのは、教育出版の5ページです。「自分はこう思うと素直に言うことが大切で、一生懸命一人一人が考えたことに間違いはないよ、友達の考えは否定せずにしっかり受け止めよう」と明記してあるのは日本文教出版でした。

(選定委員長) 他にご質問はございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

では、私の方から。日本文教出版は道徳のノートがありますね。これはノートといっても、全部同じ形式のものなのですけれども、これは使うのですか。別に普通のノートに項目を書いてもいいのかなと思うのですが、その辺のことは何か話題になりましたか。

(道徳調査委員長) 以前は上の枠にも問いが最初から書いてあり、真ん中の枠にも問いが最初から書いてあるものだったと思うのですが、逆に問いがあると使いづらいということや、題材を読む前に今日は何をするということが子供たちは分かるので、休み時間から開いていると、今日はこのことについて話し合うのだな、先生はこれを聞いてくるのだなということがあらかじめ分かっちゃって、出会いの部分がとても薄くなり、話題が深まらない、もうゴールが見えてしまっているということになったりします。道徳は言葉のニュアンスで多少差異が出てきてしまうものだと思うので、ここには本当にそのときそのときの学校行事なり、中学校の部活動なり、テスト前であったり、いろいろな中で、今回はこのような文言を子供たちに書いてもらおうという自由さがあって、自分はこちらの方がいいかなというふうに思っています。

使うかどうかのご質問なのですが、道徳にどれぐらい長い期間携わってきたかによって違うと思います。つまり教員になりたての若い先生はある程度この型があった方が分かりやすい、子供たちも流れが分かるし取り組みやすい、そして1学期の振り返り、1年間の

振り返りでこれを活用しやすいというのがあるとは思いますが、ただ、これがあることによって使いづらいという先生も、特に長年道徳に携わってきた中堅・ベテランの先生方はいらっしゃるかもしれないのですが、このときはこれを使った方がいいと判断されたらこれを使い、別のものがないとなったときには、もしかしたらワークシートは別立てで用意されることもあるかと思えます。そのときは、このページに上から貼ることもできるので、結局は書いたものが記録として残るといったものが1冊出来上がることになるかなと思えます。

(選定委員長) ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

(選定委員) ご質問なのですが、道徳は非常に先生の思いが乗りやすい一方で、子供たちには、特に中学校1年生には、文字だけ、言葉だけではなかなか伝わりにくいと思うのですが、保護者の目線で申しますと、中学校1年生の3学期あたりから2年生の1学期あたりにかけて、非常に情報モラルに欠ける問題等が起きやすいと思えます。例えば、本来は中学校にスマートフォンを持ち込んではいけないのに授業中にインスタにアップされてきたり、勝手にストーリーズの動画が流れてくるというのが大体今の時期に起きやすいというか、そういう傾向があると思うのです。

その中で、特に教科書を比べたときに、1年生の中で情報モラルを分かりやすく扱っているところは、大体見ていると東京書籍と教育出版とあかつき教育図書と日本文教出版だったのですが、本来家庭で教えることなのですが、学校の中で子供たちの発達段階、成長段階において何かを習得するとか、伝えたいことも対比されたのかということも教えてください。

(道徳調査委員長) 特に1年生でということで、話題にはしていなかったのですが、情報モラルに関して本当にどこの発行者も、挿絵の中で実際の画面にこのように書かれてというものを取り上げながら、一晩たったときにこんなことが盛り込まれて朝困ったとか、昨日もしかしたらクラスの中の誰かがそのような場面に出くわしていたのではないかとというリアルな話題が各者で本当に多く取り上げられておりました。併せて、こういうことがあるから気を付けようという感じで、コラムの横にというか、続けて取り上げているのが日本文教出版の「視野を広げて」というページで、ではどうしていけばよかったのかということが詳しく載っているという話題は出ました。以上です。

(選定委員) 最後に意見としまして、やはり中学校1年生でスマートフォンを持っている子がほとんどという状況の中で、そういったいじめの問題と情報モラルのことが不登校につながっていく中で、1年生のときの道徳教育は非常に大事だと思いますし、特に分からない1年生に対して情報モラル等々をタイムリーにちゃんと分かりやすく、ビジュアルも兼ねながら、自分事と捉える形で話題提供等をしている教科書が、親の目線からすると、採用等につながっていけばいいと思っております。以上です。

(選定委員長) ありがとうございます。次の審議事項に入りつつありますけれども、他

にご質問はございますでしょうか。

(選定副委員長) 先ほど選定委員長からもご質問があった、日本文教出版の道徳ノートのことについて質問させてください。ベテランの先生だとあまり使わない方もおられる、若手の方はどちらかというところによく使うということでしたけれども、こういうノートが教科書としてあることが、手で書くことを前提として子供たちに強いることにならないかという懸念を覚えるのですが、発行者としては二次元コードを準備して、他の選択肢を用意はしているのですけれども、書くことが苦手な子にとって教科書としてどう捉えるかということについて、調査委員会で話題になったかどうか、お願いします。

(道徳調査委員長) 書くことが苦手な生徒も1人に1台Chromebookを持っておりまして。先日も2年生の職場体験等で感想を書くときに、従来では紙で書いていたものをChromebookで1枚レポートとして仕上げる、それだったらできるという子供たちがおり、このような子供が本当に増えてきているなと思います。

実際、今の道徳はChromebookを使って子供たちが打ち込み、付箋のような形でグループでシェアし合うということになっております。そうすると、このノートに書き込むということはちょっと離れてしまうのかなと思うのですが、その中からピックアップしてここに書き込んだりすることができます。今の書き込む話、ノートの話でいうと、日本文教出版の話題になっているのですが、実はほんのちょっとの欄なのですが、必ず書き込む欄が設定されているのが東京書籍や日本教科書です。東京書籍のどこを開いていただいてもいいのですが、四角い小さな枠で「つぶやき」というのが必ずあります。あとは日本教科書も、同学年のどこを開いていただいてもいいのですが、全ての話題にメモ欄というところがありました。なので、先生が何一つまだ質問していないときに、自分のつぶやき、自分の思いをささっと書いたり、友達が書いていたことをちょっと見本にしようかなと思ったときに書き込む欄が、この別冊ノートを含めると3者にある。ただし、Chromebookを使っているときには、併用される方もいらっしゃるれば、Chromebookでタイピングだけで記録することもあります。おっしゃるとおり書くことが苦手な子供たちが増えているので、タイピングの方に若干移行しつつある現代かなというふうに思っています。以上です。

(選定委員長) ありがとうございます。そうしましたら、他にご質問は、はい、どうぞ。

(選定委員) 自分の興味があるところについて、あかつき教育図書は「目の見えない白鳥さんとアートを見にいく」というのが70ページにあります。これは、視覚障害のある方が美術館に鑑賞に行って、対応してくださる人が白鳥さんによって鑑賞を深めていくことができるという教材です。障害がある方をお世話するというよりは、その方によってより深く鑑賞できるという双方向的というか、そういう話なのですけれども、そういうものを取り上げてくださっているのは非常にいいなと思いました。障害のある方が頑張って素晴らしいねというのではなくて、障害がある方は私たちと対等だとか、それ以上に私たちにいろいろなことを教えてくれる立場でもあるという、共に生きる社会の例として取り上げられているのですけれども、他の教科書にもそういう立ち位置で何か取り上げられてい

るところがあるのかもしれないと思いながら、それを読み込めていませんので、もしそういう例がありましたら教えていただければというご質問です。

(道徳調査委員長) どの者だったか、男性で病気によって顔がすごく腫れてしまっている方が自分の顔写真を載せてという話題があったと思います。小学校にその方が出向いていて、実体験を小学生にいろいろお話しされて、最後には小学生がその方のかかなり腫れ上がった顔を触りにいくという写真が出ていたりします。あとは、点字ブロックだったり、本当に障害がある方だからこそその気付きとか、思いとか、そういうものに触れる題材がありました。

先ほどの目の見えない白鳥さんのアートなのですが、目が見えているからこそ瞬時に分かかってしまって、瞬時に分かかってしまうからこそ分かったつもりになっているということにはっと気付かされるというのは、各者に多くありました。先ほど私が申し上げた、顔が腫れている方の話の発行者をすぐに言えないのはもどかしいのですが、そんな題材が増えているなというふうに思いました。

(選定委員長) 他にご質問はありますか。では、ないようでしたら、続いて事務局より、各学校の研究委員会報告、および教科書展示会における市民や保護者の意見を報告していただきます。課長、お願いします。

(学校指導課長) それでは、資料Bの16ページをご覧ください。「各学校における教科用図書研究委員会_調査研究報告書」です。東京書籍につきましては項目1、項目2で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられ、意見の総数につきましては光村図書、あかつき教育図書と同様に最も多くなっております。続きまして、教育出版です。項目1で多くの意見が挙げられております。続きまして、光村図書です。項目1で多くの意見が挙げられており、先ほど全発行者の中で話をしましたが、全発行者の中で最も多くの意見が挙げられている発行者の一つになります。続きまして、日本文教出版です。項目3で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられております。続きまして、学研教育みらいです。項目4で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられております。続きまして、あかつき教育図書です。項目5で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられており、意見の総数につきましても、先ほどの東京書籍、光村図書と同様に最も多くなっております。続きまして、日本教科書です。項目5で多くの意見が挙げられております。

続きまして、資料Cの方にいきます。資料Cの8ページです。常設展示です。右側の方に記載させていただいております。常設展示では、道徳の教科書全般に対するご意見や日本文教出版に対するご意見等が寄せられております。続きまして12ページ、移動展示へのご意見になりますが、右側をご覧ください。こちらの方も、発行者全般に対するご意見や光村図書に対するご意見が寄せられております。以上で報告を終わります。

(選定委員長) ありがとうございます。それでは、審議に移りたいと思います。答申のための報告書に追加、修正、削除したらよいというご意見とともに、ご感想を含めてお願いいたします。いかがでしょうか。特に修正等のご意見がなければ、感想やこういう教科

書がいいのではないかということも含めてぜひご意見を出していただければと思います、いかがでしょうか。

(選定委員) 7者それぞれの良さといいますか、特徴があるなと思いました。内容の豊富さでいいますと、東京書籍、それから日本文教出版が豊富なのかなと思います。光村図書の方には、他者にはちょっとないかなと思うのですけれども、小学校のときに学んだ教材が各学年に載っていて、それは3年生になっても載っているのですが、昔一度じっくり考えたものを、年齢が上がってもう一度考える場面があるというのもいいことではないかと思いました。感想です。以上です。

(選定委員長) ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

(選定委員) 同じく感想になります。今ほどの委員が言われたように、本当に小学校の教材が載っているのかと思って、3学年見せていただいたのですが、「橋の上のおおかみ」「泣いた赤おに」「手品師」と本当に小学校でよく扱われる教材で、みんなが好きで心に残っているようなお話なのではないかなと思います。各教科でもスパイラルに学ぶということがありますけれども、以前学習したことが年齢を経て大きくなって読んだときにもう一度心に染みる。あのときはこんなふうに考えたけれども、こんな見方もあるなというふうに自分の成長を実感できる場にもなるのではないかなと思って、とても工夫のある教科書ではないかと感じました。以上です。

(選定委員長) ありがとうございます。他にいかがでしょうか。ご感想でも結構です。ご意見を含めまして。

(選定委員) 今のお話の流れでいけば、例えば光村図書の項目3の主体的に学習に取り組み自らを振り返って成長を実感するという、物事に対する自分の捉え方が変わっていくということがもしあるのであれば、取り上げていただいてもいいのかなと思いました。今のご意見を聞いてですけれども。

ご意見の中で、まず自分のことを大切にしてくださいということが書かれているのはいいというのがあったと思うのですけれども、私もまず自分を大事にすることができるのがすごく大事なのかなと。親や周りに気を使ってしまっ、自分自身が苦しい状況であるということに気が付けないと本当に困ることだし、それがひいては他の人の人権を守ることにつながるとすれば、どこかに反映されるといいなと思いました。以上です。

(選定委員長) 今のご意見ですと、例えばA-1の項目3をもう少し優れていることが伝わる表現にしたら。例えば小学校の題材を取り上げ、考えを深めるというような文言を入れたらいいかなというご意見かなと思うのですけれども、そういうご感想も頂いておりますので、よろしいでしょうか。そういうことで、優れていることが伝わる表現に修正させていただこうと思います。ありがとうございます。

(選定委員) 道徳は教科ではありますが、いわゆる担任の先生を中心に、場合によっては学校全体、学年全体で教材をシェアしながらできる教科の一つで、働き方改革目線からいっても、発行者のバックアップがきっちりあった上で、いわゆるシェア教材を、短時間で作れてシェアできる、そういう会社であったら先生方の負担もぐっと減って、逆に言えば授業に集中できるのかなと思います。ここの教科書本体だけでは見えない部分ですが、そういうところもぜひ考慮に入れて採択していただけるとよろしいかと思います。意見です。

(選定委員長) ありがとうございます。他にいかがでしょうか。ご意見、ご感想がありましたら、よろしいでしょうか。そうしましたら、確認させていただきます。調査委員会の報告書に対して、ただ今審議された内容について先ほど修正意見がございましたので、修正を加えさせていただきます、市民からは発行者全般についてのご意見、日本文教出版、光村図書などへのご意見が出ておりましたので、それに傾聴しまして、道徳における教科書採択の答申を作成してもよろしいでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) ありがとうございます。また他者と比べて特に評価が高かった発行者について、選定委員会として、7者ございますけれども、報告書の内容、各学校における調査研究の意見数、そして先ほどご意見等を頂きましたので、評価の高いものとしては、掲載順になりますけれども東京書籍、光村図書、日本文教出版の三つで、ということだと思うのですけれども、よろしいでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) それでは、7者のうち東京書籍、光村図書、日本文教出版を評価の高かった発行者として報告させていただきます。ありがとうございます。以上で道徳の審議を終わりたいと思います。調査委員長、ありがとうございます。退室していただいて結構でございます。

それでは、委員の皆さま、ご協力ありがとうございました。これで本日予定しました4種目の審議が終わりました。本日審議された結果は、本選定委員会の答申書として教育委員会へ提出していきたいと思っております。7月29日(月)になります。美術、保健体育、公民、歴史の4種目についてご審議いただく予定です。次回もどうぞよろしくお願いいたします。では、司会を事務局の方にお返しいたします。

3. 事務連絡

(事務局) 委員の皆さま、長時間にわたり答申について審議していただきまして、ありがとうございます。ただ今、委員長からお話がありましたように、第5回選定委員会は、7月29日(月)の13時から、本日と同じこの会場にて、4種目について審議していただき

たいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

以上をもちまして、第4回金沢市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会を終了いたします。お疲れさまでした。

令和6年度 第5回金沢市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会

日時：令和6年7月29日（月）13:00～17:00

場所：金沢市教育プラザ富樫 121・122 研修室

（事務局） 委員の皆さま、本日もお集まりいただきましてありがとうございます。ただ今より、第5回金沢市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会を開催いたします。

それでは、この後の議事進行を選定委員長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

（選定委員長） それでは皆さん、こんにちは。今日もよろしくお願いいたします。本日は美術から順に4種目について審議する予定でございます。まずは美術についてです。ご準備ができましたら、ご報告のほどお願いします。

⑬美術

（美術調査委員長） ただ今より、美術の教科書調査結果について報告いたします。美術については、3者の発行者について調査しました。

まず、開隆堂についてです。調査研究報告書A-1の2の項目について、ここでは多様な参考作品を示し、思考力・表現力が育まれるような工夫がされています。例えば1年生の教科書10、11ページをご覧ください。ここでは説明文や写真を使って、発想や構想の進め方、流れなどが示されております。各題材ごとにこのようなページがありまして、これらを参考に生徒自身が意欲的に構想を練ることができるような配慮がされていると思われまます。もう一つ、2・3年生の教科書12ページをご覧ください。このように各題材ごとに、発想・構想の面で実際にどのように構想が進んでいくかという流れを文や写真をもって説明されているところが工夫されていると思います。その他、4、5、7の項目に特に優れた内容が見られました。詳しくは報告書の内容をご覧ください。

では次に、調査研究報告書A-2の4の項目についてご説明いたします。より深く作品を鑑賞できるような工夫がされておりました。例えば2・3年生の教科書26ページから31ページをご覧ください。こちらのページでは、印象派の写真の拡大が多数載っておりまして、印象派の時代の作品において作家によって表現技法が違うことなど細部が分かるようになっております。それにより、さまざまな視点から鑑賞できるように工夫されております。また、27ページの上の方をご覧ください。そちらは印象派とそれ以前の絵画との主題の違いなどが理解できるような分かりやすい資料も掲載されております。人物画において、印象派以前ではこのような宗教絵画が中心に描かれ、それに対して印象派は日常的な風景が描かれているということが分かるような配慮もされております。その他、7の項目にも特に優れた内容が見られました。詳しくは報告書の内容をご覧ください。

続きまして光村図書に移ります。調査研究報告書A-1の3の項目についてお話しいたします。1年生の教科書26ページをご覧ください。各題材ごとに「みんなの工夫」と題しまして、生徒の制作の軌跡、様子が詳細に紹介されております。そうすることで作者の制作意図が理解しやすく、生徒の興味・関心を引き出すような工夫がされていると思います。

また参考資料としまして、作者のインタビュー動画も二次元コードで見ることができます。それを見ると、同世代の生徒の実際の言葉や制作の資料、そういったものから親近感をもって自発的に制作に取り組めるような配慮がされています。その他、1、2、4、5、7、8の項目にも特に優れた内容が見られました。詳しくは報告書の内容をご覧ください。

次に、調査研究報告書 A-2 の 3 の項目についてご説明いたします。こちらでは技能を習得するための詳細な資料を見やすく別冊にまとめております。別冊美術 1 の資料をご覧ください。こちらでは、美術の基礎的な知識や表現方法・技法について写真資料が充実しております。さまざまな分野の技法が別冊という形で 1 冊にまとめられ、生徒がいつでもそれらを見て制作の一助となるように、知識や技能が習得できるような工夫がされております。また 2・3 年生の教科書の巻末、94、95 ページをご覧ください。こちらにも「学習を支える資料一覧」というふうに紹介されておりまして、学年によって教科書が違いますが、教科書が変わってもこのページで以前学んだことなどが閲覧できるような配慮もされております。その他、2、4、7 の項目にも特に優れた内容が見られました。詳しくは報告書の内容をご覧ください。

最後に、日本文教出版です。調査研究報告書 A-1 の 7 の項目についてお話しいたします。扉絵や写真などの大きさや扱い方が適切で、生徒にとって作品鑑賞がしやすいように配慮されております。例えば 1 年生の教科書 24 ページから 29 ページをご覧ください。このページは見開きになって、折り込みになっております。折り込みのページを生かしまして、これは六曲一双の屏風絵なのですが、実際に折り畳むことができるようになっております。実際に教科書を折ることで、この屏風がどんなふうに鑑賞できるのかということを感じることが出来ます。鑑賞の場面で屏風絵に対して理解がより深まっていくような工夫がされていると思います。その他、6 の項目にも特に優れた内容が見られました。詳しくは報告書の内容をご覧ください。

次に、調査研究報告書 A-2 の 2 の項目についてお話しいたします。こちらでは公共施設のデザインを例に挙げて、目的や機能を考えて具体的なイメージを構築しやすいような工夫がされております。2・3 年生上の教科書 46、47 ページをご覧ください。こちらでは、デザインがもたらす効果に着目しながら、使いやすさだけでなくユニバーサルデザインの視点で発想ができるように資料を提示しております。また、「表現のヒント」、それから「造形的な視点」というキーワードを示しまして、使う人の立場に立って構想できるような配慮をしております。その他、3 の項目にも優れた内容が見られました。詳しくは報告書の内容をご覧ください。以上でございます。

(選定委員長) ありがとうございます。では委員の皆さまから、ご質問等ございましたらお願いいたします。

(選定委員) どの教科書もさまざまな工夫があり、それぞれの良さがありました。私は三つの視点に絞って質問させていただきます。それは教員からの視点、生徒からの視点、生涯学習からの視点です。では、3 点お伺いします。

1 点目、この教科書を使って教員が教えるという視点から伺います。現在、金沢市の中学校では、美術科の教員はほぼ全ての学校が 1 人で全学年を教えています。最近若い教員

が増えている中、1人教科のため同僚に相談することもできず、苦勞しているという話を聞きます。そこで、教員の教えやすさ、使いやすさについて、A-1の1の項目、基礎的・基本的な知識や技能の習得の項目では、光村図書の別冊資料が優れていると報告されています。先ほどもA-2の3の項目について別冊資料の説明がありましたが、他の教科書についても教えやすさ、使いやすさについてもう少し詳しく教えてください。

2点目、この教科書で学ぶという生徒の視点から、A-1の3の項目、生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習の項目について、先ほど、光村図書の「みんなの工夫」についてや、作者のインタビュー動画について触れられていましたが、その他の点でももう少し詳しく教えてください。

3点目、最後に生涯学習としての視点からお伺いします。高校に進むと芸術科目は選択制となり、美術を選択しない生徒にとっては中学校で学んだ美術の知識・技能が生涯学習の基盤となります。また、グローバル化の進展に伴う社会の変化により、わが国の美術文化だけでなく世界の美術文化を学ぶ必要性がますます出てきたと感じています。生徒が大人になってからも美術に関心をもち、日本はもちろん諸外国の多様な美術文化に触れながら、美しいものを美しいと感じ、心豊かに人生を送れるために、どの教科書で学ぶことがより有益なのか、そういった視点からの話し合いがあったでしょうか。A-2の4や5の鑑賞の項目などに絡めてでも結構ですので、教えてください。以上です。

(選定委員長) 委員長、お願いいたします。

(美術調査委員長) では、ご質問のあったまず一つ目、教えやすさについてです。まず開隆堂の方は、美術1の巻末に68ページから技法についてのページが続いております。他の発行者にも配色や技能のページは一応出ております。日本文教出版は、美術1の62ページから巻末に向けてさまざまな分野の技法等が紹介されております。二次元コードはどの会社も付いているのですが、使いやすさという面で考えますと、やはり1冊にまとまっていた方が資料として使いやすいというのがあります。若い先生方も、1冊にまとまっているとこれだけでも使うことができますし、毎回「2・3年生の教科書を出しましょう」とか「1年の教科書のここを見ましょう」と言わなくても済むということがありますので、光村図書が使いやすいのではないかなと思います。

それから二つ目のご質問についてです。まず、開隆堂についてです。1年生の教科書42、43ページをご覧ください。こちらの43ページの方にもメモ書きのようなものがありまして、作品を作り上げていくときにどんなふうにしていくのかイメージするものが分かりやすく説明されています。あとはその下のところにも「作者のことば」というコーナーがあり、インタビューという形で読めるかと思えます。ただ、光村図書は作者のインタビュー動画としてまとめていたり、教科書に載せてもあります。光村図書の美術1の26ページをご覧ください。先ほども「みんなの工夫」というところを紹介させていただいたのですが、こちらは開隆堂に比べますと、流れが分かりやすいです。こちらも「作者の言葉」というのがあり、インタビュー動画を載せています。また、日本文教出版の美術1の教科書16、17ページにも「作者の言葉」というのがありまして、そこでも作者の意図が分かるようになっております。

では、三つ目のご質問です。大人になってから心豊かにというところで、美術の働きというところでしょうか。まず、開隆堂の1年生の教科書52、53ページをご覧ください。こちらは伝統工芸というか、工芸品の鑑賞のページになります。ここではSDGsについても触れておりますが、自分たちが生活している中でどんな美術作品があるかということで、拡大写真を載せており、どのようなものを作者が作っているのかとか、素材は何であるとか、時代をつなげていけるような金継ぎの話であったりと、伝統についても触れているページもあります。

次に光村図書です。光村図書は、日本の伝統工芸が2・3年生の教科書101～103ページに載っております。伝統工芸の一覧になります。自分たちが身の回りで使っているもの、これから伝えていかなければいけないものなどについて紹介されているページもあります。さらに、次に「美術の力」というページがあります。ここでは、自分の美術にはどんな力があるのかということが紹介されており、こういったところを見ながら、常に生活とともにある美術ということが考えられるようになっていきます。

では最後に、日本文教出版です。日本文教出版は1年生の教科書36、37ページをご覧ください。ここでは「人の暮らしを豊かに」ということで、普段生活している上で使っているものの紹介や、車椅子など使う目的によってこんなものがあるという紹介があります。美術が生活に欠かせないものであるとか、そういった目的などによってもどんどん変わっていくし、大切なものなのだと伝えるページです。

どの教科書がいいかとなると、調査委員会の中では光村図書がいいのではないかということは話の中では出てきました。これでよろしいでしょうか。

(選定委員) 丁寧に説明していただき、ありがとうございました。とても理解が深まりました。

(選定委員長) ありがとうございます。では他、委員の方からご質問がありましたらお願いいたします。いかがでしょうか。

では、私の方から。例えば美術の作品を子供たちが作ったときに、他の教科でも言えるのですが、評価するというのは結構難しいと思うのです。本人はこういう意図で作って、いいと思っているけれども、先生はどうかなど思っていたり、あるいは他のまた違う人から見ると、いい作品ではないかなと思っていたりするようなことがあると思うのです。教科書ですから評価のところまでは十分に書かれていないのかもしれませんが、そういった評価をしやすいというか、そういう視点に立っていたときにどの教科書が扱いやすいかというのは、何かございますでしょうか。

(美術調査委員長) 評価については、実は話し合いの中には出てきませんでした。それぞれの教科書の各題材のところに学習の目標があります。開隆堂は「学習の目標」ということで、この場合だったら3観点に分けられておりますが、評価の仕方については教科書では実は分かりません。光村図書でも同じように目標が定められております。日本文教出版でも、こんなふうに学びの目標が必ず設定はされています。どの教科書についても、ちょっと甲乙つけ難いというところは、私の判断ですけれどもあります。以上です。

(選定委員長) ありがとうございます。他委員の皆さま、ご質問いかがでしょうか。

(選定委員) 美術を生徒が身近なものに感じられるような設定がされている教科書は特にございますでしょうか。美術というどうしても自分が作品を作ったりするのが主なのですが、さっきの生涯学習もありましたけれども、やはり鑑賞するとか、身近なものに感じるような設定にされているような教科書がもしもあつたら教えていただければと思います。

(美術調査委員長) 興味・関心を引き出すという面でいいですと、開隆堂は2・3年の教科書でピクトグラムを紹介しているページがあります。64、65ページをご覧ください。ピクトグラムは割と身の回りによくありまして、こういったものから少し校内においてマークを考えてみようとか、こういった身近にあるものからアプローチするというのは、分かりやすく図解されていて、面白い視点であり、シンプルなのですが面白いデザインという面では、いいのかなと思います。

光村図書は1年生なのですが、60ページをご覧ください。「生活の中の焼き物」ということで、実際に使うことも考えて、器に盛るということも併せて、実際に作り出したり、それを鑑賞したりするというページで、これも身近にある器から興味・関心を引き出しています。

日本文教出版は1年生の48、49ページをご覧ください。手で触ってということで、木の肌触りであったり、自然の木の木目であったり、ほっこりするような作品を紹介しております。

どれが優れていたかといいますと、どれも甲乙はつけ難いかなと思います。

(選定委員) ありがとうございます。

(選定委員長) ありがとうございます。他、いかがでしょうか。では、ないようでしたら、続いて事務局より各学校の研究委員会の報告、および教科書展示会における市民や保護者の意見を報告してください。課長、お願いします。

(学校指導課長) それでは資料Bの11ページをご覧ください。各学校における教科用図書研究委員会の調査研究報告書です。

まずは開隆堂についてです。開隆堂につきましては、項目の5で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられております。全体の意見の総数については、光村図書に次いで2番目に多くなっております。続きまして、光村図書です。光村図書につきましては項目1、項目2、項目3、項目4で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられております。また全体の意見の総数についても最も多くなっております。続きまして、日本文教出版です。項目4で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられております。

続きまして資料C、7ページをご覧ください。7ページの右側の下段から8ページの左側の上段にかけて意見が寄せられております。常設展示におきましては開隆堂、光村図書、

日本文教出版にそれぞれ意見が寄せられております。同じく資料 C の 12 ページ、左側の中段です。ここでは移動展示です。移動展示に関しましては、光村図書に対する意見が寄せられております。また日本文教出版の写真、図、図版についての意見等も寄せられております。以上で報告を終わります。

(選定委員長) ありがとうございます。それでは、答申のための報告書に追加や修正、削除したらよいか、意見を出していただければと思います。感想も出していただければと思いますが、修正や意見がなければ、感想も含めて、ご意見も含めてぜひお願いします。では、お願いします。

(選定委員) 開隆堂の表紙の、手で触って感じるというのは非常に魅力的だなと思いますし、特に 2・3 年生の方は絵の具の筆遣いがすごく感じられていいなと思います。光村図書は中の紙、2・3 年生の版面のところが紙質が違うところですね。あまりいろいろ言い過ぎるとどんどん教科書が重くなっていくので、そんなに言わない方がいいのかもしれないけれども、いろいろ工夫されていますし、資料が別冊というのは生涯学習的にも結構いいのではないかと思います。もし自分で何か作品を作ろうと思ったときに、どういう方向で作ろうかと考えたときに、まとまっているのは非常にいいのではないかなと思いました。以上です。

(選定委員長) ありがとうございます。他、いかがでしょうか。お願いします。

(選定委員) どの教科書会社も 2・3 年生の最後の巻末ページにとってもいい言葉が書かれていて、先ほどの生涯学習にもつながるような内容ですので、ぜひ授業でも最後まで取り扱っていただきたいなというふうに思いました。

(選定委員長) ありがとうございます。他、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。そうしましたら確認させていただきます。報告書 A の内容については特に修正のご意見がございませんでしたので、調査委員会の報告書の内容を尊重するとともに、先ほどの市民の意見から、開隆堂、光村図書、日本文教出版へそれぞれご意見がありました。それも傾聴しながら、美術における教科書採択の答申を作成してもよろしいでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) ありがとうございます。確認していただいたとして、お認めいただいたとして、ありがとうございます。そうしましたら、3 者のうち、掲載順に申しませけれども開隆堂と光村図書が優れている点が多かったということでよろしいでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) これも認めていただいたということで、開隆堂、光村図書の評価が高か

ったということで報告させていただきます。ありがとうございました。では、調査委員長、ありがとうございました。退室していただいて結構でございます。

⑭保健体育

(選定委員長) それでは、保健体育の報告に移りたいと思います。調査委員長、ご準備ができましたら調査結果の報告をお願いいたします。

(保健体育調査委員長) それではただ今より、保健体育科の教科書の調査結果について報告いたします。保健体育科につきましては、4者の発行者について調査いたしました。

まず、1者目の東京書籍について、調査研究報告書A-1の2の項目について説明します。教科書75ページをご覧ください。本時では犯罪被害の防止のために、犯罪被害が発生しやすい環境要因と人的要因等について学習しますが、「活用する」では、夜間自宅へ帰る人の絵を見て、生徒一人一人の視点から危険を回避して家に帰る方法を考え、その考えた方法を生徒同士で話し合う活動を行います。また「広げる」では、習得した知識や技能を活用し、自分の通学路や自宅周辺を点検した後、犯罪被害に遭う危険性を予測し、その危険を回避する方法を考え、地域安全マップを作成する活動を行います。東京書籍の教科書では、このように「活用する」活動や「広げる」活動を通して、生徒が思考力・判断力・表現力を育むことができるよう構成されている点が優れた特色です。なお、その他、3、7、9の項目においても特に優れた内容が見られました。

次に、調査研究報告書A-2の6の項目について説明します。179～183ページをご覧ください。この部分は「巻末スキルブック」というページになりますが、通常学習する範囲に加え、より学習が充実するよう資料が掲載されています。このページでは、応急手当である止血法や包帯法、心肺蘇生法の手順等についての資料が充実しており、さらに写真や挿絵を効果的に使うことで、どのような生徒にも視覚的に分かりやすくなっているなど優れた特色があります。なお、その他、1の項目においても特に優れた内容が見られました。詳しくは報告書の内容をご覧ください。東京書籍の説明は以上となります。

2者目の大日本図書について、調査研究報告書A-1の7の項目について説明します。教科書の92、93ページをご覧ください。本時では交通事故の発生原因や対策例等について学習しますが、交通事故の原因や自動車の特性についてグラフで示したり、対策例を挿絵で分かりやすく説明したりすることで、生徒にとって理解しやすい工夫がされています。次に100、101ページをご覧ください。ここにあります章末資料では、地震や集中豪雨などさまざまな自然災害が写真で紹介されていますが、被害の様子や災害の脅威が生徒に強く伝わる写真となっております。このように写真や図、グラフの内容が充実していることが優れた特色となっております。なお、その他、2の項目においても特に優れた内容が見られました。

次に、調査研究報告書A-2の2の項目について説明します。64～67ページをご覧ください。運動やスポーツの技術の学び方の例として、体育分野にある器械運動、陸上競技、水泳など七つの運動領域の技術の学び方が紹介されています。65ページにあります陸上競技には、短距離走、リレーや走り幅跳びなど、中学生が体育の授業で学習する種目について

の技術が一つ一つ紹介されています。学習した技術と学び方を体育の授業に生かすことができるなど優れた特色があります。なお、その他、4、5、6の項目においても特に優れた内容が見られました。詳しくは報告書の内容をご覧ください。大日本図書の説明は以上となります。

3者目の大修館書店について、調査研究報告書 A-1 の 8 の項目について説明します。教科書 42、43 ページをご覧ください。本市の健康課題の一つである性に関する指導の内容として、特集資料には性の多様性を多面的・多角的に理解できるよう、性的マイノリティの人たちが抱えている、本当のことを伝えると人から嫌われる、いじめられるなどと感じている不安や悩み、また制服デザイナーから見た性の多様性等について紹介しています。現在も性について固定的な考え方がある中、特集資料では性に対してさまざまな考え方があることを知ることができるとともに、性に関する正しい知識をもつことができる内容となっているところが優れております。

次に、調査研究報告書 A-2 の 6 の項目について説明します。114～119 ページをご覧ください。心肺蘇生法の流れを学習する中、「実習」のページでは心肺蘇生法や止血法、包帯法など応急手当ての方法が、写真や挿絵を効果的に活用することで視覚的に分かりやすいよう工夫されています。またコラムでは、駅伝の練習中に亡くなった小学 6 年生の事例を基に、体育活動時における事故対策テキストの ASUKA モデルを紹介し、AED の重要性について説明しています。どのような生徒にも応急手当ての方法やその重要性が理解できるよう、優れた内容となっております。詳しくは報告書の内容をご覧ください。大修館書店の説明は以上となります。

最後に、4者目の学研教育みらいについて、調査研究報告書 A-1 の 4 の項目について説明します。教科書の 137 ページをご覧ください。学研教育みらいの教科書には「ひと・もの・こと」が掲載されており、そこで著名人の生き方などが紹介されています。このページでは、柔道の創始者でありアジア初の国際オリンピック委員会委員でもあった嘉納治五郎先生が取り上げられており、柔道の目的である「精力善用」「自他共栄」の考えが紹介されております。このように人の生き方を紹介し、生徒たちが多様な生き方に触れながらより良く生きることができるよう工夫されている部分が優れていると考えました。その他、2、7の項目においても特に優れた内容が見られました。

次に、調査研究報告書 A-2 の 4 の項目について説明します。37 ページをご覧ください。本時では、調和の取れた生活を送るため、運動・食事・睡眠のバランスが大事であることを学習していきます。このページにある 1 週間の生活チェック表を活用しながら、運動、食事、休養、睡眠という項目について、生徒が自分の生活を振り返り、調和という視点を加えながら、良い点や改善点を主体的に考えられるよう配慮されていることが優れております。なお、その他、7 の項目においても特に優れた内容が見られました。詳しくは報告書の内容をご覧ください。学研教育みらいの報告は以上となります。

4者の報告は以上です。これで保健体育科の教科書の説明を終わらせていただきます。

(選定委員長) ありがとうございます。では、委員の皆さまからご質問がありましたらお願いいたします。

(選定委員) どの教科書会社の調査も非常に端的にまとめられていて、なるほどという思いで教科書ならびに調査報告書を読ませていただきました。東京書籍と学研教育みらいの教科書が優れているというのはすごくよく分かったのですが、大日本図書について、A-2からはとても優れていると感じるのですが、A-1からはそう感じられないので、どうしてだろうと単純に疑問に思いました。

もう一つは、座学に当たりますので、やはり A-1 では 1、2、3、それから 8、9 の項目が、教科書を選定する際にはとても重要だと思っています。それで、9 の項目にある金沢型学習スタイルのところ、東京書籍がとても優れていると感じたので、こここのところをもう少し詳しく教えていただければと思います。

(選定委員長) 調査委員長、お願いいたします。

(保健体育調査委員長) 大日本図書は確かに A-2 では、ここにある章立ての部分で優れているのですが、A-1 の 9 の項目ごとで見えていきますと、さほど内容が良くないというか、資料が充実していないというわれわれ調査委員の判断でした。

もう一つ、金沢型学習スタイルについてです。東京書籍の教科書の 18 ページをご覧ください。金沢型学習スタイルでは、課題をつかむ、つかんだ課題について考える、考えたものを伝え合う、広げて深める、そして分かった、できたをまとめるというものになっております。東京書籍については、学習課題が緑色のところに提示されておりまして、そこについて項目 1、2、3 と見ていくと、その課題について生徒が自ら考え、仲間と伝え合い、深めていけます。最後の「活用する」「広げる」では、そこをしっかりとまとめ、さらには「広げる」で少し発展的というか、探究的な部分にも生かせる学習の教科書となっていました。その部分が、優れていると判断させていただいた理由です。

(選定委員) ありがとうございます。

(選定委員長) 他に質問はいかがでしょうか。

(選定委員) ご質問ですが、大日本図書で、「自然災害の脅威」のところでは割とリアルな写真が出ていて、それが生徒に訴えかける力があるとおっしゃっていただいたのですが、災害があったばかりの金沢の子供たちにとってあまりリアル過ぎるのもどうなのだろうかと思う気持ちがあります。そんな弱い心ではいけないのかもしれないのですけれども、もし能登にお正月に行っていた子が目にしたらということが気になってしまったのですけれども、そういう観点からどのように考えたらいいのかと思ってご質問させていただきました。

(保健体育調査委員長) 1 月に地震があつて以来、さまざまな情報が学校に流れてきます。学校については、子供たちの状況を見ながら先生方が判断しています。例えばクラスに被災した生徒がいたら出さないということも一つだと思っています。先生はそのように子供の状況に合わせて資料を精選しておりますので、大丈夫だと思います。

(選定委員長) 他にいかがでしょうか。

(選定副委員長) 調査研究報告書の A-1 の項目 8 について質問させてください。金沢市の健康課題として、心の健康、性、体力の増進の題材について、それぞれの者で着目して報告書を記載していただいていると思います。他方で、生徒の健康課題は生徒それぞれであるかと思えます。ここでの報告書の記述が、特定の題材のみによる捉えなのか、ここに題材としては示されていないけれども総合的な捉えと考えた方がよいのか、この点について教えていただけませんか。

(保健体育調査委員長) 本市には七つの健康課題がありますが、今ご紹介させていただいている教科書については、保健の教科書なので全ての健康課題について資料が載っています。ただ、中でも先ほど紹介した大修館書店の特集資料にある性の資料であったり、東京書籍の後ろのページにある「巻末スキルブック」にある本市の健康課題である心の健康やけがの防止、病気の予防などの資料であったり、他の教科書に比べると充実した資料が掲載されているということは確認させていただきました。

(選定委員長) ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

(選定委員) 先ほどの委員のお話になるのですが、実際こうして見ると、直接中学生として実際にできること、やろうということが大日本図書では明確になっているかなと思ったのです。教科書として、授業としては東京書籍などが優れていると思うのですが、実際に子供たちが AED を使って練習するとか、これは面白いとか、救急車の呼び方は、確かにやってみたいなど。そういう実際に子供たちが体験するような授業をやるのか、または教科書はどれも大体同じ内容なのか、お教えいただけますか。

(保健体育調査委員長) AED の活用については、この機械を学校で持っているところというよりも、病院から借りて 3 台ぐらい使いながら、学習する学年ごとに実際に実習を行っております。十分実習ができない部分には、二次元コード等があります。そこに行くと動画資料等もあります。実際写真だけではなかなか流れが分からないので、そのような動画も使用しながら授業づくりをしている先生が多くいらっしゃいます。

(選定委員長) よろしいでしょうか。

(選定委員) ありがとうございます。

(選定委員長) 他にいかがでしょうか。

(選定委員) 他の教科で SDGs のことが結構取り扱われています。東京書籍と大修館書店はあるようなのですが、他のところは分からなくて、実際に授業でどう使われるかとい

うことでもあるかなと思うので、必ず載っていなければいけないということでもないのですけれども、この辺はどのように判断すればいいのかなというのがもしあれば教えてください。

(保健体育調査委員長) SDGsにつきましては、「SDGs」という名前が載っているのが東京書籍と大修館書店になります。17のターゲットにある「健康と福祉」や、「安全な水とトイレを世界に」に関するような内容については、保健で学ぶ内容となっています。これについてはどの教科書にもそのような内容の資料が載っています。ただ、SDGsという名前や、さらにSDGsについてのページがある教科書は、東京書籍です。東京書籍の「口絵」の1番のところに、「私たちの未来とSDGs」というところがあり、これは他の教科書にはない特徴だと思います。

(選定委員長) よろしいでしょうか。ではお願いします。

(選定委員) A-1の6の項目と少し関係すると思うのですが、保健体育の内容というのは、場合によっては家庭科であるとか、理科であるとか、いわゆる他教科との関連のような内容もたくさんあると見ました。それで、他学年の学びについては6の項目に書かれているとおりに思うのですけれども、他教科との関連を考慮したような教科書があれば教えてください。

(保健体育調査委員長) 教科書に関連マークというものがあります。関連マークが教科書の中に多くあるなと思ったのが東京書籍と大日本図書でした。例えば東京書籍の76ページ、「自然災害による危険」のところには、家庭科と理科との関連等が書かれています。大日本図書は98ページをご覧ください。一番下の方なのですけれども、「リンク」という部分で理科との関連性、技術・家庭との関連性を示してあります。

(選定委員長) よろしいでしょうか。

(選定委員) はい。

(選定委員長) ありがとうございます。他にいかがでしょうか。では私の方から。保健については3年間通して授業の時間は何時間ですか。

(保健体育調査委員長) 48時間です。

(選定委員長) 48時間でしたら、各学年で十数時間ということになりますけれども、学習の仕方として、学校にもよると思うのですけれども、2週間に1回ぐらい学習するのか、どこかで詰めて学習するのか、どのような学習をされているところが多いのかなど。いかがでしょうか。

(保健体育調査委員長) 2時間やって1時間というケースが多いですが、例えば夏の暑いとき、プールに入れられないようなときには保健の授業を少し増やしたり、逆に冬、外の活動、体育館での活動ができないようなときには保健の授業を増やしたり、そのようにして時期によって多いとき、逆に入れないときがあります。

(選定委員長) そのような通常の教科の学習と違ってちょっと変則的に学習するようなことであれば、それは教師がいろいろと選びながら学習すればいいかもしれませんが、そういう面で使いやすいような教科書はありますか。

(保健体育調査委員長) 東京書籍以外の3者については体育理論を上にもってきています。東京書籍だけが逆に体育理論を一番下にもってきています。内容に入れ替わった部分があるのですが、やりやすい・やりにくいについては全く影響ないと思っています。

(選定委員長) ありがとうございます。他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。そうしましたら、事務局より各学校の研究委員会報告、および教科書展示会における市民や保護者の意見を報告していただきます。課長、お願いします。

(学校指導課長) それでは、資料Bの12ページをご覧ください。「各学校における教科書図書研究委員会調査研究報告書」です。東京書籍についてです。項目2、項目5で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられており、全体の意見の総数についても最も多くなっております。続きまして、大日本図書です。項目2で多くの意見が挙げられております。続きまして、大修館書店です。項目1で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられており、全体の意見の総数については、東京書籍に次いで2番目に多くなっております。学研教育みらいについてです。項目3、項目4で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられております。資料Cにつきましては市民からの意見はございませんでした。以上で報告を終わります。

(選定委員長) ありがとうございます。それでは、審議に移りたいと思います。調査報告書に対して付け加えたらよい部分や修正・削除したらよい意見がございましたらお願いします。また、感想も含めて頂いて結構でございます。

(選定委員) 先ほど申し上げたことですが、SDGsをどう考えるかというところで、他の教科とのつながりというのですか、そういう重層的に見るという点で、東京書籍の最初のページでは、その幾つもが関わっており、社会の動きと保健体育というものの重要性が認識できるかなと思うので、A-1の5の項目「現代的な諸課題への対応や各教科などとの関連」というところで優れていることが伝わる表現に修正してもいいのではないかなと思います。

もう一つ、各教科書の下の方に「ワンポイントミニ知識」とか「情報サプリ」というところがありますが、実は東京書籍にはないように思うのです。ただ、東京書籍は最後必ずこういうことについて考えてみませんかと考えさせることや、こういうことを次に自分

でやりませんかというところがあります。そういう意味ではこれから、もしかして自分が中学生だったら「情報サプリ」とか「ミニ知識」に興味をもつかもしいないのですが、思考力・判断力・表現力を身に付けさせたいということであれば、自分でこれから考えていくというところに興味をもってもらいたいという点で、東京書籍は面白いなと感じました。

(選定委員長) 先ほどご意見いただきましたのはA-1の5の項目になりますけれども、いかがでしょうか。先ほども質問の中にありましたが、SDGs、各教科の関連も含めての考慮がされている部分がもう少し伝わるような表現に修正してもいいのではないかというご意見ですけれども、これに関してはいかがでしょうか。ご異論がもしないようでしたら加えていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。文言的には、先ほどの「SDGsや各教科の関連が考慮されている」というような内容の中に入れてさせていただく形でよろしいでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) 文章については、ここに入るような感じで少し整理させていただいて、A-1の5の項目について、SDGsへの考慮、場合によってはSDGsを意識した各教科の関連というようなことで文言を修正させていただければと思います。この辺についてはご一任いただけますでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) ありがとうございます。それではそこは修正させていただきます。他にいかがでしょうか。

(選定委員) 4者の教科書を見て、多分ほとんど見開きで1時間の授業が完結するような形にできているのかなと思いました。それで、生徒が学習の見通しをもって毎回同じパターンで学習ができるようなことでいうと、学研教育みらいが本当にどのページを開いてもきちんと大体同じ場所に課題があり、同じ場所にいわゆる発問があり、最後は「活用しよう」「広げよう」という形で終わっている。もちろん資料自体は他の発行者の方が細かく載っているのかもしれないですが。また、50分の授業、1時間で完結するということを考えると、東京書籍の分量がものすごくちょうどよく、1時間の学習を1時間で完結できるような学習を目指した内容になっているのかなという印象をもちました。

(選定委員長) ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

特にないようでしたら、確認させていただきます。そうしましたら、調査委員会の報告書に対して、ただ今審議された内容について、修正を加えさせていただきます。保健体育における教科書採択の答申を作成したいと思います。よろしいでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) ありがとうございます。では、お認めいただいたということで。次に、他者と比べて評価が高かった発行者について、調査報告書では、まず東京書籍が優れていると思います。あとは割と横並びでありましたけれども、先ほどのご意見にもありました学研教育みらいが次かなと思われまじけれども、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) では、特に評価が高かったのは、掲載順ですけれども東京書籍と学研教育みらいということで報告させていただきます。ありがとうございました。お認めいただいたこととします。

では、調査委員長、ありがとうございました。ご退席いただいて結構です。

それでは、これより10分間休憩したいと思います。40分まででよろしいですか。では、2時40分から再開したいと思います。よろしく申し上げます。

<休憩>

⑮公民

(選定委員長) それでは、公民について再開させていただきます。そうしましたら、調査委員長の方から、準備ができましたら報告をお願いいたします。

(公民調査委員長) それではただ今より、社会科(公民)の教科書の調査結果について報告いたします。公民については6者の発行者について調査いたしました。

まず、東京書籍です。調査研究報告書A-1の2の項目については、生徒が思考力・判断力・表現力を働かせ、問題解決能力を高めるよう工夫されていました。例えば、38ページをご覧ください。「個人の尊重と日本国憲法」の章の導入場面において、「ちがいのちがい」について、既習である法律構成の見方・考え方を働かせて考えさせるようにしています。そして、この単元のまとめである71ページでは、導入時に考察した「ちがいのちがい」について日本国憲法にはどのように定められているかを示しながら、根拠をもって説明できるようにしています。その他、1、5、9の項目においても優れた特色が見られました。

次に、調査研究報告書A-2の3の項目について、将来の主権者として主体的に政治参加する態度が養われるよう工夫されていました。例えば、78ページをご覧ください。ここでは、誰を市長に選ぶのか、A～Cの候補者の公約や複数の資料を基に自己決定する活動があります。また108～109ページをご覧ください。ここでは、もし将来裁判員に選ばれたら、被告人が有罪か無罪か、有罪ならどのような刑罰にすべきかについて議論し決定する活動があります。このように、主権者として政治に関わるための知識や態度を多様な活動を通じて身に付けられる工夫がありました。その他、2の項目についても優れた特色が見られました。

続けて、教育出版に移ります。調査研究報告書A-1の3の項目について、生徒が主体的

に学習を進めることができるよう工夫されていました。例えば、40 ページをご覧ください。ここは「個人を尊重する日本国憲法」の章ですが、「日本国憲法の最も大切な考え方とはなんだろう」と題し、小学校での既習を活用する活動が取り入れられています。また、その隣の41 ページにあります、生徒の生活体験から出発する「ウォーミングアップ！公民」に取り組みながら、問題意識を醸成しつつ、単元を貫く課題を捉え、共有しています。漫画やイラストを多用した親しみやすい資料の読み解きや活動が、生徒の興味・関心を喚起する一助となっています。その他、9の項目についても優れた特色が見られました。

次に、調査研究報告書 A-2 の3の項目については、公民的資質の基礎を確実に身に付けられるよう工夫されていました。例えば、112、113 ページをご覧ください。ここでは裁判員裁判について、事件の内容を確認し、弁護士と検察官のどちらの主張が妥当なのか、証拠から認められる事実に基づいて自分で評価する活動があります。また、97 ページをご覧ください。ここではクリティカルシンキング、いわゆる批判的思考を取り上げ、現代社会のフェイクニュースだけではなく、根拠や信ぴょう性に欠ける情報など、矛盾点や不確実性について考えることで、事実や事象の本質を捉えられるよう、公民的資質の基礎を確実に身に付けられるような特色がありました。

続いて、帝国書院に移ります。調査研究報告書 A-1 の1の項目については、思考ツールを活用して基礎的・基本的な内容が確実に身に付けられるよう工夫されていました。例えば、25 ページをご覧ください。ここは章の問いをまとめていく活動となります。その際に、思考ツールである Y チャートやクラゲチャートを活用することで、基礎・基本の内容の確実な定着を促すだけでなく、対話的な学びや深い学びの実現を狙っております。また22、23 ページをご覧ください。単元末においては、「アクティブ公民」でより発展課題にも取り組めるよう工夫されていることが特色かと思えます。その他、3、5、6、7の項目においても優れた特色が見られました。

次に、調査研究報告書 A-2 の2の項目については、経済の基本的な考え方や、企業の社会的役割と責任を深く理解できるよう工夫されていました。154、155 ページをご覧ください。ここでは「ライフプランから金融を考えよう」と題し、選挙権を有し成人としての責任が生じる18歳に向けて身に付けたいライフプランや、金利などの実践的な知識や技能を、学習内容と併せて習得できるよう工夫されております。また144、145 ページをご覧ください。ここでは「パン屋さんを起業してみよう」という題材で、実際にパン屋を起業するために開業資金をどう集めるかや、日々の利益の計算をさせる、いわゆる活動型の学習をさせる工夫があります。その他に1、7の項目についても優れた特色が見られました。

続いて、日本文教出版に移ります。調査研究報告書 A-1 の8の項目について、学習における自己調整力を養うことができるよう工夫されていました。例えば、188、189 ページをご覧ください。ここでは「現代の国際社会と課題」の単元で、「チョコレート王国」と題して児童労働について考えさせ、章を貫く課題、「平和で持続可能な国際社会の実現のために日本はどのような役割を果たすべきでしょうか」を設定しております。このように構造的に章の問いや節の問いを設定し、その解答を行うコーナーやページを設けて、生徒が何をどのように学ぶのかの見通しをもって学習に取り組めるよう工夫しております。また221 ページをご覧ください。ここでは、この章を貫く問いに対して、まとめをウェルビーイングの手法を用いながら表現する活動となっております。その他にも2、6の項目について優

れた特色が見られました。

次に、調査研究報告書 A-2 の 4 の項目については、SDGs の達成のためにどのような取り組みが必要かを多角的な視点で考察できるように工夫されていました。216、217 ページをご覧ください。ここの「明日に向かって」では「SDGs から未来の社会を考えよう」と題し、国際社会共通の目標である SDGs の日本の取組状況を資料から考察し、目標達成のために私たちがどのように課題を解決していけばよいのか、課題に優先順位を付け、考える学習となっています。つまり、SDGs を自分事として考えることができる教材となっております。その他にも 6 の項目について優れた特色が見られました。

続いて、自由社となります。調査研究報告書 A-1 の 2 の項目について、生徒が自分の考えを深め、主体的に表現できるよう工夫されていました。例えば、8、9 ページをご覧ください。ここの「アクティブに深めよう」では「グローバル化によって私たちの生活はどう変わったか、考えてみよう」と題し、大きなマトリクス表を活用することで自分の考えを主体的に表現できる工夫がなされております。また 52、53 ページでは「立憲主義の大切さについて考えよう」と題し、各班で話し合いながら協働的に表を完成させる工夫があります。

次に、調査研究報告書 A-2 の 7 の項目については、尖閣諸島について詳しく理解できるよう工夫されていました。174、175 ページをご覧ください。「もっと知りたい」コーナーでは、「海をめぐる国益の衝突」と題し、尖閣諸島を巡る問題等について詳しく見開き 2 ページで述べられております。また 170、171 ページをご覧ください。ここではわが国の領土問題、ロシアとの北方領土問題や韓国との竹島問題についても詳細に説明しております。このことが大きな特色だといえます。

最後になります。育鵬社となります。調査研究報告書 A-1 の 1 の項目について、基礎的な知識や技能が協働的に習得できるよう工夫されておりました。例えば、114 ページをご覧ください。ここでは「政治のこれから」と題し、自分たちの住む地域をより良くするためにはどのようなまちづくりが必要かを考える学習となっております。KJ 法の手法を用い、主体的・対話的で深い学びの実現を目指したり、公民の基礎的な技能を身に付けたりできるような工夫が見られます。そして、隣の 115 ページです。ここではランキングの手法も用いております。また 113 ページをご覧ください。上にある「学習を深めよう」において、アニメーションの小コラムがありますが、本文での学習内容をより詳しく説明したり、関連情報を紹介したりすることで、基礎的な知識などを習得できるよう工夫されております。その他、3 の項目についても優れた特色が見られました。

次に、調査研究報告書 A-2 の 3 の項目については、政治について多角的に思考できるよう工夫されておりました。88、89 ページをご覧ください。「やってみよう」では「新聞の社説を比べてみよう」と題し、新聞社によって論調が異なる社説を題材にして、ディベートで学びを深める活動があります。また 104、105 ページをご覧ください。ここでは「裁判員になって判決を考えよう」と題し、シミュレーション学習が見られます。このように他者と積極的に交流しながら、政治について多角的に思考できるような工夫があるのが特色だといえます。

以上で社会科（公民）の教科書の説明を終わらせていただきます。

(選定委員長) ありがとうございます。それでは、委員の皆さまからご質問があればお願いいたします。

(選定委員) 公民では、社会に見られる課題を把握したり、その解決に向けて考察・構想したりする学習が重視されると思います。そういう点で例えば、今あまり説明がなかった5の「現代的な諸課題への対応や各教科などとの関連に配慮が見られること」の項目について、この教科書では他よりもより多く取り扱っているとか、それについて考えさせるような内容になっているということがありましたら、分かるようなところを例にして教えていただければと思います。

(公民調査委員長) 例えば帝国書院の巻頭の6ページです。「未来に向けて」というのが右上にありますけれども、環境・エネルギー、防災、人権・多文化、平和・安全、情報・技術、伝統・文化の6テーマを設定しまして、子供たちに主体的に学ばせるような部分がありました。また、日本文教出版は、216ページの「SDGsから未来の社会を考えよう」などSDGsにもすごく力を入れておりましたし、教育出版もSDGsを一つの柱としてこの教科書が作られていると最初のところに書いてあります。そして育鵬社に関しても、SDGsについてすごく力を入れているなという、特色がありました。

(選定委員長) よろしいでしょうか。他にご質問をお願いいたします。他にいかがでしょうか。

(選定委員) では、先ほどの件に関係すると思うのですが、公民もそうなのですが、社会科では資料を読み取ることがとても大事な学習活動の一つだと思います。特に複数の資料を読み取る場所は、多分全国でも、金沢市でも、社会科の大きな課題だと思います。そういう中で、先ほどの現代的な諸課題も含めて資料をしっかりと読み取することを考えて、例えば項目7だったり項目2を見ると、どの者も結構資料を載せていたり、それについてしっかりと考えをもたせて話し合わせるような活動を載せていると思うのですが、その中でも特に調査委員会の方で、この教科書のこの部分は子供たちが資料の読み取りの力を付けるためにとてもいい活動をさせているとか、いい資料を使っているなというものがありましたら教えていただければと思います。

(公民調査委員長) 例えば帝国書院では、7番目の項目になるのですが、やはり生徒の発達段階を考えて、導入でインパクトのある、躍動感のある写真や資料を使っていることで、子供の興味・関心を引く一助になっているのではないかなと感じております。また中身に関しても、非常に新しいデータを基に、分かりやすいタイムリーな資料を使っているという印象があります。また東京書籍の資料も、カラフルと言ったらいいか分かりませんが、40、41ページなどを見ても非常にダイナミックというか、見やすい配置を考えているということがいえるのではないかなと感じております。

(選定委員長) よろしいでしょうか。他にいかがでしょうか。

(選定副委員長) 資料Dの教科書採択に係る要望書等において、幾つか要望を頂いているようであります。その複数の要望の中に、日本国憲法の三原則、基本的人権の尊重、国民主権、平和主義という原則の理念を尊重した教科書の採択を希望するという記載が見られました。こうした日本国憲法の三原則のことについての評価は、調査研究報告書A-2の調査研究項目3に表れていると考えてよろしいでしょうか。また、者によって違いがあり、特に優れている等、補足を要するようでしたら、そちらについてもお願いいたします。

(公民調査委員長) 日本国憲法の三原則のことですが、どの発行者もやはり、国民主権、基本的人権の尊重、平和主義について、小学校でも習っていることですが、より中学生を意識した表現で記載されています。

(選定委員長) 私見で結構ですけれども、どこか優れているところはございましたか。あまり変わらないでしょうか。

(公民調査委員長) まず東京書籍の42、43ページの箇所、および帝国書院の37ページの箇所は、例えば資料とか、ビジュアル面とか、いろいろ考える中で非常に見やすい、教えやすい構成になっているのではないかという意見が調査委員会では出ました。

(選定委員長) ありがとうございます。はい、どうぞ。

(選定委員) 公民は、子供自身の権利を子供に教えてあげることがすごく大事ななと思っています。児童の虐待などいろいろな問題が起きたときに、自分が社会にとって大事にされる存在であるということをお子たち自身が理解していることが必要だと思いますし、公民の教科でぜひしっかり教えていただければと思うのですが、市民のご意見の中で、子ども食堂のことについて少し書かれている部分がありました。子ども食堂を扱っていない教科書もあるし、扱っている教科書もあるのですが、子供、そして子供だけでなく市民がセーフティネットを利用するときのハードルが高くないといいなと思っています。

そういう意味では、われわれの人権を守っている社会の仕組みとしてのセーフティネットについて、どの教科書がいいというのはありますか。どこが悪いと言ったらいけないかもしれないのですけれども、1者は児童憲章のことしか扱っておられないように思いましたので、それ以外は全く同じなのか、あまりそこには差がないものなのか、教えていただきたいです。

(公民調査委員長) 子ども食堂については子供の人権、また社会権にも関わることでありますが、例えば教育出版の61ページの右下の方では、子ども食堂について詳しく解説しております。また、帝国書院の57ページの右下で、いわゆる子供の人権を守るということで、子ども食堂について取り上げられております。他の教科書は今すぐ出てこないのですけれども、子供を大事にするというところを意識した教科書になっているかなと思いました。

(選定委員) 育鵬社にもあるように思います。161 ページなのですが子供の貧困の問題とセットにされているのと、貧困とは関係なく、例えば親が忙しいので1人で食事を取らなければいけないような子供たちに、ぬくもりのある夕食をとるか、そういう感じで書かれているものもあるのかなというところがちょっと気になるのですけれども、その辺はいかがでしょうか。

(公民調査委員長) 育鵬社についても161ページにございました。質問の内容についてもう一度おっしゃっていただけますか。

(選定委員) 子ども食堂に行く子が貧しいおうちの子だという印象が付くのは心配だというご指摘があったのを見て、私もそれはそうだなと思ったのです。最初にご紹介いただいたところは、ひとり親世帯などだと、貧しいからだけではなくて親御さんが働いていたりして、1人で食事をしなければいけない理由がある子供たちが行く所でもあるし、地域の人たちも行くような所なので、利用しやすいというのですが、精神的なハードルが下がるというか。書き方としてそういう書き方をしない方がいいのではないかというご意見について、どういうふうにお考えかなと思ひまして。

(公民調査委員長) やはりここは非常に慎重に扱わなければならないところだと思います。いろいろな資料等がございますけれども、日本の子供たちの6人に1人が貧困というような衝撃的なデータもあります。その信ぴょう性は抜きにして、やはり格差が広がっているという日本の現状を教師がしっかりと把握して、指導に生かす。例えば学習指導要領にも書いてありますけれども、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を現代の社会生活と関連付けて多面的・多角的にということ、多角的にというのはやはり相手の立場に立って自分事として考えられるような教育をしていくことが大事かなと思ひました。

(選定委員長) よろしいでしょうか。他にいかがでしょうか。

(選定委員) 公民は3年生で習うのでしょうか。

(公民調査委員長) はい。実は3年生で140時間ございまして、最初の4月から40時間は歴史をやります。その後、6月中旬、後半ぐらいから公民を100時間やります。

(選定委員) ありがとうございます。気になったのは、この公民の教科書を調査委員に出すときに、歴史の教科書や地理の教科書との関連はどう話されたのでしょうか。小学校で、同じ社会科の教科書として地理とか歴史、公民はやはり流れがあると思うので、そこで何か検討されたとか意見があったら教えてください。

(公民調査委員長) 調査委員会で発行者の系統性は話し合っていないのが現状であります。

(選定委員) ということは、歴史の教科書と違う発行者でもいいのですね。

(公民調査委員長) 特に違和感はないと思います。

(選定委員) ありがとうございます。

(選定委員長) 他にいかがでしょうか。

では、私の方から。調査 A-1 の 9 になろうかと思うのですが、公民に限らず今の学習というのは、子供がしっかり自分の考えをもって、他者と交流して深めるものであろうと思いますが、特に最近、社会科など、公民も含めて、協働的な学びでいろいろタブレットも入ったりして、どのような交流の仕方をしているのか、そしてそれに対応する教科書の中にもこういう議論や対話の形式をするといいねというものがあり、もし書いてあれば、そういう意味で、金沢として使いやすい教科書がありましたら、いま一度その辺のことを説明していただけますでしょうか。

(公民調査委員長) 主体的・対話的で深い学びの実現のために、どの発行者も、例えばグループ活動に力を入れて作っているのが現状です。どの発行者もそうなのですが、例えば東京書籍の単元の最初の 7 ページは、このような絵を用いて、自分の実際の生活の場面からいろいろな疑問等を出し合って、章を貫く、単元を貫く課題を作り、みんなが課題を共有してみんなで解決していくところをすごく意識したつくりになっております。また、帝国書院の 30、31 ページでも同じように、とにかく問いというか、課題を作ること、単元を通してどのような資質・能力を身に付けなければならないのかということも大きなテーマになっていきますので、導入場面においてこのような形になっております。

また、例えば帝国書院の 24、25 ページを開いておりますけれども、特に 25 ページでは「思考ツール」を活用して、最後の投げかけのところで「みんなで話し合ってみましょう」というものがありました。ちょうど真ん中の Y チャートの左隣のところに、2 で作成した Y チャートを周りの人と持ち寄って意見交流をしてみようという感じで、作為的に交流を図って学びを深めていき、知識や技能を獲得できるようなつくりが他の教科書会社でも当然あります。

(選定委員長) ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

(選定委員) 議論のベースを聞きたいのですが、各発行者を見た中で、主張の部分で結構偏りがあるのかなということを感じるのです。例えば自由社については、私も言いたいことはもちろん分かっていますが、135 ページのように「中国の会社は共産党のもの」と言い切って本当に大丈夫かどうかという表現だったり、自由社と育鵬社だけは領土問題に関してはないという主張で、もちろん政府見解としてそうなのでそれはいいのですが、そこに対して少し過激な表現や過激な記事が書いてあるなということを感じるのです。そういった中で、どのようなことをベースとして、皆さんで議論されたのかなということをお伺

いできればと思っております。

(公民調査委員長) 当然これは国の検定を通った教科書ですので、それを基に、子供にとって、学習指導要領を踏まえて、しっかり理解できるかどうかという観点で調査してきました。

(選定委員長) よろしいでしょうか。他にご質問がございましたら。

(選定委員) すみません、各者についてそれぞれおっしゃったから、少し聞いてもいいですか。A-1の項目4なのですが、「伝統と文化を尊重する態度、道徳性などを養うための内容」というところについて、各者で多少違いが見られたりするのですが、どの辺がどう違うのかなというのが分からなくて。違いはどのあたりなのかというのを少し教えていただければなと思いましたが、何かありますか。

(公民調査委員長) われわれは、子供目線になって本当に学びやすいかどうかという観点で見てきたつもりです。自分らで話し合う中で合意した結果です。

(選定委員長) よろしいでしょうか。そうしましたら、続いて事務局より各学校の研究委員会の報告、および教科書展示会における市民や保護者の意見を報告していただきます。

(学校指導課長) それでは、資料Bの5ページになります。「各学校における教科用図書研究委員会_調査研究報告書」についてです。まず、東京書籍についてです。項目5で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられております。全体の意見の総数については、帝国書院に次いで2番目に多くなっております。続きまして、教育出版です。項目2で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられております。次は、帝国書院です。項目2、項目3、項目4で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられております。全体の意見の総数についても最も多くなっております。続きまして、日本文教出版です。項目3で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられております。続きまして、自由社についてです。項目1で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられております。続きまして、育鵬社についてです。項目1、項目3で多くの意見が挙げられております。

次に、資料Cの7ページ左側の中段から右側の上段にかけてです。常設展示におきましては、東京書籍、育鵬社、帝国書院等に対してさまざまなご意見が寄せられております。以上で報告を終わります。

(選定委員長) ありがとうございます。そうしましたら、報告書について追加や修正、削除したらよいと考える意見などを出していただければと思います。感想も含めていただいて結構でございます。

(選定委員) 比較的新しい2022年に制定されたこども基本法や、2023年のこども家庭庁の話が東京書籍の教科書だけに出てきていたと思ったので、お伝えしたいなと思いました。

(選定委員長) ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

(選定委員) 先ほどの質疑の方でもあるのですが、やはり中学生の立場で、公民の中で現代社会の在り方を議論していく中でベースになっていくことを考えると、いろいろなものが見方ができるものが必要なというのと、事実となればデータ等々もしっかり記載されているものと思う中で、そういったことを見ていくと東京書籍と帝国書院の2者が非常にバランスが良くなっていて、客観的に見て偏りが無いというか、そういった事実に基づくものが書いてあるかなというふうに感じました。

(選定委員長) ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

(選定委員) 私も同じ意見でして、こども家庭庁のことが書いてあるという東京書籍の問題もそうですし、一つだけ子供の権利のことをあまり詳しく書いていただいていないところは今は挙がらないと思うので、いいことにしたいと思えますけれども、書き方として先生が困らないような記述になっているところを選んでいただきたいなと思います。子供たちは割と純粋だと思うので、こういう本を自分で真面目に読んでくれたりすると、偏見を生むと言っているのか分かりませんが、助長するようなことがあまり起きないようなものであって、子供たち自身が、自分にはちゃんとした人権があって、どういう家庭の下に生まれてきても大切にされる存在であるということがきちんと分かるような教科書を選んでいただく方がいいかなと思いますので、今挙がっていた東京書籍、帝国書院は問題ないような気がしております。

(選定委員長) ありがとうございます。

(選定委員) 人権に関してはやはりこの公民がメインの学習になるのかなと思いますが、もちろん道徳や学校教育活動などいろいろなところで人権問題を扱っていかねばいけないし、子供たちに正しく認識してもらわなければいけないので、そういう視点で先生方が、また子供が独自に教科書を使って学んだときに、誤解のないような教科書であればいいなと思いました。

(選定委員長) 修正までのご意見ではないですが、そのことは付け加えて報告させていただこうと思います。

(選定委員) 6者を並べても自由社のものは、余白も多いし、二次元コードもないし、表というか、これは書き込む教科書なのかなと思うぐらい、これが必要なかなというふうに思いました。この1者だけがちょっと異質な感じがしました。

(選定委員長) ありがとうございます。他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。ご感想でも結構ですが、よろしいでしょうか。それでは確認させていただきます。公民の

内容につきまして、報告書 A の内容については特に修正等のご意見はございませんでしたので、調査委員会の報告書の内容を尊重するとともに、市民からは特に東京書籍、育鵬社、帝国書院にさまざまなご意見を頂いております。そういったものに傾聴しまして、社会（公的分野）における教科書採択の答申書を作成してもよろしいでしょうか。

<異議なし>

（選定委員長） ありがとうございます。お認めいただきました。6 者の中で、先ほどからご指摘にありますように東京書籍と帝国書院は優れている点が多かったということによろしいでしょうか。また、報告書の内容から見て、日本文教出版も含まれると思いますが、よろしいでしょうかね。先ほど自由社についてのコメントはございましたけれども、あとは横並びがちで、その中でも評価が高いのは日本文教出版ということになりますけれども、その3者でよろしいでしょうか。

<異議なし>

（選定委員長） もう一度確認させていただきます。掲載順ですけれども、選定委員会として評価が高いのは東京書籍、帝国書院、そして日本文教出版の3者とさせていただきます。ありがとうございました。それでは、調査委員長、ありがとうございました。ご退室していただいて結構です。次は、歴史分野について審議したいと思います。

⑩歴史

（選定委員長） では、歴史分野について、調査委員長、ご準備ができましたらご報告をお願いいたします。

（歴史調査委員長） ただ今より、歴史的分野の教科書の調査結果についてご報告いたします。歴史的分野につきましては、9 者の発行者について調査いたしました。

まず、東京書籍についてです。調査研究報告書 A-1 の 2 の項目については、教科書の 62 ページになります。各章のまとめの活動においてさまざまな思考ツールが用意されるなど、歴史的な見方・考え方を働かせ、多様な表現の育成につなげられるよう工夫されておりました。この 62 ページには「ステップチャート」というものが載っております。加えて 96 ページでは「Xチャート」といったものが載っております。その他、1、4、6、7、8、9 の項目について特に優れた内容が見られました。

次に、調査研究報告書 A-2 の 7 の項目についてです。こちらは教科書 272 ページになります。章末で図版、年表を活用して戦後日本の成長がどのようにして進んできたかを、世界情勢を踏まえて多面的・多角的に理解できるよう工夫されているなどの特色がありました。その他、項目 1、2、3、4 において特に優れた内容が見られました。詳しくは報告書の内容をご覧ください。

次に、教育出版についてです。調査研究報告書 A-1 の 4 の項目についてです。こちらは

教科書 52 ページをご覧ください。文化史を詳しく取り扱い、「古事記」「日本書紀」にある神話について取り上げ、人々の信仰や物の考え方について理解を深めることができるよう工夫されておりました。「歴史を探ろう」という特設ページでは、この時代の人々がどのような信仰や物の見方をしてきたかについて、「古事記」「日本書紀」に示された神話を基に理解を深めることができるよう工夫されております。その他、1、3、7の項目についても特に優れた内容が見られました。

次に、調査研究報告書 A-2 の 5 についてです。こちらは 106、107 ページをご覧ください。このように特設ページではヨーロッパや東アジアの様子を多面的に捉え、章末では時代の特色を、外国とのつながりをより深く意識してまとめることができるよう工夫されるなどの特色がありました。その他、項目 1、2、3、8、9、10 について優れた内容が見られました。詳しくはこちらも報告書をご覧ください。

次に、帝国書院です。調査研究報告書 A-1 の 5 の項目についてです。こちらは表紙裏のページをご覧ください。未来の社会をつくる参考になる取組を紹介するコラムが随所に設けられるなど、これからの社会について考えを深めることができるよう工夫されておりました。このページは SDGs について取り上げております。このようなマークが随所に見られ、その理解を深める工夫がなされております。その他、項目 1、2、3、7、8、9、10 についても特に優れた内容が見られました。

次に、調査研究報告書 A-2 の 6 の項目についてです。こちらは 268、269 ページをご覧ください。年表や特設ページによって世界との関わりを確認しながら、日本が近代国家を建設し、戦争を経てどのように変化してきたかを多面的・多角的に考えることができるよう配慮されておりました。その他、項目 1、4、8、9、10 について優れた内容が見られました。こちらも報告書の内容をご覧ください。

次に、山川出版社についてです。調査研究報告書 A-1 の 7 の項目についてです。こちらは 48、49 ページをご覧ください。難解な資料には注釈を付け、各世紀の世界の様子を地図とイラストで紹介するなど、世界と日本の歴史を関連付けて考えを深めることができるよう配慮されておりました。各世紀の世界の様子が世界の地図とともにイラストで紹介されることで、高等学校の世界史とのつながりを視覚的にも意識させることができるという工夫がなされております。

次に、調査研究報告書 A-2 の二つ目の項目についてです。こちらは教科書 13 ページをご覧ください。レポートの書き方やまとめ方、発表のポイントを示すとともに、具体例として地域の調査を取り扱っております。地域の調査においては、金沢を調査の例として挙げております。ページ数は 148、149 ページになります。生徒の関心を高めることができるような工夫の一つとして捉えることができるかと思えます。その他、項目 4、8 について優れた内容がありました。こちら詳しくは報告書をご覧ください。

次に、日本文教出版についてです。調査研究報告書 A-1 の 3 の項目についてです。こちらは教科書 150 ページをご覧ください。「チャレンジ歴史」等のコーナーを設け、歴史的分野を学ぶ楽しさを体験し、生徒が主体的な学習を行うことができるよう配慮されておりました。このページは、宗教的な世界観を基にした世界地図や測量技術の発達の下に作られた世界地図を比較し、当時の人々の見方・考え方について触れることで、歴史を学ぶ楽しさに触れ、学び合いを通して生徒が主体的に学習することができるよう工夫されておま

す。その他、2、5、6の項目についても優れた内容が見られました。

次に、調査研究報告書 A-2 の 1 の項目をご覧ください。こちらは教科書 6、7 ページになります。小学校時代の学習を振り返り、年代や時代の区分の表し方を確認するとともに、見方・考え方について詳しく示すなど、学習に必要なスキルが高まるよう配慮されています。今のこのページと 10、11 ページには、見方・考え方を働かせるといったページが設定されています。その他、2、5、10 の項目についても優れた内容が見られました。詳しくは報告書をご覧ください。

次に、自由社についてです。調査研究報告書 A-1 の 4 の項目についてです。こちらは教科書 25 ページをご覧ください。伝統や文化についてのコラムを随所に設け、古代日本の国の成り立ちや現代につながる多様な見方や考え方などについて詳しく学習できるよう工夫されていました。この 25 ページでは、縄文文化の代表的な遺跡である三内丸山遺跡の発掘を取り上げており、この後の 40 ページでも、神話を通じて当時の人々の信仰や物の見方に触れることで、現代につながる多様な物の見方・考え方を詳しく学習することができるよう工夫されています。

次に、調査研究報告書 A-2 の 3 の項目についてです。53 ページをご覧ください。こちらでは特設のコラムで日本のおこりや日本の天皇と中国の皇帝について取り上げ、現代の文化を深く理解することができるよう工夫されているなどの優れた特色がありました。詳しくは報告書の内容をご覧ください。

次に、育鵬社についてです。調査研究報告書 A-1 の 8 の項目についてです。教科書は 96 ページをご覧ください。「鳥の目」「虫の目」「TRYI」等の設問に対して他者と考えを交流させることで、多面的・多角的に時代を大観することができるよう工夫されていました。このページは「鳥の目」ということで、小学校の学習を振り返るページです。次のページをめくっていただくと、時代の流れを確認することができるようになっております。98 ページの「虫の目」では、江戸を中心とした商人の活躍について取り上げられており、さまざまな問いについて考えながらお互いに意見を交換し、多面的・多角的に時代を大観することができるよう工夫されています。その他、1、4、9 の項目について特に優れた内容が見られました。

次に、調査研究報告書 A-2 の 3 の項目をご覧ください。こちらは教科書 44 ページです。神話の史料は国の成り立ちについて知る大きな手掛かりとなり、当時の人々の物の見方や考え方を深く理解することができるよう工夫されていました。その他、項目 1、8、9、10 について優れた内容が見られました。詳しくは研究報告書をご覧ください。

次に、学び舎についてです。調査研究報告書 A-1 の 7 の項目についてです。教科書 40 ページをご覧ください。A4 判サイズで、資料、写真、地図等が大変見やすく、生徒が社会科の見方・考え方を働かせながら、主体的に学習を進めることができるよう配慮されました。ここでは奈良時代の平城京の模型を資料として取り扱ってあります。他の教科書と比べても大変見やすい資料が掲載されているのが大きな特徴となっております。

次に、調査研究報告書 A-2 の 4 の項目についてです。教科書は 72 ページをご覧ください。こちらにおきましても分かりやすい大判の写真や地図等を用いて、日本の武家政権と東アジアの国々が結び付いていることをより深く理解することができるよう工夫されています。詳しくは報告書の内容をご覧ください。

最後に、令和書籍についてです。調査研究報告書 A-1 の 4 の項目をご覧ください。教科書は 39 ページです。「古事記」「日本書紀」に示されている日本の国の成り立ちや神話について特集し、伝統や文化を尊重する態度を主体的に養うことができるよう工夫されておりました。このページは、「古事記」にある神話についてのページです。これらに見られる日本の神話が多く掲載され、当時の日本人の物の見方や考え方について詳しく知ることができるよう工夫されておりました。

次に、調査研究報告書 A-2 の 3 の項目についてです。こちらも先ほどと同じ 39 ページに加えて、43 ページをご覧ください。「古事記」「日本書紀」に見られる神話について取り上げるとともに、日本の伝統や文化の起源について深く理解することができるよう工夫されておりました。その他、詳しくは報告書の内容をご覧ください。

以上が調査報告の内容になります。

(選定委員長) ありがとうございます。では、委員の皆さま、ご質問をお願いいたします。

(選定委員) それぞれ特色があるのですが、やはり社会科ということ考えたときに、特に歴史ですので、資料としてグラフだったり、絵だったり、それから写真だったり、どんな資料を使うかということとはとても大切になると思うのです。そういう資料を使って子供たちが主体的・対話的で深い学びを行うために、調査委員会の方で調査しているときに、例えばこの教科書を使ってこんな流れで勉強していくと子供たちは分かりやすいだろうなとか、深い学びができるだろうなというご意見がもしあったのであれば、どんなところでという例を示してお話ししていただければありがたいと思います。

(歴史調査委員長) 調査委員会では、風刺画について話題になりました。例えば、現行の育鵬社でありましたが、ちょうど日清戦争が始まるときに、よく使われる風刺画なのですけれども、釣りをしている風刺画ですね。この風刺画は、どの教科書もよく使っております。加えて、次の日露戦争のところでも風刺画は使われるのですが、やはりこの時代の世界情勢を 1 枚の絵で表すこういう風刺画についていろいろと議論することで、子供たちは今までの学習を踏まえて、この風刺画を表現したり、この時代の日本の立場であったり、そういうことをたくさん言葉として出してくれるのではないかなという話がありました。

風刺画に加えていいますと、東京書籍などは、184 ページにも帝国主義についての風刺画があります。これもよくある風刺画ですね。こういうものを子供たちに見せることで、これまでの学習を踏まえた内容がたくさん出てくるのではないかということでした。こういうものが充実しているのが、今のよくあるものを使っているのが育鵬社であったり、また東京書籍、それから帝国書院もちょっと変わった風刺画がありました。この風刺画ですね。206 ページです。こういうものがたくさん載っていると、特にこの単元を学習するのは 2 年生の後半や 3 年生の最初のところなので、今までたくさん学習してきたことを踏まえていろいろ知識を使ってくれるのではないかということ、調査委員会では、こういうものが幾つかあると子供たちの深い学びにつながるのではないかという話が出ておりました。

(選定委員長) よろしいでしょうか。他にご質問をお願いいたします。

(選定委員) 幾つか聞きたいのですが、1点目は、歴史の学習をするに当たって小学校とのつながり、地理の教科書や公民の教科書との関連ということを調査委員会でどう検討されたのかについてです。それと、2点目は、日本の歴史においては世界の歴史の背景が関係すると思うのですが、そのバランスが考慮されている教科書はどのようなものかということです。3点目は、歴史の古い順から古代、中世、近世と言っていて、最近の近代というふうの流れで来ているのですが、この世代のバランスというのはどの教科書も大体同じようなものなのか。幾つか聞きましたけれども、よろしくをお願いします。

(歴史調査委員長) まず、小学校とのつながりにつきましては、どの教科書も意識した仕立てになっていると思います。例えば育鵬社につきましても、96ページでは、小学校は人物を中心に学習しますので、そのときに学習した人物のイラストなどを導入にもってきて、そのときの学習を思い起こさせるような仕組みになっております。また東京書籍も、単元の初めにイラストなどを使って、人物を中心に学習した小学校の様子を思い起こさせる仕組みになってきております。加えて、同じく東京書籍でいえば、マークが設定されておりまして、小学校との関連があるところについては、小学校との関連がありますというマークが付いています。どの教科書も小学校の内容を思い起こさせるようなページが必ず設定されています。

それから2点目の内容ですけれども、地理と違いがあっても大丈夫かについては、結論からいうと、特に問題はないと思います。どの発行者も学習指導要領を基に作られているものですので、特に発行者が違っても問題ないと思います。

それから3点目は、日本史・世界史のバランスというところなのですが、どの教科書も歴史の年表の記載に日本の動きや世界の動きを並列して並べることで、その関連を位置付けている仕立てになっていると思います。特にこういう年表においては、日本の歩みの下の方に世界の出来事を関連付けて示しておりますので、どの教科書もこのような形で関連を意識させる仕組みになっているかと思えます。

最後に、世代別のバランスについては、これもそれほど大差はないかと思うのですけれども、育鵬社の方で近代の記載のページがこれまでよりも少し増えている仕立てになっております。以上です。

(選定委員長) ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

(選定委員) 歴史に関しては非常に多くのご意見であったり、特別に資料等々があったと思うのですが、議論の中心になっているところは、まさに近代史の中でいう世界的な大戦の部分になるかと思えます。金沢市としてはこれはどういった見解をもっているのか。例えば教科書によっては、大東亜戦争という表現があつて、一方では太平洋戦争という表現もあつたりしているのですが、これからの中学校の歴史ではどういうふうにお伝えしていくのかなと思ひまして。要は、先生方に任せるものなのか、こういったいろいろなご意見がある中で非常に敏感なところだなというのは理解しているのですが、どういった見解

や基準をもちながらこの部分に関して見ていかれたのか。少し分かれている傾向がありますので、その点をお聞かせいただければと思います。

(歴史調査委員長) 各発行者によっていろいろな主張やいろいろな表現があるということですが、教える側としてはやはり学習指導要領にのっとって、そこを中心に教えていくので、何かに特化して取り扱うということはしないと思います。基本は学習指導要領にのっとって、史実として取り扱うというふうになると思います。

(選定委員) おっしゃったように学習指導要領にのっとった中で、例えば意見書等にあるような、どうも見ていると大東亜戦争という表記があると愛国心をあおっているような捉え方も、極端ですがあったり、なかなか客観的に見てもそうは捉えられないのではないかということもあたりするわけなのですが、そこはあくまで主観かもしれませんし、一方で戦争にどんどん突入していった背景の中で、そこは結構難しいのだろうなというか、ここは非常に自虐的なことを書いてあるところもあれば、一方で経済封鎖等の中で致し方なかったという主張もあります。私らのときは、経済封鎖は多分なかったと思います。今の私たちが知っている事象としては確かに経済封鎖等々の理由があったり、ハル・ノートに記載されているというのは理解しているのですが、中学校のときにそんなことは学んでいなかったという思いもありますし、こちら辺は非常に敏感な部分であり、せつかくこれからの未来を、まさに地球規模の課題を解決しなければいけないという子供たちにとって、あまり日本の中で自虐的になってほしくないというか、自分たちは悪いことをしたという主張ばかりしていても駄目なのかなと思いますし、国際感覚を身に付ける中でも自国のことを正しく理解して、その中で自国や地域に誇りをもてるような、そういう歴史観をもてるような歴史教育があった方がいいと思っています。

(選定委員長) 最後の方は感想というかご意見なので、何か調査委員長から今のことに對してコメントはございますか。

(歴史調査委員長) 先ほども言ったとおり、学習指導要領にのっとって、やはり授業では歴史に関わる事象の意味や意義、またその時代の特色だったり、相互の関連を日々いろいろな角度から考察したり、また複数の立場を踏まえて、常にいろいろな正確な判断をしたりする力を大事に授業をしています。

(選定委員長) 他にいかがでしょうか。

(選定委員) 時代が進めば進むだけ歴史の教科書で教えるべきことは増えると思うのですが、その中で神話というものの取り扱いが少し気になっておまして、各者少しずつ分量が違う気がします。神話を通して、口伝の口承文学から何か想像するというのも歴史の一つですが、やはり歴史学というアカデミックなことをベースにしたものを子供たちに教えていると考えると、少し触れるのはいいと思うのですが、そういう意味では歴史学という学問をベースに考えたときに、ここまで見開き2ページ、3ページも要らないの

ではないかという気もしています。

そういう意味では、こういうものを手掛かりにして宗教観を知ることでもできるし、祭りがそれにつながっているというのを少しだけコラム的に端の方に、例えば山川出版社の42ページの左ぐらゐの感じで載っているというのはいいと思います。緑のところですけどもそういう形で載ってくるのはいいし、「古事記」「日本書紀」だけではなくて「風土記」などでもこんなふうにかかれていゝるので、自分でこれからそういうことに興味をもてば見ていくのはいいかなと思ふのですけれども、この辺の分量のことについてどうお考えなのかというのが一つです。

先ほども山川出版社が金沢をテーマにしてくれていゝというのがちよつといいなと思つたのですけれども、この2点についてお考えがあれば教えてください。

(歴史調査委員長) 神話については、当時の人々の物の見方・考え方を知る上では一つのヒントになるのかなと思ふます。これだけの分量がなければいけないとか、これは少ないというよりは、それに触れることで、生徒たちはそういう見方・考え方を当時はしてゐたのだというふうにして捉えてくれるのではないかなと思つておゝります。

2点目の郷土については、先ほど山川出版社が金沢を題材にしているということで、その他、八田與一さんのことを取り扱っているページもあります。郷土の先人がこういう形で教科書で取り扱われていることは、子供たちの歴史に対する興味・関心を高めるきっかけになるのではないかなと思つておゝります。

(選定委員長) よろしいでしょうか。他にいかがでしょうか。

(選定委員) 何人かの委員の方からいろいろな意見が出ていたと思ふのですけれども、一般の方からの意見を見ると、どうしても教科書の内容について、文言だったりというところでご意見が出ていゝのかなと。歴史というのはどうしても自分の国の歴史ですので、その人の主観が入ったり、いろいろな意見が出ると思ふます。

ですので、一般の方のご意見は、その教科書を読んでの内容についてのご意見ということで、それはそれでまたそのご意見を参考にすればいいと思ふのですが、中学校の歴史の授業ということ考えたときに、先ほど委員長もおっしゃってゐましたけれども、この歴史の授業で何を身に付けるのか、そしてその身に付けた力をどんなふうにかしていくのかというところで、歴史を学ぶ意味、そしてそれを学んだことによつて、今を生きる自分たちがその歴史からどんなことをこれから考えていゝかなくてはいゝないのかということを考えていゝという点で、やはり3観点、知識・技能、思考力・判断力・表現力、そして学びに向かう態度というふうにか学習指導要領で定められていゝますので、そういう3観点をしっかりと身に付けられる、それを基に主体的・対話的で深い学びを実現できる、そして本市が目指している金沢型学習スタイルということ考えたときに、その中身であつたり、資料であつたり、そして子供たちが勉強してゝく、自分で勉強するということも含めて、この教科書のこういう点か他に比べるといいとか、そういうものがありましたら教えていただければと思ふます。

(歴史調査委員長) 主体的・対話的で深い学びという観点で教科書を見たときということなのですけれども、教科書の多くはそれぞれの年代別に単元を貫く課題が設定されています。その単元を貫く課題を解決していくために、見開き1ページの小単元というのがあります。単元を貫く課題というのはどの年代にも設定されていて、例えば東京書籍は最初の単元の中で、まずはイラストなどいろいろな資料を基に、この時代はどういう時代なのだろうということの問題意識をもってもらおうという仕立てになっています。そこで単元を貫く課題を設定して、小単元には学習課題があって、そしてまとめのところまでもっていくことになります。これはどの教科書もそういう仕立てになっています。

また、見開き1ページの中でも、対話的な学習を進めるためにということで、例えば東京書籍などは下の方に「チェック」と「トライ」というところがあります。「チェック」は基本的な知識を定着させるための問いになっていて、「トライ」は深めの問いで、学習内容を深めることができるということになっています。加えて、右上には「みんなでチャレンジ」ということで、対話的な学習に取り組むヒントが設定されていたりします。このように多くの教科書がそういう配置になっているのですけれども、例えば育鵬社でも同じように、「確認」と「探究」という二つのステップが設定されています。そして、小単元の中での対話的な活動を少し意識させるために、見方・考え方といって、そういうヒントになるようなコラムが設定されていたりします。東京書籍と育鵬社はこういうふうにして、見開きの1ページの中でも少し対話的な学習を進めるヒントを載せている項目があったりします。これについては報告書A-1の1の項目、2の項目、それから先ほどありました金沢型学習スタイルを進めるということで、A-1の調査報告書の項目8や項目9に調査結果が示されているということになると思います。

もう1点、歴史を学ぶ意義についてですけれども、各発行者の教科書では、冒頭や巻末のページに歴史を学ぶ意義について取り扱うページがあったりします。例えば帝国書院は一番最後のページに、これまでの学習を踏まえて未来への手紙を書こうということで、学習を踏まえてこれからを考える仕立てになっていたりします。また、先ほど見ていただきました東京書籍では、「歴史に学び、未来へと生かそう」というページがあります。こういうところを通して、歴史を学ぶ意味をいま一度確認できることになるのではないかなと思っています。

(選定委員長) ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

(選定委員) ちょっと繰り返になってしまうかもしれませんが、A-1の項目4の「伝統と文化を尊重する態度、道徳性などを養うための内容や話題・題材の充実」というところで、どうしても神話というか、「古事記」「日本書紀」のことで調査をされているような気がするのですけれども、そこだけではないと思うのです。伝統と文化を尊重するというので、明治期の日本の尊敬すべき素晴らしい方たちは何人もいらっしゃって、その方たちを取り上げている部分が結構あります。各者とも何かここに特化するというか、例えば帝国書院、山川出版社に比べて東京書籍、教育出版、日本文教出版等が、あと次のページもありますけれども、自由社、育鵬社、令和書籍がいいという、この辺の感じが私にはあまりぴんときていないのですけれども、この辺についてはどうでしょうか。いろいろ

なところを見ていただくと、神話だけに注目するというのも何か私には違和感があります。いかがでしょうか。

(歴史調査委員長) ここでは伝統や文化を尊重するというところで、文化等をどういうふうに扱っているのかということを見せてもらいました。特徴のあるページとしては、東京書籍においては文化財、国宝を地図で一覧で示しており、これは他の者にはないような特徴のあるページかなということ、これを見ることで今まで学んできた文化遺産がどこの場所にあるのかということに関連付けて学ぶことができると思っています。

同じく育鵬社についても、冒頭のページで各時代の文化遺産を示すことによって、生徒は時代の流れとともに今日まで文化遺産がまだ残っているのだということで、非常にイメージが湧きやすくなると思っています。

あと、帝国書院につきましては、文化を取り扱っている一つの特徴としては、ちょっと古い時代になるのですが、縄文や弥生の時代ですね。どちらも見開き1ページで示しております。今、例に挙げたところは、縄文時代でまた見開き1ページ、弥生時代で見開き1ページということで、取り扱いに差が見られるということになります。そういったところも加味して、このような調査報告になっているところでもあります。

(選定委員長) 神話や「古事記」「日本書紀」だけではなくて、ある程度幅広く見ておられるということでしょうか。ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

それでは私の方から、ちょっと視点は違うのですが、社会科に限らずというか、社会科が特に資料性の高い教科書になるかと思うのですが、子供たちが見たときに、文字や図、あとは逆に背景に色があり過ぎたりして、見やすさというのはどうなのでしょう。そういうところで、大体同じような気もするのですが、あと重要な語句が太文字になっていますよね。そういうところで何か大きな差とか、その辺で議論されたことがあるかどうかを教えてください。

(歴史調査委員長) 資料の見やすさということでは、最近というか、ここ何年かの教科書は非常に見やすく、さまざまな資料を教科書に載せています。補助教材で資料集などを用意したりするので、そこに載っている資料などもたくさん教科書には載せておきまして、非常に充実している教科書が多いという話は出ました。

それから、黒い太字のところは、確かに差は少しあるのですが、その時代その時代を理解する上でキーワードとなるような出来事であったり、人物であったり、そういうものがどの発行者も大体似通っているのではないかなという話は出ております。

(選定委員長) ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

(選定委員) 今ほど資料集という話題が出たのですが、学校現場では資料集や用語集を全員に使わせる場所もあれば、選択して使わせている学校もあると思います。やはりそういうものは必要なかということと、資料が豊富な教科書が増えているということですが、この発行者の教科書だったら資料集や用語集は特に要らないのではないかなという話し

合いはあったでしょうか。

(歴史調査委員長) 資料というのはやはりその時代を知る上での貴重な情報になりますので、資料を載せているだけではなくて、タイトルであったり、その資料についての注釈であったり、そういうものがやはり大事になってくると思います。載せていく資料については必ずタイトルがあって、それから注釈がある、それから出典が示されているなどの共通したところがあるのかなと思います。この教科書はという話はなかったのですが、今では1人1台端末等も整備されておりますので、必要であればそちらを活用して補ったり、資料についての補足情報を手にしたりすることができるのではないかなという話は出ておりました。

(選定委員) では、特に教科書と端末さえあれば資料集や用語集は今はいらないということでしょうか。

(歴史調査委員長) そういうことも可能であるということです。

(選定委員長) ありがとうございます。他にいかがでしょうか。特にないようでしたら、続いて事務局より各学校の研究委員会報告、および教科書展示会における市民や保護者の意見を報告していただきます。お願いいたします。

(学校指導課長) それでは、資料Bの4ページをご覧ください。「各学校における教科用図書研究委員会_調査研究報告書」についてです。東京書籍についてです。項目1において全発行者の中で最も多くの意見が挙げられており、全体の意見の総数についても最も多くなっております。続きまして、教育出版についてです。項目2で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられております。続きまして、帝国書院についてです。項目3で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられており、全体の意見の総数については、東京書籍に次いで2番目に多くなっております。続きまして、山川出版社です。項目1で多くの意見が挙げられております。続きまして、日本文教出版です。項目4で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられております。続きまして、自由社についてです。項目5で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられております。続きまして、育鵬社についてです。項目1で多くの意見が挙げられております。続きまして、学び舎についてです。項目5で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられております。最後に、令和書籍です。項目1で多くの意見が挙げられております。

続きまして、資料Cの1ページからです。右側の下段から7ページの左側の上段までは、常設展示で市民から寄せられたご意見です。また資料Cの9ページの右側から11ページまでは、移動展示で市民の方から寄せられた意見になります。既にそこにたくさんの意見が寄せられていることが分かると思いますけれども、そこには東京書籍、学び舎、帝国書院、自由社、育鵬社、令和書籍等にさまざまなご意見が寄せられております。以上で報告を終わります。

(選定委員長) ありがとうございます。では、審議に移りたいと思います。報告書に付け加えたらよい内容や、修正・削除したらよいと考える意見などを出していただければと思います。感想も含めていただいて結構でございます。先ほどのご質問の中でも、意見や感想的なことを含めていただいたので、その内容も一応報告はさせていただきますけれども、報告書の文面で修正したらよい部分などもございましたら、ご意見を頂ければと思います。

(選定委員) 東京書籍と日本文教出版と帝国書院の3者は、教科書の右端のところに常に年表が載っていて、今、全体の中のどこを学んでいるかというのがとても分かりやすいなと思いました。

(選定委員長) ありがとうございます。調査委員長、その辺は調査委員会でも何かありましたか。教科書の横に年表が出ているのはいいとか、そのような。

(歴史調査委員長) 今ほどご指摘があったとおり、どの時代のどのあたりのことを勉強しているのかということについては、今取り上げられていた発行者は年表をいろいろなところで使って、子供たちにとっては非常に分かりやすい記載になっているのではないかという話がありました。

(選定委員長) ありがとうございます。他に感想やご意見がございましたら。

(選定委員) 報告書 A-1 の項目 4 のところですが、帝国書院と山川出版社について、もう少し表現を修正した方がいいのではないかなと思います。たくさんの人たちについて自分で勉強できるという形になっていけばいいのではないかなと思います。自分たちで勉強していくためには、項目 2 の思考力・判断力・表現力といったものが大事かなと思いますし、その中で伝統と文化を学んでいくきっかけが教科書にちりばめられていることが大事ではないかなと思いますので、帝国書院、山川出版社について、報告書の書きぶりを修正したらいいのではないかと私は思います。

(選定委員長) 今のご意見はいかがでしょうか。今のご指摘は、私自身もよく分かったところですが、よろしいでしょうか。文言についてはこちらの方で、修正するというので、他の委員の皆さま、どうでしょうか。ご異論はありますか。よろしいでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) では、その二つについて、表記については事務局と私、委員長にお任せいただければと思います。ご指摘ありがとうございます。他にいかがでしょうか。報告書の修正、ご感想も入れていただいて結構です。

(選定委員) 先ほどの質問でも同様のことを言っているのですが、歴史というのは過去に起きたことですから、その中で戦争が絡んでくることに関しては、戦勝国によって、もっている思想が違うのかなということも捉えていますし、多分いろいろな見方がされるのだということも分かっています。その中で正直、東京書籍がすごくいいのかなと思っていたのですが、例えば非常にまた物議を呼びそうなのは、228 ページに南京事件があるではないですか。これについては結構具体的に書いているところ、確定していないことを書いてあるのですが、記述とかそこら辺は本当に書くものなのかどうか。

先ほども言ったように、いろいろな見方はあると思うのですが、非常に育鵬社に対する意見が結構強いではないですか。一方、それに対して見方を変えると、一体何に対して本来、物を教えていくものなのか、ここが難しいのだろうなど。軍事に関することと憲法に関することの捉え方は非常にセンシティブで難しいと。金沢市は一体どういうふうな方向性、委員さん一人一人の思想や感覚というよりも、金沢市としてどういうふうな歴史教育があるのかなというのは少し思っています。そこら辺について少し見解が知りたいなという思いです。

(選定委員長) その辺のご意見は、先ほどのご質問でも強く出ていましたので、文言の修正はちょっと難しい部分ではありますけれども、こういうご意見があったということは教育委員会議で私から説明させていただこうと思っております。

(選定委員) 多分、ここの部分の議論は、これだけ意見があるということは注目されるわけではないですか。きっと第三の外からすると。どのような議論がされたというのがよるしいのかというか、私もいろいろな立場で見えていますし、偏って何かこうだということも主義主張したくないですし、分かっていますし、そこら辺はどういった議論をされたかというのは、この委員会の非常に大事な部分ではないかなと思ひまして。

(選定委員長) 調査委員長、その辺の細かい部分で調査委員会では何か意見はございましたか。

(歴史調査委員長) これについては先ほどお伝えさせていただいたとおりで、学習指導要領に基づいて子供たちに考えさせる、多面的・多角的な捉え方で物事を判断していく、そういうことに重点を置いて学習するというので、調査委員の方からも意見があったところでは。

(選定委員長) 教育委員会議の方でどう解釈しているか、どういう教育方針で教育していくのかというのが議論されると思うのですが、選定委員会ではこんなふうにしていったらいいかという、もし意見があれば、そういう意見もありましたということで、報告するだけでも、教育委員会議の方に多少参考にしていただければいいかなと思ひますけれども、今の委員のご意見に対して、皆さまの方で何かご意見やご感想はありますか。

(選定委員) では、私の意見としましては、これからの社会にあって子供たちにとっては、歴史を見たときに自国に対しての誇りをもてること、その中で誇りをもてるような歴史観を身に付けてもらいたいという、そこだけかなと思います。

(選定委員長) ありがとうございます。そういうご意見ですけれども、今の委員のご意見にもありましたように、こういう教育をしてほしいという部分であったと思いますけれども、そういう表現でも結構ですけれども、委員の皆さまの方でも関連してご意見がありましたら、私の方でお伝えできるかなと思います。

(選定委員) やはり歴史学という立場を冷静にというか、私たちは必要以上に自虐的である必要もないし、かといって何か根拠もなく、わが国は神の国みたいになってしまうのも恐ろしいことかなと思いますので、どういうふうに歴史というものを見ていけばいいのか冷静に、世界は単純ではないので、どうしたらこういうふうに巻き込まれていってしまうのかとか、そういうことを理解して、自分たちがそうならないようにどう行動すればいいのかということ、歴史から学ぶというのは多分そういうことなので、そういうことが学べる教科書であってほしいなということと、やはり日本のいろいろなところから上に、大学などに進んでいきますので、あまり皆さんが心配されるような教科書でない方がいいのかなというのは個人的には思います。こんなに皆さんが興味がおありなのはよく分かるのですけれども、どちらかというと学問として歴史学というものの基礎がつかれるような知識とものの考え方が学べる教科書であってほしいなと思っています。

(選定委員長) 他にいかがでしょうか。

(選定委員) いろいろな教科書で学ぶのですけれども、先ほどの委員が言ったように、やはり日本に誇りをもってほしいのですけれども、問題は実際の授業でどう教えていくかということ。いろいろな事実、史実があると思うのです。それらをどう捉えて、授業中に子供たちが考える力をどう育てていくか、学校現場ではそちらの方に力を入れているところだと思うのです。そういうところも、いろいろな教科書を採択されても、やはりたくさん意見が、多面的というか、そういう意見をそろえて子供たちがディスカッションして、正しいかどうか分からないにしても結論を求めていくという力を子供たちに付けさせてやりたい。これは社会に限らずほとんどそうだと思うのですけれども、そのような教科書がいいなと思います。

(選定委員長) ありがとうございます。この件に関しまして他にいかがでしょうか。今のご発言をまとめさせていただいて、それも意見として報告させていただこうと思います。それでは、他の観点からでも結構です。ご感想も含めてご意見はございますか。

(選定委員) よく分からないのですけれども、あくまでも中学校で教えているのは社会という教科です。その社会という教科を教える中で地理と歴史と公民があって、教科書のつながりという話もありましたけれども、どの教科書であろうが、地理で学んだこと、歴

史で学んだこと、そして中学3年生で最後に公民を学び、やはり主権者として、子供たちがこれから将来の社会の中でどんなふうにして政治に参画していくとか、そういったことを学ぶための教科というふうに捉えますので、歴史的な内容について何か細かく勉強するようなものではないので、そういうご意見は当然参考にしなければいけないかなとは思いますが、あくまでも中学校の授業として、社会の授業として、その中の歴史を教えるというものとして、先ほど調査委員長がおっしゃっていたように、あくまでも学習指導要領にのっとって、それぞれの先生が中立の立場で子供たちに考えさせることが大事かなというふうに思います。そういったことも含めた選定になればいいなと思います。

(選定委員長) ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

(選定委員) 歴史の教科書の中身ですけれども、自分たちが学習した中身と記載や記述が変わっている、いわゆる新しい事実に基づいて変わっているような部分もたくさんあるし、活字として編集されるわけですから、編集に携わった人間の研究成果が文字として反映されたときに、どうしてもこれはちょっとなどと思う人もいるだろうという記述にならざるを得ない。そういう意味合いでいえば、いろいろな教科書が文科省としても検定を通さざるを得ない、一定の条件を満たせばということなのかなと。今はインターネットの時代で、中国の主張も、ロシアの主張も、それから韓国の主張もいろいろなところで、いわゆる領土問題にせよ、歴史的ないろいろな問題にせよ、主張がある。その中で子供たちがどう捉え、どう考え、どう判断していったって、それらを未来に生かしていくのかということが中学校の歴史を学ぶ意義なのかなとなるので、大きく偏っていない教科書であれば、先生方に任せていただければよろしいのではないだろうかという感想をもちました。

(選定委員長) ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

私の方から。他の種目よりも非常に市民からの意見も多いのですけれども、いろいろな意見はあるので、もちろん傾聴しながら報告することになるかと思います。けれども、ある面、先ほどここでも議論になっていたように市民でも議論になっていることなのだろうなというふうに感じまして、たくさんの意見が出ているのだろうなと思い、そういうことにも傾聴させていただければというふうに思っております。ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、確認させていただきます。調査委員会の報告書に対して、ただ今審議された内容につきまして、幾つか修正がございました。それを修正させていただき、市民からのたくさんの意見もございましたので、それに傾聴し、社会（歴史的分野）における教科書採択の答申を作成してもよろしいでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) ありがとうございます。お認めいただきました。今回9者と非常に多く、その中で、先ほどの各学校での調査のコメントも含めまして、この報告等を見ますと、選定委員会として、9つのうち評価の高い発行者として、東京書籍、教育出版、帝国書院、

日本文教出版、育鵬社の五つということではいかがかと思うのですけれども、どうでしょうか。委員の皆さま、よろしいでしょうか。掲載順でもう一度確認させていただきますけれども、東京書籍、教育出版、帝国書院、日本文教出版、育鵬社ということになります、よろしいでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) では、お認めいただいたということで、その5者にしたいと思っております。それでは、調査委員長、ありがとうございました。ご退室していただいて結構でございます。

それでは、皆さま、大変お疲れさまでした。大変長い期間、時間をかけて議論していただきまして、ありがとうございます。以上で中学校の全16種目の審議を終了いたしましたので、本当にご協力ありがとうございました。この委員会の責任も、あと私の方でまたいろいろ報告書をまとめさせていただいて、教育委員会の会議に参加して報告させていただこうと思います。ご協力をいろいろとありがとうございました。

それでは、この後のことを事務局にお願いしたいと思います。

閉会・事務連絡

(事務局) 選定委員長、選定委員の皆さま、4日間にわたりまして、答申に向けてご審議いただきまして本当にありがとうございました。

ただ今、委員長からお話がありましたが、今後ご審議いただいた内容を基に答申をまとめさせていただきまして、委員長、副委員長には選定委員会を代表して、教育委員会の採択に係る答申をお願いしたいと思っております。

なお、選定委員長、副委員長におかれましては後日、教育委員会議にご出席いただくこととなりますので、必要な資料もあるかと思えます。会が終わりましたら事務局と打ち合わせをさせていただきます。よろしく申し上げます。

それでは最後に、金沢市教育委員会、教育長が閉会の挨拶を申し上げます。

(教育長) それでは、4日間にわたりまして選定委員長、選定副委員長、そして選定委員の皆さまにおかれましては、令和7年度から本市の中学生が使用するにふさわしい教科書につきまして熱心にご審議いただきました。心から感謝を申し上げたいと存じます。明後日、選定委員会の方から答申を頂戴いたしまして、教育委員会議におきましていよいよ教科書の採択に向けて審議を進めさせていただきたいと存じております。

現行の学習指導要領に基づきまして、主体的・対話的で深い学びの授業の実現に向かって、その根底には子供たちの豊かな学力を育てていくという方向があります。

明年度から新しい教科書において、さらに主体的・対話的で深い学びの実現に向かって一層の努力、そして授業改善をしていきたいと思っております。本当にこれまで熱心にご審議いただきましたことに心から感謝申し上げますとともに、引き続きこれからも金沢市の教育行政に対しまして力強いご支援、ご協力等を賜ることができればうれしく思います。

本当にありがとうございました。

(事務局) 以上をもちまして、第5回金沢市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会を終了いたします。お気を付けてお帰りください。ありがとうございました。

(一同) ありがとうございました。